

Osaka Medical College Faculty of Nursing

# 大阪医科大学看護学部

Osaka Medical College Graduate School of Nursing

# 大阪医科大学大学院看護学研究科

# 年報 2019年度

Annual Report 2019

はじめに

I.	沿革	1
II.	看護学部	
	1. 教員組織	
	1) 教員構成および教員数	2
	2) 教員の補充について	3
	2. 年間事業	
	1) 年間事業活動内容	4
	2) 2019年度看護学部予算執行額	10
	3) 学生在籍数	10
	4) 学事一覧	11
	3. 運営と教育活動	
	1) 運営組織	13
	2) センター	
	(1) 看護学実践研究センター	14
	(2) 看護学教育センター	19
	(3) 看護学学生生活支援センター	29
	3) 委員会	
	(1) カリキュラム委員会	35
	(2) カリキュラム評価委員会	39
	(3) 実習委員会	41
	(4) ウェブサイト委員会	44
	(5) 看護研究雑誌編集委員会	45
	(6) 予算委員会	46
	(7) 物品管理委員会	47
	(8) 就職支援委員会	49
	(9) 国家試験対策委員会	51
	(10) 看護学部年報編集委員会	54
	(11) 看護学部広報委員会	55
	(12) 教員再任審査準備委員会	56
	(13) 本学部看護学生を対象とする研究審査会	57
	(14) 障がい学生支援委員会	58
	(15) 将来構想ワーキング	60
	4) 教育活動	
	(1) 授業科目一覧	61

(2) 各領域の教育活動	67
III. 看護学研究科	
1. 教員組織	
1) 教員構成および教員数	77
2. 年間事業	
1) 年間事業活動内容	77
2) 2019年度看護学研究科予算執行額	79
3) 学生在籍数	79
4) 学事一覧	80
3. 運営と教育活動	
1) 運営組織	82
2) 委員会	
(1) 看護学研究科大学院委員会	83
(2) 看護学研究科カリキュラムワーキング	86
(3) 看護学研究科カリキュラム評価委員会	88
3) 教育活動	
(1) 博士前期課程	
① 授業科目一覧	90
(2) 博士後期課程	
① 授業科目一覧	92
(3) 修了者学位論文タイトル一覧	
IV. 研究活動	
1. 研究実績	
1) 外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況	95
2) 各自の業績（外部資金獲得除く）	99
V. 社会活動	120
VI. 地域・社会貢献	128
VII. その他	130

## はじめに

2019年度の看護学部の活動は大きく2つ挙げることができる。1つは大学基準協会大学評価に向けての準備と2つ目には2021年4月に大阪薬科大学との統合に向けての準備である。

大学基準協会大学評価は本学看護学部が開設してから初めて受審することになる。医学部とともに委員会を発足し、点検・評価を行ってきた。また、受審後1年で看護学教育分野別評価を受ける予定にしているため、今回の受審準備の経験が次に生かせるものとする。

大阪医科大学と大阪薬科大学との統合に向けて、こちらも委員会を発足し取り組んでいる。特に医学、薬学、看護学と3つの医療学部をもつことになることから、多職種連携をキーワードにカリキュラムから実習まで、特徴ある取り組みに向けて準備が進んでいる。

また、2022年度に向けて新カリキュラムの検討を本格的にする必要があり、そのために将来構想の検討にも取り組んだ。これからの社会の変革に対応できる人材を養成するために本学看護学部としてユニークで他に類をみない新カリキュラムが構築することを目標に取り組むことになる。

最後に、2月の保健師助産師看護師の国家試験があり、3職種とも100%の合格となった。医学部においても100%となり、両学部挙げての快挙となり、うれしいニュースで今年度を締めくくることができた。しかし、昨年12月に中国武漢から初めての患者が出た新型コロナウイルスについて情報が世界に発信されてから、あっという間に世界中に広がり、日本でも感染予防対策によって、卒業式、入学式の簡略化がなされた。年度を締めくくる時期に、暗いニュースが席卷していることは残念なことであるが、4月は草花も芽生えはじめ、希望に満ちた新入生も迎えるにあたり、本学看護学部がさらに発展していくために、教職員一丸となって取り組んでいきたいと思う。

看護学部長  
看護学研究科長  
赤澤 千春



# I. 沿革



## 沿革

1927（昭和 2）年	2 月	財団法人大阪高等医学専門学校設置認可
1927（昭和 2）年	4 月	大阪高等医学専門学校開校認可（修業年限 5 年）
1929（昭和 4）年	3 月	大阪高等医学専門学校附属看護婦学校設立認可
1946（昭和 21）年	3 月	大阪医科大学設置認可（旧制大学）
1946（昭和 21）年	4 月	大阪医科大学予科設置
1948（昭和 23）年	2 月	大阪医科大学医学部開学認可
1951（昭和 26）年	3 月	学校法人大阪医科大学認可（組織変さらに依る）
1952（昭和 27）年	2 月	大阪医科大学設置認可（新制大学）現在に至る
1952（昭和 27）年	3 月	大阪高等医学専門学校廃校
1959（昭和 34）年	3 月	大阪医科大学大学院医学研究科設置認可
1965（昭和 40）年	1 月	大阪医科大学進学課程設置認可
1978（昭和 53）年	4 月	大阪医科大学附属看護専門学校設置認可
1982（昭和 57）年	12 月	大阪医科大学附属看護専門学校 3 年課程（全日制）設置認可
2009（平成 21）年	10 月	大阪医科大学看護学部設置認可
2010（平成 22）年	4 月	大阪医科大学看護学部開設
2012（平成 24）年	3 月	大阪医科大学附属看護専門学校閉校
2013（平成 25）年	10 月	大阪医科大学大学院看護学研究科設置認可
2014（平成 26）年	4 月	大阪医科大学大学院看護学研究科開設



## Ⅱ. 看護学部



## 1. 教員組織

### 1) 教員構成および教員数

教員定員は 41 名である。

令和 2 年 3 月 31 日現在

#### 【看護系教員】

領 域	教員構成 ( ) 内は定員数					現在の欠員 (職位)
	教授	准教授	講師	助教	定員数	
基礎看護学	1 (1)	1 (2)	2 (0)	1 (2)	5 (5)	
急性期成人看護学	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (1)	2 (3)	1 (助教)
慢性期成人看護学	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)	
精神看護学	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)	
老年看護学	0 (1)	1 (1)	1 (0)	0 (1)	2 (3)	1 (助教)
小児看護学	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)	
母性看護学・助産学 (コース選択6名)	1 (1)	0 (3)	2 (0)	1 (1)	4 (5)	1 (准教授)
在宅看護学	1 (1)	0 (1)	1 (0)	1 (1)	3 (3)	
公衆衛生看護学 (コース選択40名)	1 (1)	2 (3)	0 (0)	2 (1)	5 (5)	
看護実践発展	2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	
計	10 (11)	9 (15)	6 (0)	9 (11)	34 (37)	3

#### 【医学系・人文社会系教員】

領 域	教員構成 ( ) 内は定員数					現在の欠員 (職位)
	教授	准教授	講師	助教	定員数	
精神医学	1 (1)	0	0	0	1 (1)	
公衆衛生学	1 (1)	0	0	0	1 (1)	
内科学	1 (1)	0	0	0	1 (1)	
哲学	0 (1)	1 (0)	0	0	1 (1)	
計	3 (4)	1 (0)	0	0	4 (4)	

令和元年度の教員の異動は下記の通りである。

#### 【採用】

平成 31 年 4 月 1 日付で、助教 2 名（小児看護学、公衆衛生看護学）を採用した。

令和元年 5 月 1 日付で、講師 1 名（母性看護学・助産学）を採用した。

#### 【退職】

平成 30 年 6 月 30 日付で、助教 1 名（小児看護学）が退職した。

平成 31 年 3 月 31 日付で、助教 2 名（老年看護学，小児看護学）が退職した。

**【非常勤教員の採用】**

平成 31 年 4 月 1 日付で、1 名（基礎看護学）を採用した。

**【実習補助員の採用】**

小児看護学（1 名），母性看護学・助産学（1 名），慢性期成人看護学（1 名）の各実習期間内で不定期雇用した。

2) 教員の補充について

教員の欠員に対しては，非常勤教員または実習補助員を採用した。

教員の定員数が充足している領域においても，実習施設が附属病院以外の外部施設を使用した小児看護学では実習補助員を雇用した。

## 2. 年間事業

### 1) 年間事業活動内容

看護学部では表に示すように各センターや委員会が年間計画を立案し、教育および研究の向上を目指し事業を実施している。2019年度に実施した主な事業を報告する。

#### (1) 教育活動について

教育活動に関しては、教育センターが主となり、学生の授業評価、教育の質向上のためのFD活動や教育講演の企画、教育機器の整備等を実施している。詳細は教育センターが報告している。

学生への対応では、2018年度より実習委員会と学生生活支援センターが主となり、障がいのある学生に対する実習中の合理的配慮に基づいた対応を行っており、2019年度も特に問題なく終了するに至った。このことより、マニュアルは有効であったと考えられ、これを踏まえて実習に限らず、教育全般に対する障がいのある学生への対応の規定が作成された。

入試制度に関して、2020年度の入試から特別奨学金貸与推薦入試制度（専願制）を廃止し、さまざまな潜在的能力を有し、入学後の学修に対する強い意欲をもつ学生（社会人を経て学び直しを志す者、地域医療に貢献したい者、科学や芸術などで優れた能力を持つ者などの多様な人材）を育成するために総合型選抜入試（AO入試）である「建学の精神入試」（専願制）を導入した。2020年度の募集は3名であったが、10名の応募があり、論文試験、面接を経て3名の合格となった。

学生のグローバル化としての国際交流はこれまで交流してきた台北医学大学に加え、ミネソタ州立大学マンケート校への初めての派遣を行った。全学年から3名の応募があり、引率教員と共に10日間にわたる研修を受けた。学生の学びは多く、今後も交流を進めていくことは有意義であると考えられる。また、現在は2校のみの交流校であるが、今後はアジアやヨーロッパに対しても交流を広げていく準備を始める必要がある。また、英語会話能力の向上を目指し、2017年度からPA会の資金援助のもと、看護学実践研究センターが企画し、正課の英語の授業外に英会話教室を定期的で開催している。しかし、クラブ活動等の都合により学生の参加者が少なく、主体的参加者を増やすことが課題となっている。

#### (2) 研究活動について

文部科学省科学研究費に関しては、多くの教員が申請し、採択率も高く活発に研究活動を実施している。

また、文部科学省平成29年度『私立大学研究ブランディング事業』が採択され、「オミックス医療に向けた口腔内細菌叢研究とライフコース疫学研究融合による少子高齢中核市活性化モデル創出」の事業に看護学部も参画している。この活動への助成金は2019年度で終了となっているが、今後も「たかつきモデル」として継続していくことが決定している。この活動に看護学部は2018年10月からは、健康啓蒙活動として「カムカムサロン come-kamu salon」を開設し、毎週火曜日の午後1:30~3:00にミニレクチャーと血圧測定や口腔内細菌数の測定などのさまざまな測定を行っており、今後も継続していくこととしている。

#### (3) 社会貢献について

看護学部の事業としては、看護学実践研究センターが主となり、市民看護講座、人材育成講座を開催している。各教員の活動および詳細は、それぞれが報告している。

#### (4) 管理・運営全般

##### ①教員の質担保について

准教授および講師候補者の選考に関して、准教授および講師候補者審査運営要領を定め、教員の質を担保するために評価基準を制定した。

##### ②カリキュラム委員会とカリキュラム評価委員会について

カリキュラム委員会は外部委員も入れて、初めてのカリキュラムについての評価を行った。詳細は委員会報告で述べている。また、2022年度に向けての新カリキュラムの骨格が厚生労働省から出され、それに合わせて、本学部も将来構想ワーキンググループを設け、将来の本看護学部の教育の姿勢について検討した。カリキュラム委員会はそれを受けて新カリキュラムの検討の準備に入っている。さらに、看護学教育カリキュラムについて継続的な評価をするためのカリキュラム評価委員会は外部委員を入れて初めての評価を行った。詳細は委員会報告で述べている。このようにカリキュラムについてのPDCAサイクルが実行される体制が整っている。

##### ③教育環境整備

能動的な学習を促進するため教室の環境整備としてノート型PC95台とサーバを利用した授業支援システムが導入されており、そのシステムを利用する科目も増えてきた。

また、演習室の不足により、学生が自習できる個室が少ないことから、演習室を教室形式にして自由に使用できるようにした。

#### 2019年度看護学部年間計画

看護学部	<p>【学部教育の質的転換】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 教育の質向上（教育の質的転換：タイプ1の実施、高大接続の取り組み、カリキュラム評価等）の推進</li><li>2. FDの推進</li><li>3. 大学病院，三島南病院，地域包括医療センターとの連携・協働の推進</li></ol> <p>【国際交流】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 山西医科大学看護学部との協定締結</li><li>2. 中山国際医学医療交流センターとの連携</li><li>3. アジア圏留学生受け入れの推進(台北医科大学，山西医科大学)</li><li>4. 米国の看護学部との国際交流の推進</li></ol> <p>【研究拠点形成】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 科研費等公的外部資金獲得の推進（基盤B）</li><li>2. 海外との共同研究の推進</li><li>3. 産官学連携サステナビリティ事業およびブランディング事業への参画</li></ol>
看護学実践研究センター	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 第4回大阪医科大学看護研究会の開催</li><li>2. 情報発信として英語版パンフレットの作成およびHPの更新</li><li>3. 人材教育セミナーの企画・開催，附属病院研修会への講師派遣</li><li>4. 市民看護講座の企画・開催，高槻フェスタへの参画</li><li>5. ミネソタ州立大学マンケート校研修への学生の派遣</li><li>6. 台北医学大学の研修生の受入れと研修への学生の派遣</li></ol>

<p>看護学教育 センター</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程に関すること(①新カリキュラムの運用等, ②授業・実習評価に関する事項, ③カリキュラム評価に関する事項(カリキュラム委員会と連携), ④2年次までの基礎医学の知識の活用に対する課題と対策, ⑤共通事例の評価, ⑥実習ポートフォリオ検討(実習委員会と連携), ⑦追試験・追実習の上限の見直し)</li> <li>2. 卒業時到達目標に関すること(学位授与基準, 卒業生評価への継続調査)</li> <li>3. 4年次選択の方法の検討(卒業研究, 保健師および助産師国家試験受験資格希望の選抜)</li> <li>4. 適正な成績評価・進級判定と学生指導(GPAの活用)</li> <li>5. 教育環境整備の充実(機器活用評価, セルフトレーニング室)</li> <li>6. FD企画と実施</li> <li>7. 公開授業(授業見学)に関する事項</li> <li>8. 医看融合教育の運営と充実(医療人マインド, 専門職連携医療論, 医看融合ゼミ, 医看融合カンファレンス, 地域医療実習, 大阪薬科大学学生の参画に関する検討)</li> <li>9. アクティブ・ラーニングの推進に関する事項</li> <li>10. ベストティーチャー賞選出方法の決定</li> <li>11. 私立大学等改革総合支援事業の取り組み(タイプ1)</li> <li>12. その他</li> </ol>
<p>看護学学生生活 支援センター</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総代・副総代との連絡会</li> <li>2. (チューター制度)チューターが活動しやすい, 学生が相談しやすい環境作り(継続)</li> <li>3. (学勢調査)医学部看護学部合同の調査内容の見直し, 実施</li> <li>4. (奨学金)特別奨学金貸与規定変さらに伴う毎年の適格審査の貸与基準の修正</li> <li>5. (健康管理)保健管理室との連携の一層の緊密化(継続)</li> <li>6. (学生からの要望に対する対応)意見箱の運用, 懇談会の実施</li> <li>7. (学生自治)学生が自ら話し合い, 学生生活の問題を解決していくことの支援, 学友会役員選考支援, 謝恩会準備の支援</li> <li>8. (新入生学外合宿)薬学部との合同参加への取り組み,</li> <li>9. HPの内容の充実</li> <li>10. 学習環境の整備</li> <li>11. 正課外活動の作成</li> </ol>
<p>カリキュラム 委員会</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アセスメント・ポリシー策定に関すること</li> <li>2. 教育課程の運営に関すること <ol style="list-style-type: none"> <li>1) カリキュラム評価に関する事項(学勢調査に含む・外部委員・学生委員の会議参加・卒業生へのアンケート調査)</li> <li>2) 卒業時到達目標の自己評価との関連</li> </ol> </li> </ol>

	<p>3) 教員を対象としたカリキュラム評価に関するアンケートの立案と実施</p> <p>4) ティーチングポートフォリオ作成に関すること</p> <p>3. その他</p> <p>1) 非常勤, 兼担教員への看護学部学生の学習に対する姿勢や態度, 日頃の学習行動に関する調査</p> <p>2) カリキュラム見直し案検討</p>
カリキュラム 評価委員会	<p>1. カリキュラムの評価方法の検討と決定</p> <p>2. カリキュラムに関する評価項目（大項目・中項目・小項目）と評価するための資料の検討および決定</p> <p>3. 外部委員, 学生委員, 学内委員が共通に使える評価表の作成</p> <p>4. 2018 年度を対象としたカリキュラム評価の実施と意見交換報告書の作成</p>
実習委員会	<p>1. 実習連絡協議会の企画・運営, 協議会のあり方に関する検討</p> <p>2. 実習オリエンテーションの企画, 運営</p> <p>3. 看護学実習要綱（共通事項）, 各領域別実習要項, 広域統合看護学実習要項等の修正と取りまとめ</p> <p>4. 臨地実習における障がいのある学生への支援</p> <p>5. 領域別実習のグループ編成, 看護学実習に関する調整, 年間計画の立案</p> <p>6. 実習状況に関する情報共有</p> <p>7. 対応困難な学生への対応に関する意見交換会の開催, FD 研修会の企画</p> <p>8. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント分析と今後の対策の検討</p> <p>9. 実習前の倫理学習に関する学生および教員へのアンケート調査の実施, まとめ</p> <p>10. 感染症対策（ワクチン接種状況, 感染予防等）に関わる調整</p> <p>11. 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う実習における対応について検討</p> <p>12. 看護学実習における個人情報取り扱いに関する取り決め事項（案）作成</p>
ウェブサイト 委員会	<p>1. 看護学部教員・各領域に関する情報更新</p> <p>2. 学部長あいさつ, トップページ写真等の更新</p> <p>3. 各センター・委員会関連ページの更新・充実</p> <p>4. 看護学部年報, 看護研究雑誌の最新号掲載</p> <p>5. その他必要な更新および情報公開（随時）</p>
看護研究雑誌 編集委員会	<p>1. 第 10 巻発行と投稿への働きかけ</p> <p>2. 必要により学外者も含めての 2 名の適正な査読体制の維持</p> <p>3. 査読のシステムに関する評価と今後のあり方の検討</p>
予算委員会	各部署等より提出された予算案を基に作成された 2019 年度看護学部予算案の審議・執行

	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学生の教育, 学生の実習に係る備品等</li> <li>② 各センターおよび各委員会に係る活動費</li> <li>③ 教員の研修等に係る活動費</li> <li>④ 教員の交通費</li> <li>⑤ 実習補助員に係る諸経費</li> <li>⑥ 看護学事務課に係る諸経費</li> <li>⑦ その他, 学部長が必要と認めたもの</li> </ul>
物品管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 教務関係備品等・消耗品の在庫管理と点検</li> <li>2. 教務関係備品の貸出管理</li> <li>3. 固定資産備品の確認・点検</li> <li>4. 固定資産台帳および物品管理台帳の整理</li> <li>5. 実習室, 器材庫, 実験室等の整備</li> <li>6. 各種申し合わせ事項等の見直しと改正</li> <li>7. 2020年度教務関係物品購入予算案の作成</li> </ul>
就職支援委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 学生に対する就職情報提供</li> <li>2. 学生の就職活動力強化のためのサポート</li> <li>3. 教員の就職活動支援力向上のためのサポート</li> <li>4. 就職活動および内定状況の把握</li> <li>5. 卒業生と在校生の交流の機会を設け, 情報提供の充実をはかる</li> <li>6. 卒業生に関するアンケート調査</li> <li>7. 就職・キャリアサポート支援内容の学生ガイドへの掲載</li> <li>8. 来校人事担当者との対応による情報収集</li> <li>9. HPの更新</li> </ul>
国家試験対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続</li> <li>2. 2019年度国家試験対策の模試および対策講座の実施</li> <li>3. 2020年度国家試験対策の企画および予算案の作成</li> <li>4. 国家試験対策活動の保護者への周知</li> <li>5. 模試成績不良者の対策: 講座への出席率を向上させる方策の検討, チューターとの情報共有およびさらなる協働方法の検討</li> <li>6. 国家試験対策(模試および対策講座)の評価</li> </ul>
看護学部年報編集委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 2018年度年報の取りまとめ・発行</li> <li>2. 2018年度年報のHP上での公開</li> <li>3. 2019年度年報の取りまとめ</li> </ul>
看護学部広報委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. オープンキャンパス(OC)企画・運営</li> <li>2. 進学ガイダンス出向の調整・実施</li> <li>3. 看護学部案内の企画</li> </ul>
教員再任審査準備委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 任期付き教員の再任用に関する規程の整理</li> <li>2. 看護学部任期付教員の再任手続きに関する細則(案)の作成</li> <li>3. 再任用基準(案)の作成</li> </ul>

<p>本学部看護学生 を対象とする 研究審査会</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究協力依頼方法の HP での公開</li> <li>2. 研究審査書類の不足・不備の確認および研究協力依頼申請者への再提出の依頼</li> <li>3. 研究協力受諾の可否の審議</li> <li>4. 研究協力依頼申請者への審議結果の通知</li> </ol>
<p>障がい学生 支援委員会</p>	<p>次の各号に掲げる事項について審議し，その実施にあたる．</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義・演習・実習の課題に関すること</li> <li>2. 支援体制に関すること</li> <li>3. 施設・設備の整備に関すること</li> <li>4. その他，障がいのある学生への支援に関する必要なこと</li> </ol>
<p>将来構想 ワーキング</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学部・看護学研究科の将来構想に対する教員からの意見聴取を行う．</li> <li>2. 看護学部・看護学研究科の将来構想の報告書を作成する．</li> <li>3. 領域再編および各領域における教員定数の検討する．</li> </ol>

## 2) 2019 年度看護学部予算執行額

### 2019 年度予算執行額

予算執行額 67,735,969 円

#### 【内訳】

看護学部教育経費 42,729,919 円

看護学部奨学金経費 25,000,000 円

看護学部研究活動経費 6,050 円

## 3) 学生在籍数

(2019 年 5 月 1 日現在)

学年 (入学定員)	1 年 (85)	2 年 (85)	3 年 (85)	4 年 (85)	合計 (340)
男	3	3	2	1	9
女	84	83	88	84	339
計	87	86	90	85	348

\*2019.5 以降 3 名退学者有 2020.3 現在

1 年生 女 82 名, 3 年生 女 87 名

## 4) 学事一覧

### (1) 看護学部学事一覧

表 1 参照

令和2年度学事予定表 教職員用 vol.5

2020.1.28  
基礎Ⅱオリエンテーション日程変更、基礎Ⅰ日程変更、1年進捗時期間変更  
看護実践発展実習オリエンテーション日程変更、助産学実習日程変更

表1 看護学部 2019年度学事一覧

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
日曜	内容	曜	内容	曜	内容	日曜	内容	曜	内容	曜	内容
1	オリエンテーション	金	金④	月	創立記念日	水①	水①	土	2年生進級オリエンテーション 2年進級特別実習(看護実践発展実習)日程 3年生学校実習特別実習(看護実践発展実習)日程 探検船初日(15:30)	火	公衆衛生看護学実習Ⅱ 助産学実習 看護実践発展実習Ⅰ
2	オリエンテーション 看護学部臨時教授会 14~	土		火	火⑤	木②	木②	日	2年生進級オリエンテーション 2年進級特別実習(看護実践発展実習)日程 3年生学校実習特別実習(看護実践発展実習)日程 探検船初日(15:30)	水	公衆衛生看護学実習Ⅱ 助産学実習 看護実践発展実習Ⅰ
3	入学式	日	憲法記念日	水	水⑦実習連絡協議会(予定)	金③	金③	月	選考結果発表	木	公衆衛生看護学実習Ⅱ 助産学実習
4		月	みどりの日	木	木⑧	土	土	火	選考結果発表発表会&手紙	金	
5		火	こどもの日	金	金⑨	日	日	水	選考結果発表発表会&手紙	土	
6	前期授業開始	水	水⑧替休日	土	土⑩祭り	月	月⑪多職種融合(連携)ゼミ	木	選考結果発表発表会&手紙	日	基礎Ⅱオリエンテーション
7		木	木⑤	日	日	火	火⑬	金		月	
8	看護学部教授会 15~	金	金⑤	月	月⑫	水	水⑫看護学部教授会15~	土		火	公衆衛生看護学実習Ⅱ 助産学実習 看護実践発展実習Ⅰ
9	看護診断:4年 13~	土	土	火	火⑨	木	木⑭	日		水	看護学部教授会15~
10	看護診断:3年 13~	日	日	水	水⑧	金	金⑭	月	山の日	木	
11	看護診断:4年 13~	月	月⑤	木	木⑩	土	土	火	節電による閉室(予定)	金	
12		火	火⑤	金	金⑩	日	日	水	節電による閉室(予定)	土	
13		水	水④	土	土	月	月⑬	木	選考結果発表発表開始	日	
14	看護学部教授会 15~	木	木⑥	日	日	火	火⑭	金		月	
15	看護学部教授会 15~	金	金⑥	月	月⑨	水	水⑬	土		火	公衆衛生看護学実習Ⅱ 助産学実習 看護実践発展実習Ⅰ
16	新入生学外合宿	土	土	火	火⑩	木	木⑮	日		水	公衆衛生看護学実習Ⅱ 助産学実習 看護実践発展実習Ⅰ
17	新入生学外合宿	日	日	水	水⑨	金	金⑮	月		木	公衆衛生看護学実習Ⅱ 助産学実習 看護実践発展実習Ⅰ
18		月	月⑥	木	木⑩	土	土	火		金	
19		火	火⑥	金	金⑩	日	日	水		土	
20	学科会議 15~	水	水⑤	土	土⑪PA総会	月	月⑭	火		日	
21	学科会議 15~	木	木⑦	日	日	火	火⑮	月		月	敬老の日
22	看護学研究科教授会15~	金	金⑦	月	月⑩	水	水⑭	土		火	秋分の日
23		土	土	火	火⑪	木	木	日		水	看護学研究科教授会15~ 看護学部臨時教授会
24		日	日	水	水⑩	金	金	月		木	
25	看護診断:2年 13~	月	月⑦	木	木⑫	土	土	火		金	
26		火	火⑦	金	金⑫	日	日	水		土	
27		水	水⑥	土	土	月	月⑮	火		日	
28		木	木⑧	日	日	火	火⑮	月		金	
29	昭和の日	金	金⑧	月	月⑩	水	水⑮(1年のみ)要調整※	火		土	
30		土	土	火	火⑫	日	日	日		日	
31		日	日	水	水⑫	月	月⑮(1年のみ)要調整※	月		月	

※試験期間確保のため、7/26までのどこかに時間割を組み入れる必要あり

備考:統合看護学実習は各領域で6月~11月までに実施予定

令和2年度学事予定表 教職員用 vol.5

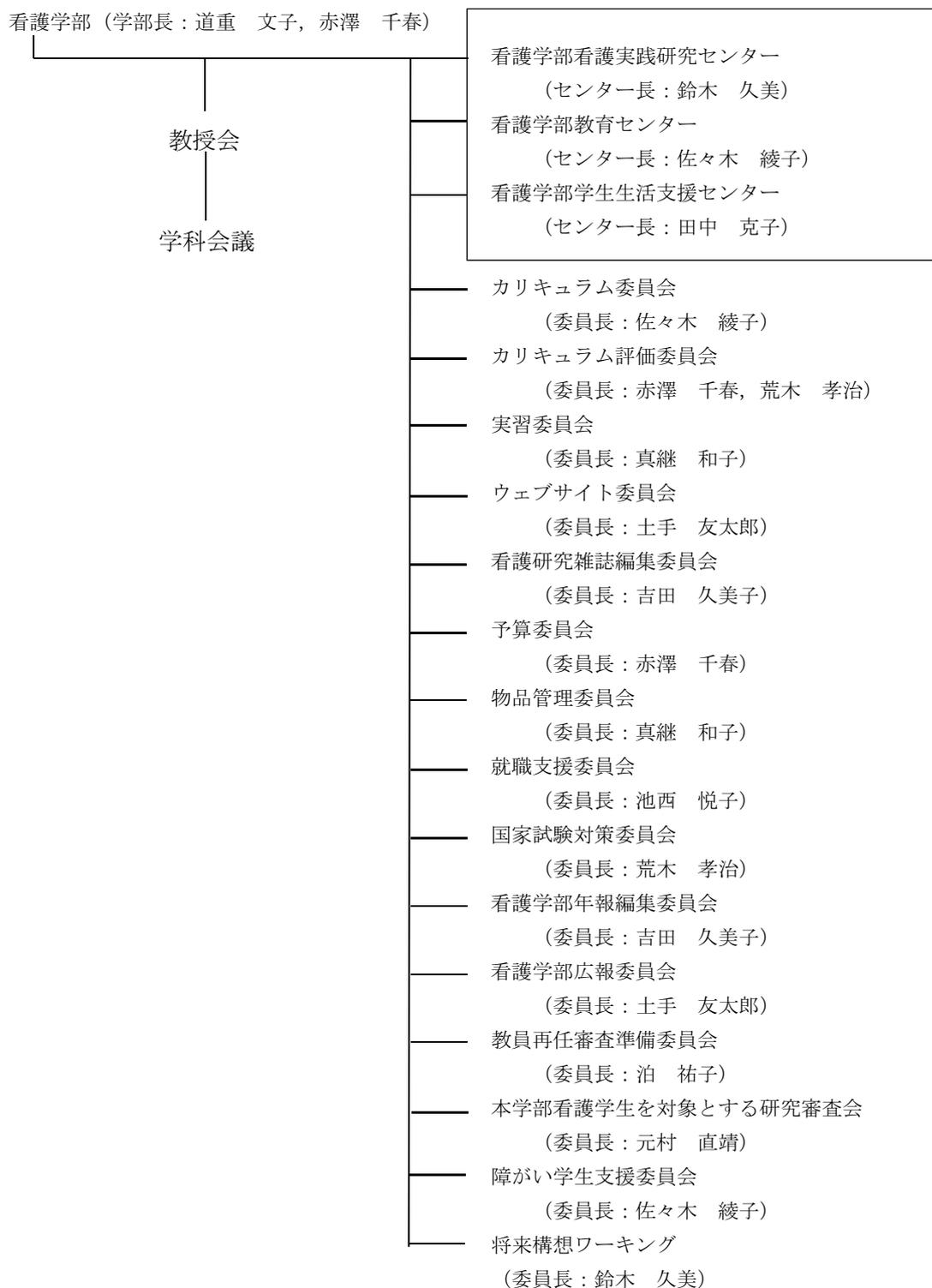
2020.1.28  
基礎IIオリエンテーション日程変更、基礎I日程変更、基礎I年進再試験期間変更  
看護実践演習オリエンテーション日程変更、助産学実習日程変更

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
日曜	内容	曜	内容	曜	内容	日曜	内容	曜	内容	曜	内容
1	木① 1~4年後期授業開始	日	火③	1	金 元日	月	火 探点締切 08:00	月	火 探点締切 08:00	月	火 次年度履修登録ガイダンス(新4年)9~16時 通試申込書着番表
2	金①	月	水③	2	土	2	土	火	火 遠征証状発表会	火	火 看護学部教授会15~
3	土	火	木④	3	日	3	日	水	水 遠征証状発表会	水	水 看護学部教授会15~
4	日	水	水⑤	4	月	月②	月②	木	木 遠征証状発表会発表表と通試再試験申込書 手続	木	木 卒業式 進級発表
5	月①	木	木⑥	5	火	火②	火②	金	金 遠征証状発表会手続完了	金	金 卒業式 進級発表
6	火①	金	金⑥	6	水	水③	水③	土	土 看護学部教授会15:00~	土	土 看護学部教授会15:00~
7	水①	土	土⑥	7	月	月③	月③	日	日 卒業発表 14:00~ 卒業判定	日	日 卒業発表 14:00~ 卒業判定
8	木②	日	日⑥	8	火	火③	火③	月	月 4年成績開示 探点登録開始	月	月 4年成績開示 探点登録開始
9	金②	月	月⑥	9	水	水④	水④	火	火 看護学部教授会15:00~	火	火 看護学部教授会15:00~
10	土	火	火⑤	10	木	木④	木④	水	水 看護学部教授会15:00~	水	水 看護学部教授会15:00~
11	日	水	水⑥	11	金	金④	金④	木	木 建国記念の日	木	木 建国記念の日
12	月②	木	木⑦	12	土	土④	土④	金	金 卒業演習説明(新4年)17~18時	金	金 卒業演習説明(新4年)17~18時
13	火②	金	金⑦	13	日	日④	日④	土	土 看護学部教授会16:30~	土	土 看護学部教授会16:30~
14	水②	土	土⑦	14	月	月④	月④	日	日 看護学部教授会16:30~	日	日 看護学部教授会16:30~
15	木③	日	日⑦	15	火	火④	火④	月	月 看護学部教授会16:30~	月	月 看護学部教授会16:30~
16	金③	月	月⑦	16	水	水④	水④	火	火 看護学部教授会16:30~	火	火 看護学部教授会16:30~
17	土②	火	火⑥	17	木	木④	木④	水	水 看護学部教授会16:30~	水	水 看護学部教授会16:30~
18	日	水	水⑦	18	金	金④	金④	木	木 看護学部教授会16:30~	木	木 看護学部教授会16:30~
19	月③	木	木⑧	19	土	土④	土④	金	金 看護学部教授会16:30~	金	金 看護学部教授会16:30~
20	火③	金	金⑧	20	日	日④	日④	土	土 看護学部教授会16:30~	土	土 看護学部教授会16:30~
21	水③	土	土⑧	21	月	月④	月④	日	日 看護学部教授会16:30~	日	日 看護学部教授会16:30~
22	木④	日	日⑧	22	火	火④	火④	月	月 看護学部教授会16:30~	月	月 看護学部教授会16:30~
23	金④	月	月⑧	23	水	水④	水④	火	火 看護学部教授会16:30~	火	火 看護学部教授会16:30~
24	土③	火	火⑦	24	木	木④	木④	水	水 看護学部教授会16:30~	水	水 看護学部教授会16:30~
25	日	水	水⑧	25	金	金④	金④	木	木 看護学部教授会16:30~	木	木 看護学部教授会16:30~
26	月④	木	木⑧	26	土	土④	土④	金	金 看護学部教授会16:30~	金	金 看護学部教授会16:30~
27	火④	金	金⑧	27	日	日④	日④	土	土 看護学部教授会16:30~	土	土 看護学部教授会16:30~
28	水④	月	月⑧	28	月	月④	月④	日	日 看護学部教授会16:30~	日	日 看護学部教授会16:30~
29	木⑤	火	火⑧	29	金	金④	金④	月	月 看護学部教授会16:30~	月	月 看護学部教授会16:30~
30	金⑤	水	水⑧	30	土	土④	土④	火	火 看護学部教授会16:30~	火	火 看護学部教授会16:30~
31	土	木	木⑧	31	日	日④	日④	水	水 看護学部教授会16:30~	水	水 看護学部教授会16:30~

備考:基礎看護学実習Iについては10月8日~12月10日の期間、毎週木曜日に行う

### 3. 運営と教育活動

#### 1) 運営組織（センターおよび委員会組織図）



2) センター

センター名	(1) 看護学実践研究センター
目的	本センターは、本学部内、大学内をはじめ外部機関および地域社会における看護実践の課題に関する研究を推進するとともに、その成果を発信することを使命とする。
構成員	鈴木久美（委員長）、真継和子（副委員長）、草野恵美子、小林道太郎、竹 明美、樋上容子、柴田佳純、原 明子、山本暁生、藤井智子（学部長室付事務）
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第4回大阪医科大学看護研究会の開催</li> <li>2. 情報発信として英語版パンフレットの作成およびHPの更新</li> <li>3. 人材教育セミナーの企画・開催、附属病院研修会への講師派遣</li> <li>4. 市民看護講座の企画・開催、高槻フェスタへの参画</li> <li>5. ミネソタ州立大学マンケート校研修への学生の派遣</li> <li>6. 台北医学大学の研修生の受入れと研修への学生の派遣</li> </ol>
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員会の開催 11回の定例委員会と1回の臨時委員会を開催した。</li> <li>2. 研究支援・情報発信             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 第4回大阪医科大学看護研究会企画 講師 鯨岡峻先生（京都大学名誉教授）による講演「質的研究の構築と発展～理論から実践へ～」，研究活動報告として示説発表を2020年3月7日開催予定で企画した。示説発表は学内外から16演題の応募があったものの，新型コロナウイルス感染症の発生に伴い感染拡大防止のため急遽中止となった。中止については演題登録者および事前参加申込者には，メールおよび学外関係施設には文書およびHPにて周知した。中止に際し大きな混乱もなく対応できた。</li> <li>2) 英語版パンフレットの作成 昨年度に作成した本学看護学部および看護学研究科の教育目標や教育内容の特徴および教員の研究テーマなどを含んだ英語版パンフレットを英語版HPの更新に合わせて内容を更新し，HPに掲載するとともに海外研修生へのオリエンテーションなどの際に使用した。</li> <li>3) HP更新 実践センターの実施した活動について活動後にニュースを更新し情報発信を行った。ミネソタ州立大学マンケート校への派遣研修について情報をより充実させ，国際交流のページからのリンクを設置した。</li> <li>4) 教員および学生の発表済ポスターの常設掲示を4月，9月に行った。計6題（うち学生1題）のポスターを掲示した。</li> </ol> </li> <li>3. 生涯学習・研修支援             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人材育成教育セミナー 日 時：2019年10月5日（土） 参加人数：40名 テーマ：「怒りんぼ，だまりんぼ，は損をする！みんなでWin-Win－ナースのためのアンガーマネジメント－」</li> </ol> </li> </ol>

講師：井上 泰世（株式会社ナースハート）

感情の1つである「怒り」の性質や問題となる怒りについて振り返ったうえで、アンガーマネジメントの実践テクニックについて衝動のコントロールや上手に叱るコツなど演習を盛り込み教授された。附属病院および7カ所の地域関連施設から参加者の来場があった。アンケートでは、「自分の怒りの傾向や程度を知ることができた」「アンガーマネジメントの具体的手法がわかった」等の評価を得た。

2) 大阪医科大学附属病院 看護研究セミナー（各参加人数30名程度）

- 文献検索 検索方法や文献の読み方 2019年9月
- 看護研究の意義と方法、研究における倫理的配慮 2019年8月
- 看護研究計画書 2019年10月
- 量的研究の方法 質問紙の作成・統計処理 2019年11月
- 質的研究の方法 インタビューガイドの作成 データ分析 2019年12月
- 論文作成 2020年2月
- 研究発表・プレゼンテーション 2020年2月（新型コロナウイルス感染拡大のため中止となる）

看護師を対象とし、看護ラダーⅡ～Ⅳ別に上記テーマで看護研究セミナーを各1回実施した。

3) 第8回市民看護公開講座の開催

日時：2019年11月9日（土）10:00～12:00 参加者数：118名

テーマ：何歳になっても鍛えられる！シニアに適したトレーニングで健康長寿！

講演Ⅰ：「シニアに適した生活習慣で健康長寿！～食事編～」

講師：壇上 明美（大阪医科大学附属病院）

講演Ⅱ：「何歳になっても鍛えられる！シニアに適したトレーニングで健康長寿！」

講師：田畑 泉（立命館大学スポーツ健康科学部）

講演Ⅰでは、食事と生活習慣病との関係やフレイルについて、セルフチェックなども取り入れながら、スライドや資料を用いて説明があった。講演Ⅱでは、中高年期の生活習慣病の予防や高齢期における認知症等の予防の必要性とともに、日常的な身体活動を増やしていくコツや具体的な健康トレーニングの説明がなされた。また、実際に簡単なトレーニングを実施し、参加者の興味・関心を高めた。アンケート結果では（回収率83.9%）、参加者は20歳代～70歳代、「大変よかった」「よかった」が講演Ⅰ97%、講演Ⅱ94%であり、いずれも好評であった。食事および運動に関して、何歳になっても自分に適した生活習慣改善ができるという内容であり、「わかりやすく早速生活のなかに取り入れたい」「健康トレーニングの方法がわかった」といった意見があり健康長寿に向けた主体的な健康づくりへの参考になったと考えられる。中高年者にとって関心の高いテーマであり集客数は多かったものの、講演Ⅱでは簡単な運動が取り入れられたため開催場所についての課題が残った。

4) 第15回たかつきNPO協働フェスタへの参画

日時：2019年9月27日（日）10:00～15:00 参加者数：約80名

高槻市生涯学習センターにて市民を対象に、健康チェック（血圧測定、体脂肪測定）、足指力測定と転倒予防指導、健康相談を実施した。また、手洗いチェッカーの体験をしていただくなど、健康への関心を高める機会となった。今年度はスタッフとして学部生3名の参加もあり、市民の方々との交流を楽しむ姿があった。

#### 5) 次年度カムカムサロンの企画

2020年度より高槻ブランディング事業の一環であったカムカムサロンの企画が本センターの事業となったことを受け、サロンの目的および運用方法、実施に向けた課題を明らかにするため、12月に学部教員を対象としたアンケート調査を実施した（回収率41.0%）。課題として、「運営目的の明確化」「時間・人材・運営費の確保」があがった。これまでの経緯を踏まえつつ、サロンの目的、運営主体および運用方法について提示し、学部教員の理解と協力を得た。具体的な開催日程、プログラム等を企画するとともに、参加者らの学内での事故・ケガ等をした場合の保険加入の手続きを行った。

#### 4. 国際交流の促進

##### 1) ミネソタ州立大学マンケート校研修への学生の派遣

日時：2019年8月31日（土）～9月8日（日）

学生数：3名（4年生，3年生，2年生 各1名）

研修プログラムの内容は、マンケート校看護学部での講義、演習への参加、学生との交流、メイヨークリニック見学、オーガスバーグ大学ロチェスター校訪問、サルベーションアーミー訪問などであった。

研修後のアンケートでは、医療現場・地域の施設訪問、大学の講義演習見学および現地学生との交流をとおして、アメリカの保険制度や教育制度を学び、日本との相違点を理解することができ有意義であったと回答していた。研修中、数箇所のホテルに滞在したことから過密スケジュールであったという意見や、今後は1カ月程度の短期留学や本学部の英語の単位修得として認めてほしいという要望があった。詳細はミネソタ州立大学マンケート校研修実施報告書に記載している。

##### 2) 台北医学大学（TMU）より研修の受入れ

日時：2019年7月1日（月）～7月12日（金）

学生数：10名（看護学専攻，高齢健康管理学専攻）

TMU側の要望を受けて、今年度は昨年度より2週間早い時期に実施した。研修プログラムの内容は、本学学部生との交流、学内での研修・講義、高齢者施設や実習病院の見学、高槻市出張講義等であり、その計画と実施には、各領域とその関連施設、大阪医科大附属病院看護学部の協力を得た。最終日に成果発表を行い、全員に中山国際医学医療交流センターより修了証を授与した。プログラム終了後、研修生にアンケートを行った結果、プログラムの内容、教員・関係者の対応等に対して高い評価が得られた。

##### 3) TMUへの学生派遣

看護学部3年生4名を選抜し、2020年3月16日～27日まで派遣予定であったが、新型コロナウイルス感染症の発症拡大予防のため、学生派遣を中止した。

	<p>4) 海外研修報告会</p> <p>日 時：2019年11月19日（火）16:30～18:10</p> <p>参加者：17名（発表者4名，学生2名，保護者1名，教員10名）</p> <p>2018年度台北医学大学研修参加者（2名）および2019年度ミネソタ州立大学マンケート校研修参加者（3名）が，各30分程度のプレゼンテーションを行った。内容は研修報告および今後研修参加を希望する学生へのメッセージを含めたものであった。宣伝・勧誘したにもかかわらず学生の参加者が少なかったため，今後，海外研修説明会と合わせて行う，関連科目（後期）の授業の一部とする，などの可能性を検討する。発表と質疑応答の内容は学生にとって非常に有意義なものであったと参加者から口頭で評価を得た。</p> <p>5) TMUからの感謝状授与</p> <p>TMU 研修生受入れプログラムの一部として，高槻市民との交流を通じて住民主体の健康づくり活動を学ぶことを目的に，今年度も聖ヶ丘老人クラブによる「聖ますます元気会」にて研修を行った。その際に，メンバーの一人から台湾駐在時代に集めた貴重な記念切手を台湾に戻したいとお申し出があり，研修生に切手集が贈呈された。台湾の郵便博物館とコンタクトをとる等のプロセスを経て，切手集は最終的に台北医学大学にて大切に保管されることとなり，台北医学大学から贈呈者と大阪医科大学に感謝状が贈られ，2019年12月16日に学長室にて贈呈式が執り行われた。本研修が保健医療の学習のみならず，古きよきものとおした異文化交流にもつながった。</p> <p>5. 国際交流に関する覚書の締結</p> <p>昨年度から準備していた本学と米国ミネソタ州立大学マンケート校看護学部との覚書の締結を行った。</p> <p>6. 英会話教室の開催</p> <p>看護学部の学生を対象に，ネイティブの英会話講師を招き，2019年7月から2020年2月までの間に合計9回（各回60-90分）の英会話教室を開催した。内容は日常会話や医療英語，ロールプレイなど多岐に渡り，延べ25名の学生が参加した。参加した学生からは「丁寧に教えてくれて勉強になった」などの意見が聞かれた一方で，英語学習に興味をもてない学生もいた。</p> <p>7. 海外短期留学給付金制度の検討</p> <p>看護学部の学生に対して，海外短期留学を促進し国際交流を奨励することを目的として給付金制度を検討し，教授会の承認を得た。次年度の在学生から本制度を適用することとなった。</p>
<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>英語版パンフレットを更新し，台北医学大学の研修生，ミネソタ州立大学マンケートへの派遣研修の際に使用し，本学部の教育や教員の研究に関する情報共有と発信に役立った。</p> <p>HPを定期的に更新しセンターの活動を掲載したため，外部に向けてタイムリーに情報発信することができた。</p>

	<p>市民看護講座は本年度 100 名を超える参加があり、アンケート結果からも参加者より好評を得ている。市民看護講座の運営にあたって看護学事務課および大学保安課との連携により円滑に進められ、参加者の安全確保につながった。</p> <p>台北医学大学からの研修生 10 名を受け入れたが、研修全体に対して高い評価が得られた。</p> <p>ミネソタ州立大学マンケート校看護学部と国際交流に関する覚書が結ばれ、2019 年 9 月に学生 3 名の派遣を行い、研修に対して肯定的な評価が得られた。</p> <p>学部生の国際交流への関心を高めるため新入生オリエンテーションプログラムに国際交流の紹介をする機会を設けて実施した。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>市民看護講座の開催時期やテーマは、市内における講演会情報を入手し、可能な限り重複しない内容で検討していく。また、アンケート等から市民ニーズを把握して企画していく。さらに、会場（看護学部講堂）の確保が難しくなっているため、日程だけでも押さえておく必要がある。</p> <p>ミネソタ州立大学マンケート校の研修について、次年度は拠点を決めて移動が少ないスケジュールにするなどプログラムに余裕をもたせた内容にする。また、将来的に言語学習コースと医療施設訪問等の異文化看護コースを組み合わせた研修プログラムの可能性を探り、単位認定も視野に入れて検討を行う。</p> <p>海外の大学との国際交流を活発化するために、中山国際医学医療交流センターとの連携をさらに強化し、留学先の大学を増やしていく。</p> <p>学部生の英語力向上のため、2019 年度も英会話教室を企画したが参加者が少なかった。次年度は、多くの学生が参加しやすい日程調整とともに、国際社会における医療現場に対応できる力の基礎となる、英語学習に対する意欲向上が課題である。</p> <p>海外研修報告会には多学年が参加できるような工夫をする必要がある。</p>
<p><b>将来に向けた 発展方策・ 課題</b></p>	<p>看護学実践研究センターは、地域周辺の医療機関・施設における看護の質の向上を目指した活動を継続していくことが重要である。地域の特色を十分に考慮し、大小の施設に限らず多くの施設へ、研修支援や実践研究に関する支援を継続する。</p> <p>また、次年度は看護学部教員協力のもとカムカムサロンの企画・運営を中心的に進めていくこととなったが、さらなる地域貢献を目指して円滑な活動ができるように努めていく。</p>

センター名	(2) 看護学教育センター
目的	看護学部の教育課程の円滑な遂行のために教育計画，教育環境整備，医看融合教育，授業評価，FD（Faculty Development）等に関する事項の企画・調整・実施・評価を行うことを活動の目的とする。
構成員	佐々木綾子（センター長），池西悦子，吉田久美子，瓜崎貴雄，久保田正和，寺口佐與子，土肥美子，佐野かおり 原口浩幸 星加圭子 橋本千恵子
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程に関すること(①新カリキュラムの運用等，②授業・実習評価に関する事項，③カリキュラム評価に関する事項（カリキュラム委員会と連携），④2年次までの基礎医学の知識の活用に対する課題と対策，⑤共事事例の評価，⑥実習ポートフォリオ検討（実習委員会と連携），⑦追試験・追実習の上限の見直し</li> <li>2. 卒業時到達目標に関すること（学位授与基準，卒業生評価への継続調査）</li> <li>3. 4年次選択の方法の検討（卒業研究，保健師および助産師国家試験受験資格希望の選抜）</li> <li>4. 適正な成績評価・進級判定と学生指導（GPAの活用）</li> <li>5. 教育環境整備の充実(機器活用評価，セルフトレーニング室)</li> <li>6. FD企画と実施</li> <li>7. 公開授業（授業見学）に関する事項</li> <li>8. 医看融合教育の運営と充実（医療人マインド，専門職連携医療論，医看融合ゼミ，医看融合カンファレンス，地域医療実習，大阪薬科大学学生の参画に関する検討）</li> <li>9. アクティブ・ラーニングの推進に関する事項</li> <li>10. ベストティーチャー賞選出方法の決定</li> <li>11. 私立大学等改革総合支援事業の取り組み(タイプ1)</li> <li>12. その他</li> </ol>
活動概要	<p>会議の回数は全12回（うち臨時1回）であった。今年度新たに出た議題は，2020年機関別認証評価，2021年4月大学統合各ワーキンググループへの参加であった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程に関すること：学習上の新たな課題への取り組み <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新カリキュラムの運用等 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2.3年生が新カリキュラム，4年生が旧カリキュラムを運用した。</li> </ol> </li> <li>2) 授業・実習評価に関する事項 <p>授業評価，実習評価実施要領に基づいて2019年度もユニパを用いた評価を行った。前前半で終了する講義や実践と理論の統合時は失念しやすいため，事前にアナウンスを行い実施を促した。引き続き回収率を評価指標の1つとすることと，教員による改善報告書の実施を行い，かつ各領域にて自己点検を行うよう注意喚起した。</p> </li> <li>3) カリキュラム評価に関する事項（カリキュラム委員会と連携） <p>学勢調査の結果をもとにカリキュラム内容について検討した。3つのポリシーに基づくアセスメントの概要，各レベルでの査定とフィードバックの流れに沿って連携できているかの確認を，カリキュラム委員会と共有した。</p> </li> <li>4) 2年次までの基礎医学の知識の活用に対する課題と対策</li> </ol> </li> </ol>

中間・終了時のまとめ、中間テストなどを導入した。前期科目の成績が出た段階で、科目担当者と改善効果について意見交換を行い、後期を含めた対応について検討した。総合試験の企画についても試験範囲や時期などについて検討した。

#### 5) 共事事例の評価

前・後期終了時に共事事例の活用状況について確認し、今後継続して事例提供を行うか評価した。

#### 6) 実習ポートフォリオ検討（実習委員会と連携）

実習ポートフォリオを導入し、評価について教員と学生双方にアンケートを実施した。ポートフォリオの説明は2回生（8月1日10時、老年実習Ⅰのオリエンテーション時）、3回生（8月26日実習オリエンテーション終了後）、4回生（5月8日2限）に行う。アンケートの実施は教員（12月18日学科会議時に配布、12月25日までにボックス回収）、2回生（基礎Ⅱ実習終了時）、3回生（12月23、24日の実践と理論の統合時）、4回生（11月19日の看護管理講義終了後）に行った。結果は1月30日のセンター会議で報告した。

#### 7) 追試験・追実習の上限の見直し

履修の手引きに明記し運用した。

### 2. 卒業時到達目標に関すること

学勢調査の結果をもとにカリキュラム内容について検討した。また、「ディプロマポリシーに基づく卒業時看護実践能力到達度調査」については、カリキュラム委員会が担当し、分析結果を共有した。

### 3. 4年次選択の方法の検討（卒業研究、保健師および助産師の選抜）

#### 1) 卒業演習学生配置

卒業演習配置決定方法について前年度学生の意見を聴取し、今年度決定方法を検討した。卒業演習発表会に下級生が参加可能な日時・合同発表会の設定と周知について検討した。

#### 2) 保健師および助産師受験資格コースの選抜

##### ① 保健師受験資格コース選抜

学事予定等を踏まえたスケジュールを立て実施した。

##### ② 助産師受験資格コース選抜

学事予定等を踏まえたスケジュールを立て実施した。

### 4. 適正な成績評価・進級判定と学生指導（GPAの導入・活用）

GPAが2.00（望ましい基準に達している）未満の学生に対し、チューター教員等による学修指導を実施するため、取り組みによって改善がみられたか評価した。今年度より学期毎のGPAが出るため、今後の推移をみながら、学修指導対象の基準について検討した。科目間の評価の平準化方法を検討し、平準化を進めた。IR室と検討を行い、GPAが低下する2年生について、各期で各科目の箱ひげ図をIR室に作成してもらい、科目担当者が授業改善に活用する方法で平準化を進めることとした。

### 5. 教育環境整備の充実

#### 1) クリッカーおよび講義室3キャラボシステム活用推進

	<p>(1)クリッカーおよび講義室3キャラボシステム活用：教員への伝達，講習会等を企画した。</p> <p>(2)双方向授業の評価についての検討：①学生：授業アンケートの自由記載欄の確認等，②教員：活用している科目での自己評価依頼を行った。クリッカー名簿の作成，更新作業，機器の管理については，教育センター全体で行った。</p> <p>2) 自主学习促進のセルフトレーニングコーナー（セルトレコーナー）の活用</p> <p>(1)セルトレ企画</p> <p>①4回生対象：吸引・経管栄養・血糖測定・輸液管理5月30日(木)13：30-15：00，6月6日(木)14：00-15：00</p> <p>②2・3回生対象：実習前に8月9月企画</p> <p>③1回生対象：実習室の使い方オリエンテーション</p> <p>(2)セルトレコーナーに関する環境整備・備品管理等行った。</p> <p>6. 教員および院生の教育実践力を高めるFD企画と実施</p> <p>1) 教育方法に関する学内交流会</p> <p>演習の進め方や評価方法等教育方法に関する交流会を検討し2)の演習に含めた。</p> <p>2) 教育講演会</p> <p>教員の教育実践向上を目指し，リクエストのあったコアカリの理解等の外部講師を検討した。大阪府立大学工業高等専門学校の前野健一先生によるティーチングポートフォリオの講義と演習を2回（8月12月）開催した。参加人数：1回目66名，2回目37名，3回目3月予定，16名申し込み（延期）があった。</p> <p>7. 公開授業（授業見学）</p> <p>4月・9月に授業見学の参加を促した。前期終了後授業見学参加者数，参加が困難な状況の有無について検討し，参加を促す方法等について検討した。非常勤担当の講義を対象とするかについて検討した。</p> <p>8. 多職種連携（融合）教育</p> <p>GWのファシリテーター担当，レポート評価を担当した。医看融合カンファレンスについては，1月に中間評価と2月末にまとめと評価を行い，多職種融合（連携）カリキュラム小員会で報告・検討した。学生の授業評価，委員会での振り返りをもとに運営方法，GWの方法などについて改善した効果をGWのファシリテーター，レポート評価を行う中で確認した。高知県多職種連携地域医療実習報告会に多くの学生の参加を促した。委員会に出席し，特に学生の授業評価，委員会での振り返りをもとに運営方法，GWの方法などについて改善した効果を評価した。</p> <p>9. アクティブ・ラーニングの推進に関する事項</p> <p>1) クリッカーおよび講義室3キャラボシステム活用：教員への伝達，講習会等の企画。</p> <p>2) 双方向授業の評価についての検討：①学生：授業アンケートの自由記載欄の確認等 ②教員：活用している科目での自己評価依頼。</p> <p>3) クリッカー名簿の作成，更新作業：・機器の管理については，教育センター全体で行った。</p> <p>10. ベストティーチャー賞選出方法の決定</p>
--	---

	<p>現行の方法で継続し、大学統合にむけて大学全体の選考方法の整備を検討した。</p> <p>11. 私立大学等改革総合支援事業の取り組み(タイプ1)  タイプ1獲得を目指し、看護学部で必要な要件が整っているか確認、実施した。</p> <p>12. その他</p> <p>1) 2020年機関別認証評価：教育センターとして必要な2020年機関別認証評価準備を行った。</p> <p>2) 2021年4月大学統合：教育センターとして必要な2021年4月大学統合に向けた準備を行った。</p> <p>3) IR室解析結果の報告と活用：IR室解析結果の報告をもとに活用推進した。</p> <p>4) 履修の手引きを見直した。</p> <p>5) 試験監督補助要請調整、医学概論講義サポートを行った。</p> <p>6) カリキュラム委員会と連携した。  PDCAシートを作成、点検評価し、課題を明らかにした。</p> <p>7) 履修の手引きの見直し  新たに医学部と合わせ、建学の精神、学是、アセスメント・ポリシー表、ナンバリングを追加し、各学年のガイダンス時、学生にも説明した。</p> <p>8) 大学院委員会との連携  講演会の参加は時間的に可能であったが、演習の3時間には参加がなかった</p> <p>9) テスト時の不正防止  各期末試験シーズンに全学生にユニパ配信により注意喚起を促した。教員にも不正行為防止のための監督時の注意をメール配信した。</p> <p>10) 再試験率の確認  前年度と比較し再試験率の高かった科目の改善がみられた。再試験率の高い科目を確認し、教授会で要因分析依頼した。</p>
<p>評価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 教育課程に関すること</p> <p>(1) 新カリキュラムの運用等  事務課と連携し、休学、留年学生の振り替え科目履修が滞りなく行われた。</p> <p>(2) 授業・実習評価に関する事項  ユニパを用いた授業評価・実習評価に変更してから、紙媒体で行っていた形式に比べ、引き続き高い回収率を維持できている。(講義前期66.4%、後期50.9%、領域実習33.2%)、また、その流れで教員による改善報告書の作成を行うことができている。改善報告書は年度ごとの改善点が一覧で見られるため、改善点の推移が見やすいようになっている。</p> <p>(3) カリキュラム評価に関する事項(学生支援生活センター、カリキュラム委員会と連携)  学勢調査の結果</p> <p>① 1.基礎科目、2.専門基礎科目、3.専門科目、4.演習科目の評価：1-4とも満足度が高かった。学年では3年生が他の学年より項目1-4とも「全般的に満足している」が40%台と高かった。要因として4学年の中で最も実習時間が長い</p>

領域別実習で各科目の必要性を認識したことが考えられる。

②学習時間：全体では2時間未満の学生が57.2%と半数以上であった。1,2年生では約90%弱に上っていた。実習時間も少なく、国家試験という目標設定まで時間のある低学年対策が重要な課題である。

### ③DP到達度調査

DP2については、低学年に「どちらでもない」が高学年より多く、特に2年生においては、約50%と多かった。要因として、演習、実習時の看護過程の展開や卒業演習に取り組む経験が考えられた。低学年対策が課題である。DP4については、低学年に「どちらでもない」が高学年より多く、特に2年生においては、約40%と多かった。要因として、IPE科目である医療人マインド、多職種連携医療論を開講しているが、実際の臨床実習経験が少ないことが課題解決に取り組む力の育成に影響していることが考えられる。

DP5については、特に2年生において「どちらともいえない」が、約30%と多く、1年生と4年生が約20%であった。1年生はキャリア形成を考えるにはまだ具体的イメージがつきにくいこと、4年生では社会人を目前に、不安を抱きやすいことなどが考えられた。一般的な学士力としても重要なDPであり、引き続き各科目の中で学年進行をふまえた育成を行う必要がある。

### (4) 2年次までの基礎医学の知識の活用に対する課題と対策

中間、期末試験に分けることにより、病気の診断と治療1は平均点に変化は認めなかったが、90点以上の高得点者は増加した。また試験内容も1回の時よりも充実したものが作成でき、学生の理解度の把握に有用であった。後期の病気の診断と治療2に関しては平均点が76点から81点に明らかに増加した。この科目は各科目が1コマだけのオムニバス形式であり、試験が1回の時は非常に範囲が広く、内容も多いため学生の理解が追いついていないと感じられる部分も多かったが、テストを2回に分けることにより要点を絞って学ぶことができたと考えられる。

### (5) 共事事例の提供、その後の評価

前・後期開始前に共事事例使用状況を、シェアフォルダ内ファイルへ記載依頼を行った。活用した科目は在宅看護学援助方法のみであり、共事事例として授業に活用されなかった。共事事例であっても、それぞれの領域で捉えるべき特徴や、活用する場面が異なるため結局追加の情報を多く与えることになり、学生の負担を減らすという目的に合わないと考えられる。

### (6) 実習ポートフォリオについて、実習委員会との協働中間評価

アンケートを11月～12月に実施した(回収率:学生67.3%,教員22.5%)。その結果、教員と学生の評価はおおむね良好であり、実習ポートフォリオの実施は学生が実習に取り組む上で自己の課題を明確にし、目標を立てる目安になったと考えられた。一方で、「実習記録と記述内容が重複するため、負担であった」「活用方法が分からない」「いつまでに記入するかアナウンスしてほしい」「字数制限があり書きにくかった」等の意見もあった。看護基本技術経験チェックリストの評価については、2年生(回答数72/85名中、回答率84.7%)、3年生(回答数73/91名

中、回答率 80.2%)，4 年生 (回答数 18/84 名中、回答率 21.4%) であった。技術項目により経験率に差がみられた。

(7) 追試験・追実習の上限の見直し

滞りなく行われた。

2) 卒業時到達目標に関すること (学位授与基準，卒業生評価への継続調査)

本学の DP に基づく卒業時看護実践能力到達度を評価することを目的に、カリキュラム委員会が担当し、2019 年度 4 年生 84 名にスマホで実施し評価した。

3) 4 年次選択の方法の検討 (卒業研究，保健師および助産師の選抜)

(1) 卒業演習の配置と評価，卒演発表会の計画と評価，4 年生への卒業演習選択決定の評価アンケート

卒業演習決定方法について 4 年生より聴き取りを行い、昨年度同様、ターニングポイントを活用した方法とした。卒業演習配置人数の算出方法について検討し、大学院生数を考慮せず対象学部生数から配置人数を決定した。

卒業演習報告会について、3 回生や他領域の 4 回生が参加しやすい日程調整を教育センターが行った。2020 年度の卒業演習報告会は、3 回生の出席可能な時期を実習委員会と調整した。また、卒業演習要項に報告会開催時期および実施方法について記載した。

(2) 保健師国家試験受験資格希望選抜に関すること

スケジュールに沿って実施し、38 名を選抜した。

(3) 助産師国家試験受験資格希望選抜に関すること

スケジュールに沿って実施し、7 名を選抜した。急遽実習施設を追加し例年より 1 名多い選抜となった。

4) 適正な成績評価・進級判定と学生指導 (GPA の導入・活用)

GPA 平準化については、IR 室の協力のもと各期に各科目の評価結果を提示し、各科目責任者が授業改善に活用するサイクルが構築できた。

5) 教育環境整備の充実

自主学習促進のセルフトレーニングコーナー (セルトレコーナー) の活用を行った。4 回生対象に吸引・経管栄養・血糖測定・輸液管理 2 回開催しのべ 47 人が参加した。3 回生対象に領域実習開始前に 2 回開催しのべ 93 人が参加した。3 年生実習期間中は学生希望時、セルトレコーナー学習サポートを行った。個別サポートはのべ 5 名であった。

6) 教員および院生の教育実践力を高める FD 企画と実施

(1) 教育方法に関する学内交流会

個人のティーチングポートフォリオの作成 (実践) によって、教育の評価方法を学ぶことができ、個人の教育法を考えることができた。第 2 回目の演習では、小グループにてディスカッションを行った。第 3 回目の演習でもグループワークにて交流ができると考える。

(2) 講演会

1 回目は医学部からの参加も多くあり、教育を考える機会となったと好評であっ

た。その結果、第2回のティーチングポートフォリオの作成（実践）につながり、教員としての内観につながり、好評であったため第3回目の企画となったが延期となった。現在の大学教育に求められているテーマの選定であったと考えられる。

#### 7) 公開授業（授業見学）

前・後期開始前に教員へ電子メールおよび学科会議で参加の促しを行い、参加者：前期5名（のべ14名）、後期9名（のべ11名）であった。全体教員の30%の参加であった。参加者背景は教授3名、准教授3名、講師3名、助教3名であった。授業見学科目について前期は公衆衛生学が最も多かった。後期は、看護学科目への参加が多かった。

#### 8) 多職種連携（融合）教育

##### (1) 1・2年次の授業

医療人マインド、多専門職連携医療論について、GWのファシリテーター担当、レポート評価ができた。

##### (2) 3年次医看融合カンファレンス

母性・精神看護学実習でそれぞれ8回実施した。学生のアンケート結果はおおむね高評価であり、本カンファレンスが診断・治療・看護の実践活動について理解を深め、チーム医療の在り方を考える機会になっていたと考えられた。また、薬大教員の見学があった。

##### (3) 4年次多職種融合（連携）ゼミ、地域医療実習

多職種融合（連携）ゼミについて、GWのファシリテーター、レポート評価を行った。地域医療実習について、1回の会議、報告会に出席した。

##### (4) 多職種融合（連携）カリキュラム小委員会

3回の委員会に出席し、多職種融合（連携）各科目、ゼミの点検・評価が行われた。

#### 9) アクティブ・ラーニングの推進に関する事項

##### (1) 双方向授業と授業評価

新任教員および新たに活用を考えている教員を対象としてオリエンテーション、使用方法の説明会を実施した。教室のPC撤去に伴い、クリッカー名簿の作成と使用の整備を行った。

##### (2) セルフトレーニングコーナーの活用と評価

活用を推進できた。

#### 10) ベストティーチャー賞選出方法の決定

規定に沿い、選抜を行った。

#### 11) 私立大学等改革総合支援事業の取り組み(タイプ1)

タイプ1獲得を目指し、看護学部で必要な要件が整っているか確認した。新たに実習ポートフォリオの実施、医学部と合わせ科目ナンバリングを作成し、HP掲載、2020年度シラバスに記載した。

#### 12) その他

(1) 2020年機関別認証評価：教育センターとして各WG会議に出席し医学部と協働し報告書の分担執筆ができた。

(2) 2021年4月大学統合：教育センターとして必要な2021年4月大学統合に向

けた各 WG 会議に出席し、医学部、薬学部と協働し統合に向けた準備を行うことができた。

(3) IR 室解析結果の報告と活用：IR 室解析結果の報告をもとにアセスメント・ポリシーに沿い、解析結果を PDCA シートに取りまとめ、教授会、FD で共有した。

(4) 履修の手引きを見直した。

(5) 試験監督補助要請調整、医学概論講義サポートを行った。

(6) カリキュラム委員会と連携した。

(7) PDCA シートを作成、点検評価し課題を明らかにした。カリキュラム委員会と共有した。

(8) 履修の手引きの見直し

全学生に周知できた。

(9) 大学院委員会との連携

(10) 働きながらの学生が多いことから、講演時間の考慮が必要である。

(11) テスト時の不正防止

後期は不正行為疑いが激減した。

(12) 再試験率の確認

前年度と比較し再試験率の高かった科目の改善がみられたことから改善効果があった。

## 2. 改善すべき事項

### 1) 教育課程に関すること

#### (1) 新カリキュラムの運用等

2020年度より新カリキュラムのみの運用となるが、休学、留年学生への振り替え科目履修を滞りなく行う。

#### (2) 授業・実習評価に関する事項

前期に比べ後期の回収率が低い傾向にあるため、後期回収率向上に向けた対応を検討する。事前アナウンスは時機が来たら、事務課から機械的に周知可能か検討する。試験日に実施する教科があり、学生からは試験に集中できないためやめてほしいとの要請があったため、授業評価は授業最終日に行うことを周知する。

#### (3) カリキュラム評価に関する事項（カリキュラム委員会と連携）

実習の少ない 1.2 年生の学習満足度を上げるための各科目のさらなる工夫を行う。予習・復習課題のさらなる徹底、学習困難者へのチューター、各科目担当教員による、個別支援を強化する。カリキュラム委員会で、卒業時到達目標調査の学年別設定も視野に入れた見直しを行っている。ルーブリックなども活用し、学生自身が DP の段階的な到達を自覚できるような指標、各科目での工夫を行う。

#### (4) 2 年次までの基礎医学の知識の活用に対する課題と対策

今後は専門基礎の終わるところで総合試験を検討してもいいのではないかと考えられる。その際の科目に関しては病気の成り立ち、体の仕組みと働き、病気の診断と治療の範囲のところだけでよいかどうかは検討する必要がある。

#### (5) 共通事例の提供、その後の評価

共通事例の有効活用には、授業開始前に科目間で事前調整が必要となるため、シラバスが作成済みの段階では活用が困難であることが考えられる。また、学生への説明についても「共通事例」として複数科目で活用することが事前に明らかでない  
と困難である。

(6) 実習ポートフォリオについて、実習委員会との協働中間評価

次年度は2・3・4年生の各実習について、「実習ポートフォリオ」と「看護基本技術経験チェックリスト」を用いる。看護基本技術経験チェックリストをどのように活用していくか実習委員会とも連携し検討する。アンケート結果を踏まえ、次年度は次の点を改善する。1) 学生に対して、実習ポートフォリオの目的や、入力時の留意事項について十分に説明する。2) 記入漏れを減らすために、記入時期にはその都度ユニパなどを用いてアナウンスを行う。3) 各項目の字数制限をなくし、入力しやすい書式とする。

2) 卒業時到達目標に関すること（学位授与基準、卒業生評価への継続調査）

各年度、各学生の継続的な比較が必要と考える。課題探求力を向上させるためにグローバルな視点を養う学習環境づくりが必要と考える。

3) 4年次選択の方法の検討（卒業研究、保健師および助産師の選抜）

(1) 卒業演習の配置と評価、卒演発表会の計画と評価、4年生への卒業演習選択改善後の報告会実施時期および方法の評価を行う。

(2) 保健師国家試験受験資格希望選抜に関すること

次年度も学事予定等を踏まえたスケジュールをたて実施する。選抜方法の点検・評価を行う。

(3) 助産師国家試験受験資格希望選抜に関すること

次年度も学事予定等を踏まえたスケジュールをたて実施する。選抜方法の点検・評価を行う。

4) 適正な成績評価・進級判定と学生指導（GPAの導入・活用）

構築したシステムに基づいて、次年度も平準化を促進していく。

5) 教育環境整備の充実

学生のセルフトレーニングコーナー（セルトレコーナー）の活用を推進する。

6) 教員および院生の教育実践力を高めるFD企画と実施

(1) 講演会

講演会の参加は多いが、演習になると参加者が少ない。時間の制約があるなかFDのやり方等を考えていく。

(2) 学内交流会

領域を超えた交流（意見交換）が必要、引き続き検討を要す。

7) 公開授業（授業見学）

延べ人数が増加したが、授業見学を実施している教員が固定化されている。また、昨年と異なり、前期の見学が少なく後期に増加していることから、前期科目の見学増加および参加教員数の増加にむけた参加方法について検討する。

8) 多職種連携（融合）教育

	<p>(1) 1・2年次の授業 学生の授業評価，委員会での振り返りをもとに運営方法，GWの方法（4回目で席替え）などについて改善する。</p> <p>(2) 3年次医看融合カンファレンス 次年度も引き続き，母性・精神看護学実習で実施する。なお，次年度は「多職種連携-臨床カンファレンス」と名称を変更し，病院実務実習中の薬学部の学生も参加する予定である。</p> <p>(3) 4年次多職種融合（連携）ゼミ，地域医療実習 学生の授業評価，委員会での振り返りをもとに運営方法，GWの方法などについて改善する。実習を体験するのは2名の学生のため，共通理解の機会である報告会に多くの学生の参加を促す。</p> <p>(4) 多職種融合（連携）カリキュラム小委員会 学生の授業評価，委員会での振り返りをもとに運営方法，GWの方法などについて改善する。</p> <p>9) アクティブ・ラーニングの推進に関する事項</p> <p>(1) 双方向授業と授業評価 アクティブ・ラーニングの取り組みのさらなる活性化をはかる。</p> <p>(2) セルフトレーニングコーナーの活用と評価 1回生・2回生へのセルトレ活用に向けたサポート。学生の活用状況に応じたセルトレコーナー物品・備品管理の検討</p> <p>10) ベストティーチャー賞選出方法の決定 大学統合にむけては大学全体の選考方法の整備を検討する。</p> <p>11) 私立大学等改革総合支援事業の取り組み(タイプ1) 次年度タイプ1要件の情報を収集し，医学部と協働し準備する。</p> <p>12) その他 継続し点検・評価する。</p>
<p><b>将来に向けた 発展方策・ 課題</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3つのポリシーに基づくアセスメントの概要，各レベルでの査定とフィードバックの流れに沿って各委員会と連携する。</li> <li>2. GPA2未満の学生への学修指導の強化。</li> <li>3. 2年生のGPA落ち込みに対する対応の強化。</li> <li>4. 2020年機関別認証評価をふまえた，PDCAの推進。</li> <li>5. タイプ1関連事項の推進。</li> <li>6. 2021年4月の大学統合を踏まえた多職種連携（融合）教育の推進。</li> <li>7. 2022年看護基礎教育のカリキュラム改正を見すえた教育の実施。</li> </ol>

センター名	(3) 看護学学生生活支援センター
目的	本センターは、看護学部における円滑な学生生活の提供を目指し、学生生活の中で学生が抱える諸問題（修学、大学生活への悩み、経済的事由に起因する悩み等）に組織的に対応し、学生の主体的な大学教育への適応を図り修学効果を高められるよう厚生補導の一役を担う。
構成員	田中克子（センター長）、津田泰宏、府川晃子、川北敬美、大橋尚弘、山内彩香、土井智生
活動計画	<p>2019年度の年間計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総代・副総代との連絡会</li> <li>2. （チューター制度）チューターが活動しやすい、学生が相談しやすい環境作り（継続）</li> <li>3. （学勢調査）医学部看護学部合同の調査内容の見直し、実施</li> <li>4. （奨学金）特別奨学金貸与規定変さらに伴う毎年の適格審査の貸与基準の修正</li> <li>5. （健康管理）保健管理室との連携の一層の緊密化（継続）</li> <li>6. （学生からの要望に対する対応）意見箱の運用、懇談会の実施</li> <li>7. （学生自治）学生が自ら話し合い、学生生活の問題を解決していくことの支援、学友会役員選考支援、謝恩会準備の支援</li> <li>8. （新入生学外合宿）薬学部との合同参加への取り組み</li> <li>9. HPの内容の充実</li> <li>10. 学習環境の整備</li> <li>11. 正課外活動の作成</li> </ol>
活動概要	<p>1. 各月の活動概要</p> <p>月1回の定例会議を開催し、必要事項の確認と検討を行った。各回の会議については議事録を作成し保存している。また、医学部および看護学部両センター長および両学部事務員による連絡会議、薬大との統合に向けた調整会議を月1回定例に開催している。学生支援上の課題を3学部で共有し、大学としての統一方針に則った対応を行うよう努めている。以下、各月の主な活動である。</p> <p>4月：センター委員の役割分担、新年度チューターグループへの移行、新入生学外合宿実施、新年度各学年総代・副総代の決定、総代連絡会実施</p> <p>5月：奨学金応募者選考面談審査、看護学部給付奨学金の選考審査、保健管理室との連携の一層の緊密化、HP更新、学生相談に関するフローチャートの検討、教室環境整備、正課外活動の作成についての計画、演習室利用のルール検討</p> <p>6月：看護学部給付奨学金の選考審査、学友会役員選考、学勢調査内容の見直し、七夕飾り支援</p> <p>7月：次年度予算作成、講義室更衣室の整理整頓、学内盗難事件の対応、演習室利用のルール修正、正課外活動の入力に関する学生への周知実施計画、学生用のメールアドレス・パスワードの取得、学生主催七夕企画</p> <p>9月：障がいをもつ学生への対応に関する教員のFD研修会への派遣、学校保健安全法による出席停止の場合の追試験料の免除について検討、勤労学生奨学金募集</p>

	<p>世界ランキング学生調査実施</p> <p>10月：医・看・薬合同新入生学外合宿の検討，本年度の学勢調査内容検討，学生生活ガイドの見直し，学園祭支援</p> <p>11月：新入生オリエンテーション内容の検討，避難訓練</p> <p>12月：学生・教員懇談会の実施，学勢調査の実施（1～4年生）</p> <p>1月：学生・教員懇談会での学生意見の集約・回答検討，卒業記念品に対する助言，学生生活ガイドの検討</p> <p>2月：チューター制度のアンケート実施検討，正課外活動アンケート内容検討，大阪医科大学看護学部特別奨学金適格審査運用の作成，年報作成準備，学内環境整備，新型コロナウイルス感染症予防対策</p> <p>3月：年報の報告</p> <p>2. 担当ごとの活動内容</p> <p>1) 奨学金関連</p> <p>2019年度奨学金希望学生に対して，募集説明会を開催した．本学入学後の奨学金申込学生に対しては，応募書類を記載し提出させた．その後，センター教員による面接を行い，家庭の経済状況，奨学金の必要性の度合いや受給後返済の重要性の理解度等について面接を実施し，センター教員による選考を行った．</p> <p>2019年度日本学生支援機構奨学金の新規採用者は次のとおりである．家族所得が一定水準以下の方が対象になる第一種（無利子）は，1年生18名・2年生19名，3年生12名，4年生9名であった．家族所得にかかわらず申請可能である第二種（有利子）は，1年生14名，2年生20名，3年生19名，4年生16名であった．本学看護学部独自の奨学金は次のものが準備されている．大阪医科大学看護学部入学時特待生規程として，1年生の入学時成績優秀者上位4名に給付奨学金，大阪医科大学看護学部奨学金給付規程として2～4年生の成績優秀者上位4名に給付奨学金がある．大阪医科大学看護学部特別奨学金貸与規程として，専願入学者（本学入職希望者）に貸与奨学金があり，2016・2017・2018年度入学生12名，2019年度入学生3名であった．その他，大阪医科大学総務部人事企画研修課が窓口になる大阪医科大学看護奨学金がある．大阪医科大学入職希望者が対象であり，看護学部2～4年生の希望者が申請手続きする事により，窓口担当部門で採否を決定する貸与奨学金である．一定期間就労する事により返済が免除される制度がある．</p> <p>外部資金の奨学金として，本年度受給実績の奨学金は，次の2組織である．小野奨学会は，1年生2名，2年生3名，3年生4名，4年生3名で，奥村奨学会は，1年生1名，2年生1名であった．その他，外部資金の奨学金については，募集の都度掲示板等に周知したが希望者や該当者がなく申請していない．</p> <p>2) チューター制度の実施</p> <p>チューターグループの編成：チューター教員の組み合わせは，下記のとおりであった．4年生は例年通り卒業演習担当教員とした．</p> <p>教員2～3名で1～3学年の学生17～18名を担当した．面談は集団面談，個人面談を含め，各担当教員の判断による実施とした．</p>
--	---

表 1. 2018 年度チューターグループ (1～3 年生担当)

No	担当教員	No	担当教員	No	担当教員
1	久保田, 川北, 柴田	6	元村, 宮川, 原	11	佐々木, 樋上, 山埜
2	田中, 竹	7	赤澤, 道重, 山本	12	鈴木, 仲下, 二宮
3	泊, 大橋	8	津田, 近澤	13	山崎, 土肥
4	荒木, 佐野	9	小林, 府川	14	真継, 土井
5	土手, 寺口	10	吉田, 山内	15	池西, 瓜崎
				16	カルデナス, 草野

3) 学生意見箱の設置

月 1 回の開箱とした。今年度の投書は 1 件であった。

4) ホームページ (HP)

センター長の変更に伴い、HP の改変を行った。また、学習環境の整備、奨学金、健康管理、チューター等の活動の具体的内容を掲載するように修正を行った。

5) 学生と教員との懇談会の開催

12 月 2 日 (月) 昼休みの時間帯を利用してランチオン交流会を開催した。参加者は、学生 6 名 (1～2 年生各 2 名, 4 年生 2 名), 教員 6 名 (学部長, 教育センター長, 学生生活支援センター長・委員, 有志教員), 学務部 1 名であった。事前に、学生からの意見・要望を集約したものを学年総代・副総代から提出してもらい、センター委員間で検討した結果を当日説明し、意見交換を行った。学生からは重複するものも含めて 37 件の要望が出された。意見交換の結果に関しては『学生からの要望に対する回答書』として、後日学生に掲示した (1 月)。

6) 学習環境の整備

(1) 自習室の整備

自習のため講義室を利用しているが周りがうるさく集中しにくい時があるため、他の場所を確保してほしい。テスト前は演習室 9 を個人でも利用できるようにしている。2 階, 講堂下にも学習できる場所があるため、照明を明るくするように整備した。

(2) カードリーダーについて

授業開始 15 分ほど前には集合しているので可能ならば早くカードリーダーを通せるようにしてほしいと希望があった。しかし、早めると前の講義の時間になるため、10 分前から登録できるように設定している。

(3) 講義室 1 の Wi-Fi 環境について

講義室 1 での英語の授業の際にユニパ経由で記録の提出を行うが、Wi-Fi を使用しても送信がうまくできないことがあるため、確認を依頼した。

(4) 健康管理について

今年度も保健管理室と連携して学生の健康管理を行った。インフルエンザの予防接種を実施することが実習参加の要件であった。インフルエンザの期限内の予

防接種率は実施された。保健管理センターに報告のあったインフルエンザ罹患者は10名（1月末）であった。看護学部生の保健管理室の年間利用件数は85件であり、理由は感冒様症状、頭痛、消化器症状等（多かった順に記載）であった。健康面やメンタル面で実習の出席が心配された学生が数名存在した。さらに、新型コロナウイルス感染症予防対策に関してUNIPAで学生に周知した。実習前の麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎の抗体価測定の変更点を周知した。本年度もメンタル面に課題をもつ学生が増加している傾向にあり、それらの学生に対して実習委員会、教育センター、チューター、保健管理センターなどと連携・協働して対応した。また、配慮が必要な学生はセンター会議で報告され、委員で情報を共有するとともに必要があればチューターに連絡して面接等の対応を依頼した。実習前の予防接種や健康診断の状況も保健管理室と情報を共有して不備のある学生に対してチューターを通して連絡し、指導した。

#### 7) 学生自治支援について

各学年の総代・副総代も交えて学生が学生生活のさまざまな課題に主体的に取り組むことができるように、学生の相談の窓口となって対応していきたいと考える。講義室内および個人ロッカー内に私物が散見されることについて、総代・副総代と相談し、担当教員とともに私物の放置の状況を定期的にチェックし、学生とともに注意喚起および私物の回収を実施した。回数を重ねるごとに放置の荷物は減少した。学生主催の七夕企画は学友会から支援を受け実施した。

4年生の謝恩会担当委員とともに準備の進め方などに関して一緒に検討した。しかし、今年度は新型コロナウイルスの感染に伴い、コロナ対応の一環で謝恩会等一同に会して同じ食事をすることが感染管理上リスクが高いということで、参加に関しては感染対策室から自粛の指示があった。

#### 8) 学籍移動について

進路変更による退学が3名、休学が1名（2年生）、復学が2名（2年生、4年生）であった（2月末）。チューターが窓口になり、個別の事情に配慮しつつ、関係諸機関とも連携を取り対応している。

#### 9) 「学生生活ガイド」作成

以下修正箇所を記す。

- (1) 全体的にわかりやすく文字も大きくした。
- (2) 最終ページに電話番号表を追加した。
- (3) 学則、懲戒規程を追加した。

#### 10) 医学部・看護学部・薬学部合同新入生学外合宿

淡路夢舞台にて、4月18日（木）～19日（金）の1泊2日で行った。看護学部は、学生87名教員8名が参加した。グループワークでは、「よりよき医療人になるために有意義な学生生活や日常生活を送るための医学生・看護学生のための手引きを作成する」を主題にし、発表討論会を行った。合宿後のアンケートでは、9割以上が主題の内容はよかったという意見であり、両学部に友達ができた、グループ討論が有意義だった等といった意見がみられた。医学部は在

	<p>校生 10 名、看護学部は 2 名が学生スタッフとして参加した。また、調査では、約 9 割の学生が次年度以降も継続したほうが良いと合宿を肯定的に捉えた回答がみられた。</p>
<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>奨学金関連では、公共性のある日本学生支援機構ならびに各種財団、その他、各地の病院等施設からの奨学生募集の情報開示が促進されている。また、面接を行うことで奨学金の内容について学生に理解を促している。</p> <p>特別奨学金制度（貸与）の規定を見直し、基準を満たす項目である懲戒処分の有無、GPA2.0 以上、看護師国家試験の合格、学校法人大阪医科薬科大学附属病院の就職について毎年度、所定の適格認定の面接を行い学生の奨学金継続への学業、態度に関する基準を満たすようにサポートする。</p> <p>各学年の総代・副総代が学友会に参加するようになり、学友会の参集や懇談会を開催し、学年の枠を超えて関係が築ける場を設け連携を促進している。</p> <p>保健管理室とのタイムリーな情報共有と対応により、早期に関係委員会や学生に関わることができるようになった。特に、メンタル面に障がいをもつ学生の対応や特別に配慮の必要がある学生について、作成したフロー図を活用し必要に応じて修正していきたい。</p> <p>医学部・看護学部の連絡会議の定例化によって、両学部の学生生活支援に関する情報共有と新入生合同学外合宿や学友会の運営を円滑に行うことができ、大学の学生生活支援の連携がはかられている。</p> <p>教員と事務職員とが連携し、学生生活支援に関する研修会に参加した。研修内容については学科会議において全教員に伝達講習をし、学生支援についての情報を共有することができている。新入生学外合宿への医学部学生の参加は新入生にとって、上級生との関係づくりや大学生活への理解を深めるうえでもよかった。</p> <p>環境改善に関しては、椅子・机の再配置を行い、照明を明るくしたため、フリースペースへの学生の利用率も上がった。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>外部各種団体の奨学金に関して選考基準が厳しいため、選考時の審査内容の検討が必要である。インフルエンザ予防接種、感染症対策など健康管理に関して、保健管理室等関係諸機関と連携し、自主的な行動ができるようにはかる。</p> <p>障がいをもつ学生に対して、学校医や保健管理室を中心として附属病院等との連携調整をはかり、学生生活が円滑に行われる現支援システムの洗練が必要である。同様に学修支援、メンタル面等、個別支援が必要な学生に対してチューターや保健室との連携し、早期から対応が必要と考える。</p> <p>学生との懇談会等を活用した意見交換が行われているが、縦断的な学年間の交流が不十分であり、学友会活動への参加も含め、学生が主体的に勉強し、快適な学生生活を送ることができる支援体制づくりの推進が重要な課題となる。</p> <p>SNS、学割などの適切な使用に関して情報提供と具体的な取り扱いに関して随時周知が必要である。</p>

<p>将来に 向けた 発展方策・ 課題</p>	<p>外部各種団体の奨学金の推薦者の選考に関して、獲得を目指して吟味する。 保健管理室と情報共有をはかり、学生の健康管理、感染症等予防対策を強化する。 障がいをもつ学生の支援システムの構築が重要な課題であり、そのための相談室の設置など専門の窓口の必要性を検討する。</p> <p>学生の自治活動推進のため、学友会活動への参加、新入生学外合宿への在校生の参加や懇親会への参加者の増加をはかる運営ができるように支援する。さらに、主体的に、災害への対応や保健行動が行えるようにする。</p> <p>学生が主体的に勉強し、安心して学生生活を送ることができる環境整備を行う。</p>
-------------------------------------	--

3) 委員会

委員会名	(1) カリキュラム委員会
目的	本学部の教育目標の下、カリキュラムの改善のために科目の設定や統合、教育内容、教育評価などの事項についてPDCAを実施する。
構成員	佐々木綾子（委員長）、池西悦子、鈴木久美、田中克子、津田泰宏、土肥美子、山埜ふみ恵、原口浩幸、星加圭子、橋本千恵子
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アセスメント・ポリシー策定に関すること</li> <li>2. 教育課程の運営に関すること <ol style="list-style-type: none"> <li>1) カリキュラム評価に関する事項（学勢調査に含む・外部委員・学生委員の会議参加・卒業生へのアンケート調査）</li> <li>2) 卒業時到達目標の自己評価との関連</li> <li>3) 教員を対象としたカリキュラム評価に関するアンケートの立案と実施</li> <li>4) ティーチングポートフォリオ作成に関すること</li> </ol> </li> <li>3. その他 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 非常勤、兼任教員への看護学部学生の学習に対する姿勢や態度、日頃の学習行動に関する調査</li> <li>2) カリキュラム見直し案検討</li> </ol> </li> </ol>
活動概要	<p>10回の会議と2回の臨時会議を開催した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アセスメント・ポリシー策定に関すること <ol style="list-style-type: none"> <li>①アセスメント・ポリシーについて医学部との整合性を整えた。②アセスメント・ポリシーの査定とフィードバックの流れについても査定を実施し、改善を行った。③ジェネリックスキルテストを実施した。ジェネリックスキルテストの費用の予算化にむけ、その結果や意義についてPA会で説明を行った。また、学生へのフィードバックを行い、学生生活への活用を促した。</li> </ol> </li> <li>2. 教育課程の運営に関すること <ol style="list-style-type: none"> <li>1) カリキュラム評価に関する事項：1-4年カリキュラムに関するアンケート内容の検討と実施（学勢調査に含む）、学生（1, 2, 4年生各2名）・外部委員（1名）の会議参加による意見を収集した。卒業生に対し、ディプロマポリシーのうち、特に看護実践力に関するアンケートを行った。</li> <li>2) 卒業時到達目標の自己評価との関連：「ディプロマポリシーに基づく卒業時看護実践能力到達度調査」を4年生89名に実施・評価した。</li> <li>3) 教員を対象としたカリキュラム評価に関するアンケートは、隔年実施とする。</li> <li>4) ティーチングポートフォリオに関するFDを開催した。</li> </ol> </li> <li>3. その他 <p>非常勤、兼任教員への「看護学部学生の学習に対する姿勢や態度、日頃の学習行動」に関する調査を行った。</p> </li> </ol>
評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.効果が上がっている事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) アセスメント・ポリシー策定に関すること</li> </ol> </li> </ol>

①医学部との整合性をとり、公開に至った。②アセスメント・ポリシーおよびフィードバックの流れに基づいて査定を実施した。③ジェネリックスキルテストを実施した。昨年度実施したジェネリックスキルテスト結果を、学科会議で全教員に共有し、受験した学生へも4月にフィードバックを行ったことで、強み、課題について共有できた。次年度より入学時と3年生での受験が承認され、成長と課題の明確化を行う。

## 2) 教育課程の運営に関すること

### (1) カリキュラム評価に関する事項（外部委員・学生委員の意見）

外部委員（1名を2回）や学生委員（1.2.4年各2名）の参加による検討がなされた。外部委員へは特に英語教育に関する課題や授業改善のあり方について、意見があった。英語教育に関しては、次年度より藤井先生が担当予定である。また、授業改善が必要とされる教科は、担当領域で継続審議を依頼した。

1年生からは、英語の授業のレベル、科目の開講時期、授業評価の実施時期、合宿研修、時間割、医療人マインドのグループ編成などについて、2年生からは、科目の順序性、2年生前期試験の負担への対策、試験スケジュールなどについて、4年生からは、英語の科目が少なく感じる、3年生後期の領域別実習前に、解剖生理の知識の振り返りの機会の要望、解剖の見学時期、グループワークの人数、保健師実習に関連する科目の復習、多職種連携、各学年でDPを振り返る機会などの意見が得られ、対応について検討した。

(2) 卒業生に対し、ディプロマポリシーのうち、特に看護実践力に関するアンケートを行った。

今後の大学教育の充実および質改善に役立てることを目的に、1年目23名（72%）、2年目3名（9%）、4年目6名（19%）を対象に、ディプロマポリシーのうち、特に看護実践力に関する自記式質問紙調査を実施した。卒後1年目23名（72%）、2年目3名（9%）、4年目6名（19%）の計32名（100%）から回答が得られた。その結果、看護実践に関する「悩みや問題と感じていること」については、技術関連、知識関連がみられた。在学生のうちに”もっと学ぶ必要があった、もっと学びたかった”と思う学習内容は、解剖・疾患理解、基本看護技術、コミュニケーション方法、急変時の対応などであった。本学の教育に対する意見では、肯定的な意見の一方で、臨床現場に活かせるような教育を求めている。

### (3) 卒業時到達目標の自己評価との関連

卒業時到達目標に関して、本学のDPと看護学教育モデル・コア・カリキュラムの「看護系人材としての求められる基本的な資質・能力」、「看護系大学におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」を基に項目を作成した。作成後に看護学部のFDを実施し、卒業時到達目標の項目の洗練化をはかった。そして、2019年度の卒業生84名を対象に作成した卒業時到達目標の自己評価を実施した。その結果、各項目の全体平均は3以上あるので総じて高いといえる。特に高いのは自己研鑽力3.53と倫理観3.44であった。項目の中で低かったのは課題探求力3.08であった。看護学部という特殊性から考えて、カリキュラムの特徴である臨床実

習経験から専門職としての責務と役割や看護の対象となる人々への態度などに関して学びが大きいと思われる。

(4) 教員を対象としたカリキュラム評価に関するアンケートは、次年度実施を計画する。

(5) ティーチングポートフォリオに関すること

ティーチングポートフォリオ（以下TP）のFDを実施し、概念や作成の意義、導入方法について学んだ。医学部および看護学部教員66名が参加した。46名（回収率70.0%）のアンケート結果から、TPについて理解が深まった、教育を振り返る機会となり、今後の教育を考えていく際の良い機会となったといった意見が得られた。実際の作成プロセスを知りたいという要望があった。

3) その他

(1) 非常勤、兼任教員への看護学部学生の学習に関する調査

非常勤、兼任教員に、学生の学習に対する姿勢や態度、日頃の学習行動に関するご意見を収集し、2020年度の看護学部教育に反映させることを目的に2020年2月10日（月）～2月21日（金）の間に、メールでのアンケート調査を実施した。非常勤、兼任教員18名中11名（61.1%）から以下の回答が得られた。

①「学生の学習に対する姿勢や態度、日頃の学習行動（課題提出を含む予習、復習状況、授業中の態度など）」

良好が8名であった。一方、課題となる意見・要望は、「からだと栄養」「物理学」「英語Ⅰ、Ⅱ」「日本国憲法と法律」の科目にて私語や居眠りなどの授業態度や授業参加姿勢欠如があった。

②「学生の学習に対する姿勢や態度、日頃の学習行動の課題（問題）」に対する意見要望

改善意見として、小テストや学生に身近な具体例をあげる、質問を投げかけるなど授業内容の工夫や班に分かれてプレゼンテーションによる双方向の授業などがあげられた。「英語Ⅰ、Ⅱ」については、クラスの学生数が多く評価が困難であり、30人程度の少人数に変更すべきといった意見があった。

③看護学部の教育（科目設定や統合、教育内容、教育評価）に対する意見要望

他科目とのつながりを意識した授業づくりや科目全体を見通せるような機会を設けること、「感染と免疫」「英語Ⅰ、Ⅱ」は時間数の不足があがった。私語への対策として教室の座席を離すなどの意見があった。

(2) カリキュラム見直し案検討

カリキュラム改正に関わる外部セミナー参加で情報収集した内容も含め、カリキュラム改正のための、2019～2022年度までの改訂スケジュール、2020年度カリキュラム検討WG会議年間計画表を作成した。

2. 改善すべき事項

1) アセスメント・ポリシー策定に関すること

①2021年度の統合を見越し、大阪薬科大学のアセスメント・ポリシーと内容の調整をしていく必要がある。②アセスメント・ポリシーおよびフィードバックの

	<p>流れの評価改善を継続して実施する。③入学時にもジェネリックスキルテストを行い、成長の度合いを3年生時に評価する。またジェネリックテストの結果を実習の班割りや卒業研究の決定の際に活用できないかどうかを検討する。</p> <p>2) 教育課程の運営に関すること</p> <p>(1) カリキュラム評価に関する事項(学勢調査・外部委員・学生委員の会議参加) 6月の学勢調査報告結果をもとに改善策検討予定、学生・外部委員の意見収集の結果は教授会、教育センター、学科会議で共有し各科目担当者に検討を依頼した。</p> <p>(2) 卒業生に対するディプロマポリシーのうち、特に看護実践力に関するアンケート 卒後1年目が72%を占めており、新卒看護職の意見が多かったことも影響し、臨床現場に直結するような解剖・疾患理解、基本看護技術、コミュニケーション方法、また、応用となる急変時の対応に関する教育を求めている。教育現場と臨床現場の乖離を少なくするため、基本的な知識、技術、社会人基礎力などの強化、教育現場と臨床現場共通のポートフォリオ、技術経験録の検討も1つの改善策になるのではないかと考える。</p> <p>(3) 卒業時到達目標の自己評価との関連 各年度、各学生の継続的な比較が必要と考える。課題探求力を向上させるためにグローバルな視点を養う環境づくりが必要と考える。</p> <p>(4) 教員を対象としたカリキュラム評価に関するアンケートの次年度実施。</p> <p>(5) ティーチングポートフォリオ作成に関すること ティーチングポートフォリオに関するFDの継続と導入。</p> <p>3. その他</p> <p>1) 非常勤、兼任教員への看護学部学生の学習に関する調査 学生の学習に対する姿勢や態度、日頃の学習行動では良好な意見の一方で、授業態度の悪さ、授業に興味関心をもち集中させる教授法の工夫の必要性、積極性の欠如、特に英語についてはクラスの学生数や時間数の課題があることが明らかとなった。現在看護学部では、将来構想検討中であるが、2020年度は、こうした意見を学生へフィードバックすると同時に高等教育らしい自覚を促し、英語のクラス分けについては科目担当者とも調整の上導入について検討が必要と考える。</p> <p>2) カリキュラム見直し案検討 2020年4月以降計画表に沿って進め、適宜進捗状況確認、改善しながら進める。</p>
<p>将来に 向けた 発展方策・ 課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アセスメント・ポリシーの、各レベルでの査定とフィードバックの流れに沿って各委員会と連携する。</li> <li>2. 大学統合の審議状況により、教育センターと協働し、カリキュラム検討</li> <li>3. 2022年看護学分野評価を踏まえた、PDCAの推進。</li> <li>4. タイプ1関連事項の推進。</li> <li>5. 2022年第5次看護基礎教育カリキュラム改正を見すえた検討。</li> </ol>

委員会名	(2) カリキュラム評価委員会
目的	カリキュラムの質保証を強化するため、内部評価だけでなく（外部委員や学生委員による）外部評価も反映されたカリキュラム評価・改善のための活動を行う。
構成員	赤澤千春（委員長．5月まで），荒木孝治（委員長．6月から），仲下祐美子，原 明子，北尾里江（5月まで），原口浩幸（6月から）（看護学事務課）（以上，学内委員のみ記載），外部委員：医学部教員1名，他大学看護系教員1名，自治体に所属する専門家1名，学生委員：2年生および4年生の学生代表各1名
活動計画	1. カリキュラムの評価方法の検討と決定 2. カリキュラムに関する評価項目（大項目・中項目・小項目）と評価するための資料の検討および決定 3. 外部委員，学生委員，学内委員が共通に使える評価表の作成 4. 2018年度を対象としたカリキュラム評価の実施と意見交換 5. 報告書の作成
活動概要	2018年度を評価する年度とし，看護学教育カリキュラムの改善に関するPDCAサイクルが連続的に回っているかどうかを，内部，外部の両方の視点で点検・評価するために，評価項目の大項目を①ディプロマポリシー，②教育設備に関する環境，③過程，④成果，⑤改善とし，それぞれの大項目の下に中項目，小項目を設け，それらの評価項目を評価できる資料を決定した．また，外部委員や学生委員にとっても評価が行いやすい評価表（俯瞰してPDCAサイクルが回っているかを，三段階で評価のできるもの）を作成した．学内委員ワーキング会議は計11回開催した．外部委員を含めた第1回カリキュラム評価委員会は2019年9月27日に開催し，評価表の検討・決定を行った．2019年12月から2020年1月にかけて，外部委員，学生委員，学内委員がそれぞれの評価項目に対する評価を行い，2020年2月4日の第2回カリキュラム評価委員会にて委員が集まり，その結果を共有しつつ意見の交換を行った．2020年3月，カリキュラム評価の結果とその総括および今後の課題を報告書にまとめた．
評価	1. 効果が上がっている事項 1) カリキュラムの改善に関するPDCAサイクルを点検でき，外部委員，学生委員，学内委員が共通して使える評価表を作成した点 2) 外部委員，学生委員，学内委員ともに十分に実施されていると評価している項目，反対に委員間で評価において乖離のあった項目があったことをとおして，データに基づいてカリキュラムに関する本学部の強みと課題が明らかになった点．具体的には，知識技術の習得や看護実践の教授，学習環境の整備についてはPDCAが回っているが，一方で，カリキュラムに関する情報が学生に十分伝わっているかは不明確との課題が見つかった点。 2. 改善すべき事項 カリキュラムの評価は大きくはディプロマポリシー，環境，過程，成果，改善の5項目から構成されているが，その中で環境の評価項目であるICT状況，グループ演習室，セルフトレーニング，PC台数等設備系に関する評価項目やカリキュラ

	ムマップ等, 1年間でPDCAを回すことが容易でない項目もあったため, 単年度の評価だけでなく複数年度にわたる評価を取り入れる必要のある点.
将来に 向けた 発展方策・ 課題	学生委員は授業や実習あるいは国家試験対応が優先となるため委員会やワーキンググループに参加することができなかった. 委員会等の開催の日程について調整が必要である. また, 学生がカリキュラム評価委員会の委員としてどのような役割を担うのかについて十分なオリエンテーションができていたわけではない. 学生委員への時間上の配慮や十分な説明の仕方等, 検討が必要である.

委員会名	(3) 実習委員会
目的	看護学実習に関わる事項（年間計画の立案，実習要綱の作成，実習連絡協議会の企画・運営，予算案作成，インシデント等に関する検討など）の調整をする。
構成員	真継和子（委員長），カルデナス暁東，草野恵美子，寺口佐與子，川北敬美，府川晃子，山崎 歩，竹 明美，樋上容子，山内彩香，吉田美津子（事務8月まで），星加圭子・橋本千恵子（事務9月から）
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習連絡協議会の企画・運営，協議会のあり方に関する検討</li> <li>2. 実習オリエンテーションの企画，運営</li> <li>3. 看護学実習要綱（共通事項），各領域別実習要項，広域統合看護学実習要項等の修正と取りまとめ</li> <li>4. 臨地実習における障がいのある学生への支援</li> <li>5. 領域別実習のグループ編成，看護学実習に関する調整，年間計画の立案</li> <li>6. 実習状況に関する情報共有</li> <li>7. 対応困難な学生への対応に関する意見交換会の開催，FD研修会の企画</li> <li>8. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント分析と今後の対策の検討</li> <li>9. 実習前の倫理学習に関する学生および教員へのアンケート調査の実施，まとめ</li> <li>10. 感染症対策（ワクチン接種状況，感染予防等）に関わる調整</li> <li>11. 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う実習における対応について検討</li> <li>12. 看護学実習における個人情報取り扱いに関する取り決め事項（案）作成</li> </ol>
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員会の開催：15回の委員会を開催した。</li> <li>2. 実習連絡協議会の企画運営：6月5日に開催した。I部は前年度の実習状況と今年度の実習計画の報告，II部は領域別分科会を行った。学部外参加者は計50名（看護部29名，外部施設21名）の参加があった。</li> <li>3. 実習オリエンテーションの企画，運営：3年次領域実習夏休み前，直前オリエンテーションを開催した。直前オリエンテーションでは倫理グループワークの時間を増やした。詳細は項目11参照。</li> <li>4. 実習要綱等の作成：2019・2020年度各領域別実習要項，2020年度看護学実習要綱（共通事項），広域統合看護学実習要項を作成した。</li> <li>5. 障がいのある学生への支援：学生支援の流れに関する図を修正，提示した。さらに大学基本方針に合わせ，「障がい」を「障害」と改めた。申請のあった学生1名に対し，看護学部障害学生支援委員会の基本方針に則り各領域の特性を踏まえ支援計画を作成，対応した。当該学生は問題なく実習を終えている。全実習終了後，全体報告書を看護学部障害学生支援委員会に提出した。</li> <li>6. 実習グループの編成等：2019年度領域実習グループの編成および看護実践と理論の統合の部屋割り，2020年度実習計画表および看護実践と理論の統合の部屋割り，2021年度実習計画表（案）を作成した。2020年度実習計画について，学生および実習施設の負担を考慮し，5週連続の実習期間を可能な限り避け，かつ全体2月末までに終了するよう，実習の大多数を担う大阪医科大学附属病院看護部との調整を重ね検討した。</li> </ol>

7. 実習状況に関する情報共有：9月以降の委員会にて、学生の実習状況と課題を確認し、領域間での連携をはかった。
8. 対応困難な学生への対応/委員会内 FD 研修：対応困難な学生への対応/委員会内 FD 研修：領域別実習の開始当初に看護職を目指すことへの躊躇やつまづきなど、実習指導が困難な学生が発生した。そのため、対応等について委員会内 FD 研修を行った。その後、学科内 FD 研修へと展開する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のために中止となり、委員会内 FD の成果を文書にて共有し、次年度の取り組みとすることになった。
9. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント分析と対策：学生のインシデントの報告が計 17 件、教員のインシデントの報告が計 4 件あった。学生のインシデントでは、昨年度（インシデント 16 件、アクシデント 2 件）と比べ発生件数は大きく変化なかったが、アクシデントの発生はなかった。実習関連資料の不適切な取り扱い（置き忘れ等）が昨年度に引き続き最も多かった。続いて電子カルテに関連した個人情報に反する行為（誤閲覧等）が多く、特に 2 年生の 9 月に多く発生していた。また今年度は 3 年生に加え、2 年生に対しても、領域実習開始前に具体的事例をもとに倫理に関するグループワークを行い、振り返りができるように結果をまとめた資料を後日学生に配布した。倫理学習に関するアンケート結果によると、倫理グループワークが実習において学生が倫理的な視点を持ち行動するうえでよい効果をもたらしていると評価できた。教員のインシデントでは、実習メモの置き忘れ、職員カードの紛失等があった。
10. 倫理学習に関するアンケート調査
- 1) 学生対象アンケート調査（3 年生）：グループワーク実施直後のアンケート調査では、約 96%が「とても参考になった」「参考になった」と答えていた。よかった点としては「実習前に倫理的な視点を再確認できた」「グループワークをとおして視野が広がった」などが挙げられていた。時間が短かったとの意見が複数あったため、検討が必要である。今年度は新たに、実習終了時にもアンケート調査を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染対策の影響で 4 月以降にもち越しすることとなった。
- 2) 教員対象アンケート調査：領域実習終了後の 3 月に今年度新たに教員を対象とした調査を実施した。倫理に関するグループワークに関しては、事例も実践をイメージしやすい内容であった、例年に比べて個人情報保護への意識が高く感じられる、今後も継続的に実施が望まれるなど一定の評価が得られた。今後取り上げた方がよい事項として、治療選択や看護における倫理的な葛藤場面や学生の実習内容に関する倫理的側面からの検討に加えて、基本的な学生の態度についても挙げられていた。
11. 感染症対策に関する調整：実習におけるワクチン接種状況の確認と接種の必要性について保健管理室より新たな指針が提示された。これに基づき、実習要綱（共通事項）の修正と学生への周知について検討した。また、実習中の健康管理を徹底するため、実習開始時の体温測定と体調確認の実施を全領域で確認し、

	<p>体温計を配架し学生に体温測定を義務付けた。</p> <p>12. 新型コロナウイルス感染症発生，感染拡大に伴う対応：保健管理室，校医と連携し，実習における対応（応急策）を検討，学部内への周知をはかった．また，今年度の追実習対象者4名のうち2名は，国(文科省・厚労省)が提示した「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校，養成所および養成施設等の対応について」(2020年2月28日付)を適用させ，2020年度に実施することとした。</p> <p>13. 個人情報取り扱いに関する取り決め事項（案）作成：個人情報に関連するインシデント報告が例年一定数あること，個人情報取り扱いに関する具体的内容の明文化がなかったことから，取り決め事項（案）を作成した。</p>
<p>評価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 学生の実習状況に関する情報交換を定期的を実施したことにより，個々の学生のレディネスに応じた指導，対応がしやすくなった。</p> <p>2) 領域別実習前に実施した倫理学習などの効果もあり，インシデントに対する学生の意識が高まってきた．自ら報告するとともに振り返りが深まっている．さらに，教員間での課題の共有，対応が円滑にできた。</p> <p>3) 健康障害などにより合理的配慮を必要とする学生への対応は，基本方針に則り各領域間で連携できたことにより，学習環境を整え，細やかな対応ができた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) 今年度，実習中のアクシデントは発生せず，倫理学習の成果もありヒヤリハット/インシデント/アクシデントへの意識は高まったものの，電子カルテの誤閲覧や実習関連資料の不適切な取り扱いは依然として多く，より一層の具体的な対策の検討が必要である．また3年生対象の領域実習前の倫理学習では，時間が短いとの意見が学生・教員双方からあり，再検討が必要である。</p> <p>2) 2019年度の実習展開では，6週間連続実習したグループまたは3月まで実習したグループがあった．体調管理に課題のある学生は複数名いたため，実習施設と検討を重ねて，2020年度の実習計画案を作成した．2020年度の5週間連続実習するグループとそうでないグループの学生の実習状況を踏まえて，2021年度の実習計画案を再検討する必要があると思われる可能性がある。</p> <p>3) 学生の健康管理意識を高めるとともに，実習施設との調整をとりながら，患者家族とともに学生への不利益が生じないよう実習を進めていく必要がある。</p>
<p>将来に向けた 発展方策・ 課題</p>	<p>1. 学生のよりよい学修と体調管理を考慮した実習配置に関する検討。</p> <p>2. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデントに関する対策と倫理学習の一層の充実。</p> <p>3. 健康障害をもつ学生や対応困難な学生への支援体制の強化。</p> <p>4. 臨地教育教員の実習連絡協議会への参加促進，指導上の情報共有の活性化。</p>

委員会名	(4) ウェブサイト委員会
目的	看護学部のウェブサイトを目滑りに管理運用する。
構成員	土手友太郎（委員長）、草野恵美子、大橋尚弘、川上将弘 （オブザーバー） 法人広報室：松田久美、田中庸介
活動計画	1. 看護学部教員・各領域に関する情報更新 2. 学部長あいさつ、トップページ写真等の更新 3. 各センター・委員会関連ページの更新・充実 4. 看護学部年報、看護研究雑誌の最新号掲載 5. その他、必要な更新および情報公開（随時）
活動概要	1. 委員会の開催 委員会（10回）を開催し、サイト更新に関する検討・準備と確認を行った。 2. サイト更新 1) 教員一覧、各教員情報、教員からのメッセージ、領域ページの更新 2) 学部長あいさつの更新、その他年次情報更新 3) 看護実践研究センター・教育センター・学生生活支援センター更新、国家試験合格情報、就職・進路状況の更新 4) 2018年度看護学部年報、看護研究雑誌第10巻掲載 5) 各種告知事項、実施報告等の更新 6) タイトル画像の見直し 7) Web 写真等の変更および追加 多職種連携教育に関連する画像、キャリアコースの選択に看護師、保健師、助産師の3職種の画像をそれぞれ採用する。
評価	1. 効果が上がっている事項 実践研究センターのページに国際交流の内容が埋もれていたが HP の「関連情報」欄の左上1番目に「看護学部の国際交流」という文言のクリックボタンを設け、外部から詳細を閲覧できるようになった。 2. 改善すべき事項 1) 教員からのメッセージの画像欄に次年度の更新時に各教員の画像やイラストを反映させられるようにする。 2) 国家試験対策の支援状況（講座風景や面談風景など）がわかる画像を挿入する。実践研究センターの欄に国際交流活動をわかりやすく示す台北医科大学学生の実習風景を挿入する。
将来に向けた発展方策・課題	1. 大学統合後の大学、各学部カラーが決定していないため、HP に反映していくことができない。大学統合後も現行の看護学部 HP はそのまま残る予定である。

委員会名	(5) 看護研究雑誌編集委員会
目的	主に大阪医科大学看護学部の教員がその研究業績を発表する雑誌である「大阪医科大学看護研究雑誌」の論文受稿・査読，編集，出版等に関わる業務を行う。
構成員	吉田久美子（委員長），元村直靖，カルデナス暁東，山崎歩
活動計画	1. 第 10 巻発行と投稿への働きかけ 2. 必要により学外者も含めての 2 名の適正な査読体制の維持 3. 査読のシステムに関する評価と今後のあり方の検討
活動概要	1. 「大阪医科大学看護研究雑誌」第 10 巻の発行に向けて，論文の募集，査読者の選出，査読結果を踏まえての採否の決定，修正論文の再査読を踏まえての採否の決定，採択論文の校正，雑誌全体の校正等の作業を行った。 2. 第 10 巻は研究報告 1 編，実践報告 2 編資料 5 編の計 8 編の論文を掲載した。
評価	1. 効果が上がっている事項 投稿規定に沿って計画通りに編集業務を進めることができた。 2. 改善すべき事項 論文種では応募段階から資料の希望が多く，今回原著論文はなかった。また，査読を進める中で，辞退などもあり掲載論文が減少している。これは論文作成に要する期間とも関連するので，論文の募集の時期等の検討が必要である。
将来に向けた発展方策・課題	教員や大学院生から 多く応募があるように論文募集の時期の検討が必要である。 論文の内容に沿って適切と思われる査読者を選出する必要があることから，査読体制については引き続き検討していく必要がある。

委員会名	(6) 予算委員会
目的	看護学部における適正な年間予算案を要望することを目的とする。
構成員	赤澤千春（学部長），佐々木綾子（教育センター長），真継和子（実習委員会委員長）土手友太郎（教授），原口浩幸，中野恵梨子（看護学事務課）
活動計画	各部署等より提出された予算案を基に作成された 2019 年度看護学部予算案の審議を行い，教授会で承認を得た。 ① 学生の教育，学生の実習に係る備品等 ② 各センターおよび各委員会に係る活動費 ③ 教員の研修等に係る活動費 ④ 教員の交通費 ⑤ 実習補助員に係る諸経費 ⑥ 看護学事務課に係る諸経費 ⑦ その他，学部長が必要と認めたもの
活動概要	予算案を作成するために，看護学部消耗品等できるだけ削減するように努め，2020 年度には看護学部として以下の新規購入を要望した。 ① 北キャンパス看護学部 講義室 AV 機器 老朽化に伴う更新（看護学部） ② 看護学部ジェネリックスキルテスト（カリキュラム委員会） ③ 装着型注射モデル“きんちゅう”くんⅡ（基礎看護学） ④ 装着型採血用モデル I.V.Pad（基礎看護学） ⑤ 静脈可視化装置 AccuVein（基礎看護学） ⑥ シミュレーターモデルラングⅡ（教育センター） ⑦ 北キャンパス防犯カメラ設置工事（学生生活支援センター） ⑧ 北キャンパス 1 階学生ホール照明機器更新工事（学生生活支援センター） ⑨ デスクセット等の一式購入（教員）（看護学部） ⑩ 北キャンパス研究棟ロールスクリーン増設工事（看護学部） ⑪ 北キャンパス 看護学部講堂 AV 機器 老朽化に伴う更新（看護学部）
評価	1) 効果が上がっている事項 予算委員会で審議し，教授会で最終確認することによって適正な予算要望を推進することができた。 2) 改善すべき事項 予算委員会では予算案作成のみでなく，年度の予算決定の確認と執行状況をチェックしていく必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	2019 年度予算の執行状況を確認しながら，看護学部にとって適正な予算要望を検討することが重要である。

委員会名	(7) 物品管理委員会
目的	講義，演習等を円滑に進めるため，授業に関する物品の維持および管理，物品に関する情報収集と学部内教員への発信，その他物品管理に関する事項を行う。
構成員	真継和子（委員長），二宮早苗，倉橋理香，近澤 幸，中野恵梨子（事務）
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教務関係備品等・消耗品の在庫管理と点検</li> <li>2. 教務関係備品の貸出管理</li> <li>3. 固定資産備品の確認・点検</li> <li>4. 固定資産台帳および物品管理台帳の整理</li> <li>5. 実習室，器材庫，実験室等の整備</li> <li>6. 各種申し合わせ事項等の見直しと改正</li> <li>7. 2020 年度教務関係物品購入予算案の作成</li> </ol>
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員会開催 2019 年 4 月～2020 年 3 月に計 9 回の委員会を開催した。</li> <li>2. 教務関係備品・消耗品の在庫管理と点検 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラベル付き物品による定数化運用により，消耗品の適切な補充を行った。</li> <li>・中期計画によりストレッチャーの点検を行い，要修理の備品は修理完了した。</li> <li>・大阪医科大学附属病院より心電図 1 台が移管，看護実践発展領域の管理とした。</li> <li>・共通物品，領域管理責任の備品点検は 3 月に定数確認した。</li> </ul> </li> <li>3. 教務関係備品の貸出管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1 件の借用申請があり返却された。昨年度，物品破損があった修理中の 1 件について修理後の返却を確認した。</li> </ul> </li> <li>4. 固定資産備品の確認・点検 <ul style="list-style-type: none"> <li>・固定資産台帳に基づき固定資産に該当する備品の確認を行った。</li> </ul> </li> <li>5. 固定資産台帳および物品管理台帳の整理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・固定資産台帳を整理した。さらに備品等の管理や点検が実施しやすいように，保助看法管理リストの確認，各領域の物品管理台帳がリンクするよう整理した。新たに保助看法に追加された物品についてリストに加えるとともに，不足している物品リストを作成した。</li> </ul> </li> <li>6. 実習室，器材庫，実験室等の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習室 5 は動線や使用できる空間が増えるよう，棚の配置換えを実施した。</li> <li>・器材庫棚の地震対策用バンド取り付け，各階展示棚のワイヤー固定を行った。</li> <li>・シーツ等 8 月と 3 月にクリーニングに出した。</li> </ul> </li> <li>7. 各種申し合わせ事項等の見直しと作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・物品借用に関する取り決め事項，不明・故障備品の取扱い，物品購入伺い，備品等の移管の流れに関する申し合わせ事項，備品等の廃棄方法等を確認し，現状に合わせ書類および手続きについて修正，学部内への周知をはかった。</li> </ul> </li> <li>8. 2020 年度教務関係物品購入予算案の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019 年度執行状況を参考に作成した。</li> </ul> </li> </ol>

<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 固定資産台帳および各領域の物品管理台帳の整理を行ったことにより，管理領域が明確となった。</p> <p>2) 教務関係備品やモデル類など計画にもとづき確実に点検・修理が行われた。</p> <p>3) 看護学事務課との連携により修繕，購入が円滑に行われるようになった。</p> <p>4) 各種申し合わせ事項の見直しにより，現状に沿った手続きができるようになった。</p> <p>5) 固定資産台帳，保助看法物品リスト，物品管理台帳の整理により，不足物品等が明確となり，長期的な購入計画の策定がしやすくなった。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) 応急的な地震対策はしたが，さらに備品等の配置場所および方法の検討が必要。</p> <p>2) 不足物品，老朽化に伴う物品・備品の適正かつ計画的な購入が必要。</p> <p>3) 枕などの寝具類を定期的にクリーニングに出せるよう計画する。</p>
<p>将来に向けた発展方策・課題</p>	<p>1. 物品および備品の長期的な購入計画の策定と購入。</p> <p>2. 実習室，器材庫，実験室，学生の実習室内更衣場所の整備。</p> <p>3. 実習室の安全対策整備の強化。</p>

委員会名	(8) 就職支援委員会
目的	大阪医科大学看護学部の学生の就職・進路の支援
構成員	○池西悦子（委員長），山崎 歩，二宮早苗，倉橋理香，柴田佳純，山内彩香，川上将弘，吉羽知子
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生に対する就職情報提供</li> <li>2. 学生の就職活動力強化のためのサポート</li> <li>3. 教員の就職活動支援力向上のためのサポート</li> <li>4. 就職活動および内定状況の把握</li> <li>5. 卒業生と在校生の交流の機会を設け，情報提供の充実をはかる</li> <li>6. 卒業生に関するアンケート調査</li> <li>7. 就職・キャリアサポート支援内容の学生ガイドへの掲載</li> <li>8. 来校人事担当者との対応による情報収集</li> <li>9. HP の更新</li> </ol>
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生に対する就職情報提供の一環として，就職活動スケジュール等の情報や看護職員募集情報，パンフレットなどをキャリアサポートルーム内外に設置し，ポスターはA0印刷で掲示した。また，毎月ユニパでタイムリーな就職活動ができるよう，学年毎に行動レベルの情報発信を行った。</li> <li>2. 学生の就職活動力の支援として就職ガイダンスを3回実施した。第1回目は2019年6月17日（月）に本学附属病院人事企画研修課担当者，就職支援業者による「看護学生のための就職活動講座～入門編」を開催した。3年生86名が参加した。第2回目は，2020年1月25日（土），本学附属病院担当者，第5期卒業生の看護師，保健師，助産師による講演を開催した。3年生83名，卒業生約34名が参加した。同日，卒業生との合同昼食会，就職支援業者による履歴書および面接対策の講演を実施した。第3回目は低学年向けガイダンスとして，2019年12月19日（木）に就職支援業者による就職活動講座を行い，2年生80名，1年生3名が参加した。</li> <li>3. 教員の就職活動支援力向上に対しては，就職支援業者による履歴書，面接対策の講演資料を共有フォルダで共有し，指導に活用できるようにした。</li> <li>4. 就職活動および内定状況の把握は就業調査票にて行い，2020年1月に卒業年次生全員の進路が決定したことを確認し，学部教授会で報告した。</li> <li>5. 2020年3月6日・18日，履歴書添削セミナーを開催予定であったが，感染症対策により対面指導から書面指導に変更した。提出者は74名であった。</li> <li>6. 卒業生アンケートは，合同実施の教育センターと検討し3年ごとに継続実施することとした。次回は2021年度に実施予定である。</li> <li>7. 2020年度学生ガイドに就職・キャリアサポートについて1～4年生までの就職活動スケジュールや支援内容を具体的に掲載した。</li> <li>8. 人事担当者の来訪は6施設であった。情報収集応接録は閲覧用に同室と共有フォルダで保管し，教員が指導に活用できるようにした。</li> </ol>

	<p>9. HP は、就職ガイダンス開催後、写真付きの記事を随時更新した。今年度の卒業生の就職状況（主な就職先）と進学先を掲載予定である。</p>
<p><b>評 価</b></p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>全国と比較して関西地域の採用試験が年々早まっているため、低学年のガイダンス開催やタイムリーな就職情報を発信し、学生の意識向上をはかった。キャリアサポートルーム利用者は今年度 88 名の利用が見られ、昨年度より 57%アップした。掲示板とユニパによる支援活用率は、3 年生約 30%、4 年生約 50%と学年が上がるにつれて上昇していることから、掲示板による啓蒙とユニパによる就職情報の定期配信は必要性が高い。</p> <p>就職ガイダンスは、低学年ガイダンスに就活スケジュールを前倒しで取り入れ、学生の主体性を育むため任意の参加に変更した。学生の参加率、満足度ともに高く、初めて低学年ガイダンスを開始した現 3 年生は 69%が就職支援サイトを利用し 55%が病院情報を WEB 検索するなど昨年より自主的な行動が増加していることから、積み上げ式のガイダンス企画は、一定の効果があり学生のニーズに適っていると考える。また、卒業生との交流は満足度が高く、学生のキャリア形成には重要である。多様な卒業生との交流をはかるべく、関東に就職した卒業生に依頼したが、日程調整が困難で叶わなかった。</p> <p>履歴書添削セミナー参加者は、昨年の 24 名から 74 名へと増加した。第 2 回ガイダンスの効果と直後に申込み書を配布したことが影響したと考える。しかし、感染症対策のため、対面式から書面添削へと方法変更となり、休校中で書面添削への評価ができなかった。</p>
<p><b>将来に向けた 発展方策・ 課題</b></p>	<p>1. 第 2 回ガイダンスは、内容を凝縮し時間短縮を計ること、卒業生との交流では関東への就職者や進学者など多様な講演者を招聘することが課題である。</p> <p>2. 就職活動および就業調査票は、ユニパでの提出に変更し、集計作業の簡便化、後輩への情報提供の迅速化をはかる。</p> <p>3. 感染症対策で、次年度の採用試験が延期となっている施設が多いため、タイムリーな学生への情報提供、個別相談等の支援が必要と考えられる。</p>

委員会名	(9) 国家試験対策委員会
目的	大阪医科大学看護学部学生の看護師・保健師・助産師の国家試験受験をサポートして合格率向上を目指す。
構成員	荒木孝治（委員長）、泊 祐子、佐野かおり、宮川幸代、土井智生、原 明子、山埜ふみ恵、橋本千恵子、林 陽子（2020年2月より）
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続</li> <li>2. 2019年度国家試験対策の模試および対策講座の実施</li> <li>3. 2020年度国家試験対策の企画および予算案の作成</li> <li>4. 国家試験対策活動の保護者への周知</li> <li>5. 模試成績不良者の対策：講座への出席率を向上させる方策の検討，チューターとの情報共有およびさらなる協働方法の検討</li> <li>6. 国家試験対策（模試および対策講座）の評価</li> </ol>
活動概要	<p>1) 役割分担</p> <p>本年度の委員の役割分担は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 議事次第作成・委員会進行：荒木委員</li> <li>(2) 議事録作成 佐野委員：宮川委員，土井委員，原委員，山埜委員</li> <li>(3) 全体総括等：荒木委員</li> <li>(4) 東京アカデミー窓口：泊委員，荒木委員</li> <li>(5) 看護師対策講座・看護師模試：佐野委員，土井委員，原委員</li> <li>(6) 保健師対策講座・模試：山埜委員</li> <li>(7) 助産師対策講座・模試：宮川委員</li> <li>(8) 1～3年生対策講座：土井委員</li> <li>(9) 模試・対策講座の出席管理：橋本委員</li> <li>(10) 郵便物管理：原委員</li> </ol> <p>2) 模試と対策講座</p> <p>国家試験を受験する学生の全員合格を目指して，4年生を対象に実施した全国規模の模試および対策講座の回数は，看護師国試対策講座 12回，看護師国試模試 6回，保健師国試対策講座 5回，保健師国試模試 3回，助産師国試対策セミナー2回，助産師国試模試 2回であった。3年生については全国規模の模試 2回，2年生および1年生に関しては全国規模の模試を 1回ずつ実施した。新型コロナウイルス感染拡大に鑑み，3月に予定されていた3年生および2年生の対策講座は延期された。</p> <p>3) 国試対策関連の図書購入</p> <p>4年生の国家試験対策学生委員に学生の図書購入に関する希望の有無，図書名の提出をするよう連絡した。学生からの希望購入図書はなかったため，委員会として必修問題集をはじめ何冊かをピックアップし購入した。当該書籍は勉強会等で自由閲覧の形で学生に活用された。</p> <p>4) チューターとの情報共有</p> <p>対策講座・模試の出欠席一覧表を学科会議で報告し，チューターからも出席の声かけをしてもらうよう依頼した（6月）。また，全教員が担当チューターの学生に限</p>

らず成績を確認できるよう、share フォルダの国試対策委員会フォルダから模試結果を確認できるようにした（7月）。本年度より東京アカデミーの模試返却方法が紙媒体から Web 媒体に変さらになったため、学生には模試結果を印刷してチューターに報告するよう周知し、チューターに結果を確認したか記載してもらい委員会と情報共有できるようフォルダを作成した。勉強会の対象学生の選定にあたって、選定基準のための資料（模試結果の推移を一覧にしたもの）を全教員に配布した（11月）。最後の模試の結果と総評を学科会議にて全教員に報告した（1月）。

#### 5) 看護師国試対策勉強会

看護師の国試対策については、4年生の模擬試験の結果の推移に基づいて、9月期、11月～12月期、1月～2月期に勉強会を実施した。

(1) 9月期：8/23 のテコム必修模試の結果を昨年度と比較すると、4年生全体の得点率は上昇しているが、60 %台の学生は昨年度より得点率が低く、成績の二極化が見られることが明らかとなった。本年度は昨年度より対策講座の回数が減少していることを踏まえ、対象学生に対して、自己学習と教員による確認を中心とした勉強会を実施した。開催回数 10 回（各回とも時間は 9 時から 12 時まで）のうち、5 名の出席回数は 平均 4.4 回、最低 4 回、最高 6 回であった（全体では 55 %の出席率となった）。

(2) 11月～12月期：これまでに受験した模試成績一覧をもとに計 38 名の学生（以下、対象者）に勉強会への参加を求めた。自主的に参加を希望する学生（計 46 名）も勉強会に加わった。11/11 から 12/6 の間に計 15 回（各回とも時間は 9 時から 12 時まで）各回、開始時に小テストを実施し、その後は自己学習を行うという形で実施された。医学系教員による対策講座を同期間中に 1 回実施した。対象者の参加状況はおおむね良好であった。

(3) 1月～2月期：12/8 の全国模試の自己採点結果をもとに勉強会の対象者（最終的に 17 名）を選定した。参加を希望する学生も勉強会に参加した。1/6 から 2/7 までの間に計 25 回（各回とも時間は 9 時から 16 時まで）の勉強会が行なわれた。各回、開始時に小テストを実施し（2/3 以降はなし）、その後は自己学習の形で実施された。委員以外の教員も声掛けや見守りを行った。同期間中の 2 回の模試（国試に準じて午前と午後に分けて実施）を行った。

#### 6) 保健師・助産師国試対策

保健師の国試対策については 1 月の対策講座を学生の苦手分野の対策に当て、また、公衆衛生看護学領域の協力を得て成績の伸びない学生に対する個別指導を行うなどの対策を続けた。助産師の国試対策においても母性看護学領域の協力を得て成績の伸びない学生に対する個別指導を行い、対策を重ねた。

#### 7) 自己採点会

2/17 に看護師・保健師・助産師国家試験の自己採点会を実施し、学生の全員から自己採点結果の報告を受けた。

#### 8) 学生へのアンケート

(1) 国家試験対策に関する実態調査（中間）

	<p>10/2 に 4 年生学生を対象として国試対策の状況についてアンケートを行った。84 名中 80 名の学生から回答が得られた (回答率 95.2%)。国試を自覚したのは 4 年生になってからの割合が高いこと、自覚する要因は模試の結果や周囲の学生からの影響等であることなどがわかった。</p> <p>(2) 1 年間の国試対策に対するアンケート (期末)</p> <p>2/17 に 4 年生の学生を対象として 1 年間の国試対策について振り返ってもらいアンケートを実施した。84 名中 80 名の学生から回答が得られた (回答率 95.2%)。勉強会の実施については、昨年度よりも本年度の方が勉強会に前向きなコメントが多かった。</p> <p>9) その他</p> <p>国家試験対策に関する情報がタイムリーに確実に伝わるように各学年の掲示板の中に国家試験対策のコーナーを確保した。</p>
<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 第 109 回看護師国家試験は受験生 85 名 (新卒 84 名, 既卒 1 名) が全員合格した (全国平均 (89.2%)。第 106 回保健師国家試験は受験生 35 名が全員合格した (全国平均 91.5%)。第 103 回助産師国家試験は受験生 6 名が全員合格した (全国平均 99.4%)。</p> <p>2) 期末に行った学生アンケートの結果から、国家試験日に近づくにつれ徐々に学習意欲が高まり、真剣に取り組んでいった様子が確認できた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) アンケート結果の分析から、国家試験対策委員の学生を中心に学生間で協力しながら学習効果を高める方法を学生自身が見いだしていくように働きかけていく必要がある。</p> <p>2) 勉強会の折に行う小テストの教材について、著作権を保護しながら、学生にとって学びが効果的なものとなるための方法についてさらなる検討が必要である。</p>
<p>将来に 向けた 発展方策・ 課題</p>	<p>1. これまで模試と対策講座については特定の業者を中心としたスケジュールを組んできたが、学生にとって勉強しやすい方法や媒体を少しでも増やすことができるように、Web 上でのオンライン講座等の利用など、多角的に検討していくことが求められる。</p> <p>2. 不合格者への継続した具体的な支援方法を決定する。</p>

<b>委員会名</b>	(10) 看護学部年報編集委員会
<b>目的</b>	看護学部・看護学研究科の年報編集・印刷に関わる事項を調整する。
<b>構成員</b>	吉田久美子（委員長）、道重文子、カルデナス暁東、寺口佐與子、山本暁生
<b>活動計画</b>	1. 2018 年度年報の取り纏め・発行 2. 2018 年度年報の HP 上での公開 3. 2019 年度年報作成のための原稿依頼
<b>活動概要</b>	1. 委員会の開催 2019 年 4/26, 5/21, 6/4, 6/17, 8/27, 2020 年 2/6 の 6 回の委員会を開催した。 2. 2018 年度年報の発行 1) 2018 年度の原稿の校正と編集 障がい学生支援委員会の追加 大学基準協会の自己点検・評価報告資料としての見直し 2) 2018 年 7 月 31 日に年報を発行した。 3) 冊子 35 部作成し関連部署に配布した。 4) 看護学部教員へは HP 上で PDF を公開した。 3. 2019 年度年報作成について 1) 看護学部と看護学研究科の委員会の増加に伴い、原稿の目次や執筆要領の見直しと見本を呈示した。 2) 2019 年度年報作成のための原稿を依頼した。 3) 各センター・委員会・領域・部署および各教員から原稿を集めた。
<b>評価</b>	1. 効果が上がっている事項 毎年、看護学部と看護学研究科の組織、運営と教育活動、研究活動、社会活動、地域・社会貢献を PDCA にて年報にまとめていることで、基準協会の資料として役立った。 2. 改善すべき事項 今後、看護学部の分野別評価もあることから、センターや委員会活動で行っているアンケート等の資料を年報に添付し、根拠資料の保管と提示を行う。 年報の内容において、研究科の活動内容が十分に収められていないことから、内容の充実と表題の検討を行う。
<b>将来に向けた 発展方策・ 課題</b>	1. 2019 年度年報の発行し、HP 上に掲載する。 2. 2020 年度年報作成の準備をする。 看護学部と研究科の委員会活動等の記載内容と見直しと資料保存と表題の検討。 3. 2020 年度年報の印刷部数および予算の見直し。

委員会名	(11) 看護学部広報委員会
目的	大阪医科大学看護学部の広報活動のビジョンを示しながら、大阪医科大学学務部入試・広報課、本学部各種委員会との連携をはかり、本学部の受験者を募集する。
構成員	土手友太郎（委員長）、瓜崎貴雄、仲下祐美子、二宮早苗、大橋尚弘、柴田佳純、近澤 幸、小野裕（入試・広報課）、高橋七枝（入試・広報課）
活動計画	1. オープンキャンパス(OC)企画・運営 2. 進学ガイダンス出向の調整・実施 3. 看護学部案内の企画
活動概要	1. 委員会の開催：定例会を12回開催した。 2. OC企画・運営 今年度は2回のOCと1回の入試説明会を企画・運営した。OCは学部・入試説明、模擬講義、体験実習、対策ゼミ、教員による個別相談、在学生交流、学生プレゼン（入試対策、学生生活）、看護学部キャンパスツアー、中央手術棟等病院ツアー、本学卒業生の保健師・助産師・看護師の講演を実施した。入試説明会では学部・入試説明や対策ゼミを主軸に他教員による個別相談、在学生交流を実施した。 3. 進学ガイダンスの出向の調整・実施 各種進学相談会には23会場に参加した。教員は5会場に出向し、ガイダンスおよび講演、個別相談を実施した。 4. 大学案内の作製にあたり、在校生の紹介等取材協力を行った。
評価	1. 効果が上がっている事項 OCでは、積極的な学生ボランティアの募集で十分な協力数を得られた。体験実習では低学年も配置し、1件は学生が企画運営を行うなど、学生が主体的に継続参加できるしくみづくりを行った。大型ディスプレイを数カ所に配置し、行事予定や昨年度のOC風景をスライドショーした。来場者は昨年度よりもやや多く1142名であった。ランチョンは弁当からお菓子に変更し、夏季のイベントにおける食品衛生の安全性が高まった。教員による個別相談後において、質問内容を整理し、頻度の多い項目についての説明を補足したQ&Aを次年度用に作成した。 2. 改善すべき事項 OCでは、病院が工事中で十分な病院ツアーができず、中央手術棟のみの見学になっている。また、来場者アンケートの回収率が低く（17.8%）、今後の企画の参考にしにくい。
将来に向けた発展方策・課題	1. 予算削減により記念品や学生ボランティアの人数について制限がかかる。 2. 本学の特色を出せるような、例えば授業支援システムや情報処理室およびクリッカーなどのICTを活用した学習をアピールできる企画が必要である。 3. 外部講師による受験対策ゼミの有用性を再検討すべきである。 4. アンケートの回収率を上げるため記念品を付箋かグッズの選択としアンケート回答者にだけ渡す。

委員会名	(12) 教員再任審査準備委員会
目的	本年度、任期付き教員の審査が実施できるように細則、再任基準および再任審査フローチャートの整備を行う。
構成員	泊 祐子（委員長）、吉田久美子、小林道太郎
活動計画	1. 任期付き教員の再任用に関する規程の整理 2. 看護学部任期付教員の再任手続きに関する細則（案）の作成 3. 再任用基準（案）の作成
活動概要	1. 任期付き教員の再任用に関する規程の整理 資料 1：学校法人大阪医科大学教員の任期に関する規定（平成 19 年 4 月 1 日施行）、資料 2：再任承認に関する申し合わせ（2016.11）、資料 3：大阪医科大学看護学部教員採用・承認に関する申し合わせ事項（2016.11）、資料 4：看護学部教員の任期満了に伴う再任審査手続きに関するフロー図（案）（2017.1）および資料 5：大阪医科大学医学部 任期付き教員の手続きに関する細則（2018 年 12 月 1 日施行）を元に、これまでの経緯を確認し、「看護学部教員の任期満了に伴う再任審査の手続きに関するフロー図（案）」を作成し、本年度の審査が行えるように提案した。 2. 看護学部任期付教員の再任手続きに関する細則（案）の作成 上記資料を基に看護学部細則（案）を検討し作成した。教授会に提案し一部修正後承認された。 3. 再任用基準（案）の作成 再任用に辺り、これまでの経緯の情報を収集し、再任用は採用ではないことを了解し合い、「再任評価の視点（案）」として作成し、教授会に提案・承認された。
評価	1. 効果が上がっている事項 細則および再任評価の視点を「再任審査委員会」に申し送り、本委員会の役目を終了した。 2. 再任審査委員会では、教授 2 人、講師 1 人の審査をスムーズに終了した。
将来に向けた発展方策・課題	1. よい教員の確保につながるよう教員の強みを「再任評価の視点」に反映できる評価の方策を検討するとよいと考える。

委員会名	(13) 本学部看護学生を対象とする研究審査会
目的	看護学部生に対し学部内および学部外から研究協力の依頼があった場合に、基本的な事項、内容および日程等から研究協力の受諾の可否を検討する。
構成員	元村直靖（委員長）、仲下祐美子、川北敬美
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究協力依頼方法の HP での公開</li> <li>2. 研究審査書類の不足・不備の確認および研究協力依頼申請者への再提出の依頼</li> <li>3. 研究協力受諾の可否の審議</li> <li>4. 研究協力依頼申請者への審議結果の通知</li> </ol>
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究審査会の開催 研究協力依頼申請は 5 件あった。申請があった際に、その都度、研究審査会議を開催した。</li> <li>2. 研究協力受諾に関する審議 「看護学部学生への研究協力の依頼に対する対応」（2019 年 5 月改訂版）に則り、研究協力の時期や分量等が学生にとって無理がないか、研究への協力が学生に還元されるものであるかの観点で審議した。研究協力は、原則として研究協力の同意した学生が個別に回答することとしていることから、学生に強制したり、単位認定に影響がでないか、また、学生が研究活動に対する理解を深められるよう配慮がなされているかの視点でも検討した。 研究協力受諾可は 4 件であり、学生の状況を考慮して 1 件は受諾不可となった。</li> <li>3. 研究協力依頼方法および審議結果についての問い合わせ 学部内および学部外から研究協力依頼申請に関して、不明な点や申請者から審議結果に対する問い合わせはなかった。</li> </ol>
評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が上がっている事項 研究協力依頼申請があった際に、速やかに研究審査会議を開催し審議できた。研究者にとっては、研究協力が得られるかどうかは研究遂行において重要であり、審議結果を速やかに通知することができた。</li> <li>2. 改善すべき事項 特になし。</li> </ol>
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究協力依頼申請があった場合の迅速な審議の実施</li> <li>2. 1 の審議結果の通知実施</li> </ol>

委員会名	(14) 障がい学生支援委員会
目的	大阪医科大学看護学部（以下、「本学部」という。）の学生の講義・実習等の際し、修学支援するために、看護学部長規程第 2 条に基づき、看護学部障がい学生支援委員会（以下、「委員会」という。）を置き、その運営要領を定める。
構成員	佐々木綾子（委員長）、道重文子（学部長 5 月末まで）、赤澤千春（学部長 6 月から）、田中克子（学生生活支援センター長）、真継和子（実習委員長）、澤村律子（保健管理室）、津田泰宏（校医）、原口浩幸、星加圭子（事務課）
活動計画	次の各号に掲げる事項について審議し、その実施にあたる。 1) 講義・演習・実習の課題に関すること 2) 支援体制に関すること 3) 施設・設備の整備に関すること 4) その他、障がいのある学生への支援に関する必要なこと
活動概要	1. 第 1 回 障がい学生支援委員会（2019 年 8 月 6 日（火）） 1) 「大阪医科大学看護学部障がい学生支援委員会運営要領（案 3）」、「臨地実習における障がいのある学生に対する申し合わせ事項」に基づき、申し出のあった 1 名の学生への対応について委員会を開催し以下を審議した。 (1) 障がいの状況と実習上の課題に関する確認 (2) 実習における合理的配慮の可否に関する検討（支援の妥当性） (3) 合理的配慮の適用範囲（変更可能な点とできない点の検討）、支援方針 (4) 実習参加のための条件の検討 (5) 合理的配慮の具体的内容の検討 (6) 実習中止条件の検討 2. 第 2 回 看護学部 障がい学生支援委員会（2020 年 3 月 19 日（木）） 2019 年 8 月 6 日に申し出のあった 1 名の学年末までの実習が終了したため、経過を報告・次年度継続支援の希望があったためメール会議を開催した。
評価	1. 効果が上がっている事項 1) 運営要領に沿い、1 名の学生への適切な支援を行った。 2) 看護学部教授会、実習委員会で報告し、支援状況を共有した。 3) 附属病院看護部と連携した。 4) 新たに申請時期の明確化、同意書、取り下げ願い申請書を看護学部実習委員会で作成し活用できた。 5) 実習施設との情報共有は、学生の了解範囲を確認し、取り交わした内容の書面での同意書を活用できた。 6) 支援を受けた学生側からの意見を収集し、支援の妥当性について評価した。 2. 改善すべき事項 2018 年度 1 名、2019 年度 1 名の計 2 名への支援実績のため、今後多様な状況の学生への支援のあり方について、検討していく。

将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 運営要領に沿い、また事例を蓄積し、学生への適切な支援体制を整備する。</li><li>2. 障がい学生支援のあり方について、学内外の情報を継続的に収集する。</li></ol>
---------------	---

委員会名	(15) 将来構想ワーキング
目的	大阪医科大学看護学部および看護学研究科の将来構想について検討し、それに基づいて領域再編の検討を行う。
構成員	鈴木久美（委員長）、赤澤千春、田中克子、佐々木綾子、荒木孝治、原口浩幸（看護学事務課）、小林洋樹（大学院課）
活動計画	1. 看護学部・看護学研究科の将来構想に対する教員からの意見聴取を行う。 2. 看護学部・看護学研究科の将来構想の報告書を作成する。 3. 領域再編および各領域における教員定数の検討する。
活動概要	1. 委員会の開催 11月にワーキンググループを発足させ、5回の委員会を開催した。 2. 看護学部・看護学研究科の将来構想に対する教員からの意見聴取 1) 看護学部の教員からの意見聴取 2020年1月15日（水）に「看護学部生の特徴や教育における課題を明確化し、特色ある看護学部とするための方向性とその対策を見出すこと」を目的に、看護学部の現状把握をした上で、グループワークを行った。教員は助教8名、講師6名、准教授10名、教授10名が参加した。 2) 看護学研究科に関わる教員からの意見聴取 2020年2月19日（水）に「看護学研究科大学院生の特徴や教育における課題を明確化し、特色ある看護学研究科とするための方向性やその対策を見いだすこと」を目的に、大学院の現状把握をした上で、グループワークを行った。教員は講師4名、准教授7名、教授12名が参加した。 3. 看護学部・看護学研究科の将来構想報告書の作成 1月と2月に行ったグループワークの意見を内容分析し、報告書案を作成した。教授会で報告したのち、全教員に報告書をメールにて配信した。 4. 領域再編および各領域における教員定数の検討 報告書をもとに、次年度検討することとなった。
評価	1. 効果が上がっている事項 ・看護学部教員に意見聴取を行ったことにより、育成したい人材像、看護学部の特徴や強みなどが明確になり、看護学部の課題が明らかとなった。 ・看護学研究科に関わる教員に意見聴取を行い、大学院で養成したい人材像、看護学研究科の特徴や強みなどが明確になり、大学院における課題が示された。 ・看護学部および看護学研究科における将来構想の報告書案を作成した。 2. 改善すべき事項 なし
将来に向けた発展方策・課題	今年度、作成した将来構想の報告書は、学部や看護学研究科のカリキュラムの見直し、領域再編や教員定数の見直しに役立てることができる。 次年度は、報告書をもとに領域編成と各領域の教員定数の検討を行う。

4) 教育活動

(1) 授業科目一覧

2017・2018・2019年度入学生（1・2・3学年次）用

区分	授業科目	助 ☆ 保 ◎ 義 *	講義 演習 実習	単 位 数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								単 位 数 卒業 要件 127単位 以上		
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年				
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
基 礎 科 目	人 間 理 解		講義	2	●								↑ 20単位 以上 ○●必修科目13単位 以上 ○選択科目7単位以上 (人間理解と異文化理解から5単位以上、 社会理解から2単位以上含まれていること) ↓		
			講義	2	○										
			講義	2	○										
			講義	1		○									
			講義	1		○									
			講義	1		○									
			講義	1		○									
			講義	2	○										
			講義	2	○										
			演習	1	*	○									
			演習	1	*		○								
			講義	1		●									
		社 会 理 解		講義	1	●									
			講義	1	●										
			演習	1	●										
			演習	1	*			○							
			講義	2		●									
			講義	2	*	○									
			講義	2		○									
			講義	2		○									
			講義	2		○									
	異 文 化 理 解			講義	1	●									
				講義	1		●								
				講義	1			●							
				講義	1				●						
			演習	1					●						
			講義	2		○									
		講義	—		◇										
基礎科目必修単位数				13	7	3	1	1	1	0	0	0			
専 門 基 礎 科 目	人 体 の 構 造 と 機 能		講義	2	●							↑ 28単位 以上 ○●必修科目25単位 以上			
			講義	2		●									
			講義	1	●										
			講義	2		●									
			講義	1		●									
			演習	1			●								
			演習	1	☆		○								
			講義	1	☆		○								
	病 気 と 治 療		講義	2			●								
			講義	2			●								
			講義	2			●								
			講義	2				●							
			講義	2					●						
			講義	1						○					
			講義	1							○				

区分	授業科目	助 ☆ 保 ◎ 養 *	講 義 演 習 実 習	単 位 数	開講期 (必修● 選択○ 自由◇)								単 位 数	卒 業 要 件
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	127 単位 以上	
専 門 基 礎 科 目	保 健 と 医 療		講義	1		○							28 単位 以上 ○●必修科目25単位 以上 ○●必修科目3単位 ↓	
			講義	1	●									
			講義	1			●							
			講義	2		●								
			講義	2			●							
			講義	1					○					
			講義	1				●						
			講義	1					●					
			演習	1						○				
専門基礎科目必修単位数				25	4	7	9	4	1	0	0	0		
専 門 の 基 礎 科 目	看 護 の 基 盤 療 養 生 活 支 援 目		講義	2	●								↑ 79 単位 以上 ○●必修科目74単位 以上 ○●必修科目5単位以上 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、 看護実践発展科目から2単位以上含まれていること)	
			演習	3		●								
			実習	1		●								
			演習	1			●							
			演習	2			●							
			実習	2			●							
			講義	1										●
			講義	1								●		
			講義	2		●								
			演習	1				●						
			演習	1				●						
			演習	1				●						
			実習	3							●			
			演習	1			●							
			演習	1				●						
			演習	1				●						
			実習	3				●						
			講義	2			●							
			演習	1					●					
			演習	1					●					
			実習	2							●			
			講義	2			●							
			演習	1					●					
			演習	1					●					
			実習	2							●			
			講義	2			●							
			演習	1					●					

区分	授業科目	助 ★ 保 ◎ 養 ★	講義 演習 実習	単 位 数	開講期 (必修● 選択○ 自由◇)								単 位 数	卒 業 要 件
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127 単位 以上	
専 門 科 目	地域家族支援		演習	1				●				79 単位 以上  ○●必修科目74単位 ○選択科目5単位以上 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、 看護実践発展科目から2単位以上含まれていること)  ↓		
			実習	2					●					
			講義	2		●								
			講義	2			●							
	発展 看護 科目 実践		講義	1				○						
			演習	1						○				
			演習	1						○				
			演習	1						○				
			実習	2						○				
			講義	1				○						
保健 師 科 目		◎	講義	2				○						
		◎	講義	1						◇				
		◎	実習	1					○					
		◎	実習	4						◇				
		◎	講義	2			○							
助産 師 科 目		★	演習	1				○						
		★	演習	3						◇				
		★	講義	1						◇				
		★	実習	8						◇				
			講義	1			●							
統 合 目			講義	1				●						
			講義	1				●						
			講義	1				○						
		★	講義	1					○					
			演習	3					●					
			講義	1						●				
			演習	1						●				
			演習	3						●				
			実習	2						●				
	専門科目必修単位数				74	2	8	14	13	8	20	3	6	
必修単位数合計				112	13	18	24	18	10	20	3	6		
履修登録できる単位数の上限				167	48		47		39		33			
★助産師国家試験受験資格必修科目    ◎保健師国家試験受験資格必修科目    *養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目														

2016年度入学生（4学年次）用

区分	授業科目	助 ☆ 保 ◎ 義 *	講義 演習 実習	単 位 数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								単 位 数	卒 業 要 件
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位 以上	
基 礎 科 目	人 間 理 解		講義	2	●								↑ 19単位 以上 ●必修科目12単位 ○選択科目7単位以上 (人間理解と異文化理解から5単位以上、 社会理解から2単位以上含まれていること) ↓	
			講義	2	○									
			講義	2	○									
			講義	1		○								
			講義	1	○									
			講義	1		○								
			講義	1		○								
			講義	2	○									
			講義	2	○									
			演習	1	○									
			演習	1		○								
			講義	1			○							
			講義	1		○								
	社 会 理 解		講義	1	●									
			講義	2	●									
			演習	1	●									
			演習	1				○						
			講義	2		●								
			講義	2	○									
			講義	2	○									
			講義	2	○									
			講義	2	○									
			講義	2	○									
	異 文 化 理 解		講義	1	●									
			講義	1		●								
			講義	1			●							
			講義	1				●						
		講義	2	○										
		講義	—		◇									
基礎科目必修単位数				12	7	3	1	1	0	0	0	0		
専 門 基 礎 科 目	人 間 理 解		講義	1	●							↑ 30単位 以上 ●必修科目27単位 ○選択科目3単位以上		
			講義	2	●									
			講義	1	●									
			講義	2		●								
			講義	2		●								
			講義	1		●								
			演習	1		●								
			講義	2			●							
			講義	2			●							
			講義	2			●							
			講義	2				●						
			講義	1					○					
			講義	1							○			
			演習	1				○						

区分	授業科目	助 ☆ 保 ◎ 養 *	講義 演習 実習	単 位 数	開講期 (必修● 選択○ 自由◇)								単 位 数	卒 業 要 件
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127 単位 以上	
専 門 基 礎 科 目	社 会 理 解 異 文 化 理 解		演習	1	●								30 単位 以上 ○●必修科目27単位 選択科目3単位以上 ↓	
			講義	2		●								
			講義	2			●							
			講義	1					○					
			講義	1					○					
			講義	1					●					
			講義	1					●					
			演習	1					●					
			演習	1							●			
		演習	1					○						
専門基礎科目必修単位数				27	5	8	8	2	3	0	1	0		
専 門 基 礎 科 目	看 護 の 基 盤		講義	2	●								↑ 78 単位 以上 ○●必修科目72単位 選択科目6単位以上 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展実習2単位が含まれていること)	
			演習	3		●								
			実習	1		●								
			演習	1			●							
			演習	2			●							
			実習	2			●							
			講義	1								●		
			講義	1							●			
	生 活 支 援		講義	2			●							
			演習	1				●						
			演習	1					●					
			実習	2						●				
			実習	2							●			
			講義	2		●								
			演習	1				●						
			演習	1					●					
	療 養 支 援		講義	2		●								
			演習	1				●						
			演習	1					●					
			実習	2						●				
			演習	1			●							
			演習	1				●						
			実習	2						●				
			実習	1							●			
	目 支 援		講義	2			●							
			演習	1				●						
			演習	1					●					
			実習	2						●				
		講義	2			●								
		演習	1				●							
		演習	1					●						
		実習	2							●				

区分	授業科目	助 ★ 保 ◎ 養 *	講義 演習 実習	単 位 数	開講期 (必修● 選択○ 自由◇)								単 位 数	卒 業 要 件
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127 単位 以上	
専 門 科 目	地 域 支 援		講義	2			●						78 単位 以上 ○●必修科目72単位 以上 ○●選択科目6単位以上 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること) ↓	
			演習	1				●						
			演習	1					●					
			実習	2						●				
			講義	2			●							
			講義	2				●						
			◎講義	1					○					
			実習	1							●			
	発 展 課 目			演習	1						○			
				演習	1						○			
				演習	1						○			
				演習	1						○			
	科 保 健 目 師		◎講義	2					○					
			◎演習	1							◇			
			◎実習	4							◇			
	助 産 師 科 目		★講義	2				○						
			★演習	1					○					
			★演習	3							◇			
			★講義	1							◇			
			★実習	8							◇			
	統 合 目			講義	2					●				
				講義	1							●		
				演習	2						●			
				講義	1							●		
				演習	3							●		
				講義	1					○				
				実習	2							●		
				実習	2							○		
専門科目必修単位数				72	2	8	14	11	8	19	4	6		
必修単位数合計				111	14	19	23	14	11	19	5	6		
履修登録できる単位数の上限				166	50		42		39		35			
☆助産師国家試験受験資格必修科目    ◎保健師国家試験受験資格必修科目    *養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目														

## (2) 各領域の教育活動

領域名	基礎看護学領域
担当教員	道重文子, 小林道太郎, 土肥美子, 川北敬美, 二宮早苗, 原 明子
担当科目	くらしの中の倫理, 哲学, キャリアマネジメント, 国際言語文化, 情報リテラシー, 原著講読, 看護学概論, 日常生活援助技術, 看護アセスメント, 治療過程に伴う援助技術, 看護管理, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 卒業演習, 広域統合看護学実習
現状の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くらしの中の倫理, 哲学では, 基本的な事項を講義した. 国際言語文化では, ドイツ語の入門と歴史・文化について論じた. 原著講読では英語論文を読んだ. 情報リテラシーは前半の大学で学ぶことに関する導入と PC 操作を担当した.</li> <li>・看護学概論では, 看護の歴史, 看護の基本概念である「人間」「環境」「健康」「看護」の関係性, 看護活動の場, 看護倫理等について教授した.</li> <li>・キャリアマネジメントでは, 社会人基礎力, マナー, 看護職のキャリアについて講義し, 伝える力を高めるためにグループ内や全体で発表を行った.</li> <li>・看護アセスメントでは, 糖尿病性網膜症による硝子体出血の事例を用いて NANDA-I の枠組みを使い看護過程の展開方法を教授した.</li> <li>・日常生活援助技術 (1 年) および治療過程に伴う援助技術 (2 年) では, 附属病院看護部教育指導者 (2 名) の協力のもと演習を行った.</li> <li>・基礎看護学実習Ⅰでは, 附属病院外来, 中央診療部, 検査部門, 病棟において見学実習を行った. 本領域の 6 名の教員で指導を行った.</li> <li>・基礎看護学実習Ⅱでは, 9 月および 2 月に前半・後半グループに分かれ附属病院 (8 病棟使用) において実習 (看護過程の展開およびシャドーイング) を行った. 本領域の 5 名の教員で指導を行った.</li> <li>・卒業演習では教員 1 名が 2~3 名の学生を担当し卒業論文を作成した. 12 月の発表会では, 作成したポスターを用いて各自プレゼンテーションを行った.</li> <li>・広域統合看護学実習では, 彩都友誼会病院および東住吉森本病院の緩和ケア病棟にて, 第二東和会病院では地域包括ケア病棟および回復期リハビリテーション病棟にて実習を行った. 実習終了後に各病院の特徴を踏まえた事例を設定し OSCE を行った.</li> </ul>
点検評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 効果が上がっている事項: 技術演習では, 看護部の指導者の参加により学生の取り組みが熱心になった. 広域看護学実習終了後の OSCE により, 学生自らの臨床技術の習得度について確認できていた (課題が明確になった).</li> <li>2) 改善すべき事項: 基礎看護学実習Ⅱでは, アセスメント力で個人差がみられた. 看護アセスメントでの指導を丁寧に行うことが必要である.</li> </ol>
将来に向けた発展方策・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニフィケーション体制のもと教育指導者と共に学生の看護実践能力の育成に尽力する. また, 学生の臨床技術の習得度を評価するため, 2 年生においても OSCE 導入を検討する.</li> </ul>

領域名	急性期成人看護学
担当教員	赤澤千春, 寺口佐與子
担当科目	成人看護学概論, 急性期成人看護援助論, 急性期成人看護学援助方法, 急性期成人看護学実習, 統合実習, 卒業演習, 災害看護論
現状の説明	急性期成人看護学領域では1年生の時に成人看護学概論で成人を対象とする一般的な概念や理論を学習する。2回生の急性期成人看護援助論で「生命の危機的状況にある対象」の概念と理論を学び, 身体的心理的社会的な看護問題とその介入について学習する。3回生前期に急性期成人看護学援助方法で, これまでの既習の知識を活用し, 事例をもとに急性期にある患者(手術を受ける患者)の看護計画を立案し, 周術期に沿ってロールプレイ演習を行いながら, 具体的な看護介入方法を学ぶ。後期に急性期看護学実習で手術を受ける患者をとおして, 生命の危機的状況にある対象についての看護計画を立案し, 実行し, 評価することで, 急性期看護に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。また, 選択科目の災害看護論では本年から災害現場での看護実践経験を有する非常勤教員と協力して災害時の応急処置やトリアージの演習を取り入れた。4回生の統合実習では1~3回生までの知識と技術を統合させるために学生自身が実習計画を立て, 超急性期看護について学ぶ。また, 興味のあるテーマについて卒業演習で取り組み, まとめて論文とし発表まで実施する。
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>急性期領域の核となる「生命の危機的状況」にある対象について, 講義, 演習, 実習と「命を守る」ための一貫した内容を教授し続けることで, 急性期の特徴を理解しつつ急性期看護の対象, アセスメント, 看護ケアを学ぶことができています。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) 1, 2回生で「生命の危機的状況」にある対象のアセスメントが難しいため繰り返しの知識の定着をはかることと, その応用について決して暗記ではない事例をとおして理解させる必要がある。この知識の定着ができていないと, 3回生以降の演習や実習での急性期の看護過程の展開は難しいと感じてしまい, やる気を出さなくなる可能性があるため, 根気よく指導する必要がある。</p> <p>2) 演習の看護問題抽出を多角的にとらえることができるように, 必要な基礎知識とその応用ができるように絶えず学生に問いかけ, 指導していく必要がある。</p> <p>3) 実習では「生命の危機的状況」を強調した指導や, 患者入院期間の短縮に伴い, 心理社会的側面からの看護問題の抽出や介入が困難な学生も見受けられ, 早期から身体的心理的社会的側面を統合することを指導する必要がある。</p>
将来に向けた 発展方策・ 課題	現象を自身のもっている知識に照らし合わせて「言語化」することで学びはより深くなる。そのために, 演習, 実習ではできるだけ学生に「語らせる」ことを念頭に関わり, 「考える」「考え続ける」ということを刺激することを意識した内容を取り入れる。

領域名	慢性期成人看護学領域
担当教員	田中克子, カルデナス暁東, 柴田佳純
担当科目	成人看護学概論, 慢性期成人看護学援助論, 慢性期成人看護学援助方法, 慢性期成人看護学実習, 広域統合看護学実習, 卒業演習
現状の説明	<p>「概論」では, 援助論, 援助方法, 実習に関連できるようにライフステージ, 健康レベルにおける身体・社会・精神的特徴が理解できるように授業を展開した.</p> <p>「援助論」では, 病期の特徴と発症頻度を考慮して代表的な疾患事例を用いて, 成人期の主な病気の成因・症状・治療と看護援助の関係が理解できるように中間に2回まとめの時間も設けた. 「援助方法」では, 教員が作成した事例展開と看護援助方法の演習資料を用い, 講義と演習を行った. 事例展開と技術演習に関して, 考え方の基本を理解できるように各個人の事前学習を踏まえて, 学生の創意工夫の視点を重視し, 双方向にできるように授業を展開した. また, 複数の課題のある看護援助を考えるために腹水のある人を対象とした技術試験を実施した.</p> <p>「領域実習」は, 継続看護の理解を深めるために, 今年度附属病院(2単位)では代謝・内分泌系, 消化器系, 呼吸器疾患系, 化学療法が主の4つの病棟と三島南病院(1単位)のリハビリ, 回復ケア, 地域包括ケア等の病棟で, 原則として一人の受けもち患者を担当し, 対象者とその家族に対する系統的な看護過程の展開を通じて, 慢性期看護学の特質を考察できることを重視した実習を3単位で展開した. 広域統合実習は, 学生の各自の実習テーマに応じて, 大阪医科大学附属病院, 三島南病院, 高槻赤十字病院(緩和ケア病棟), 徳洲会沖永良部島病院で行った. 「卒業演習」は, 教員が2-4名の学生を受けもち, 学生がテーマに応じて文献検討を行い, 論文を作成した.</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項: 独自に作成した臨地実習でよく体験することを前提とした事例の演習資料に基づき, 学習課題, 講義, 実技演習, 実習と体系化したことは学習を創意工夫し, 深める上で効果があったと考える. 三島南病棟での実習は, 継続看護の理解を深めるうえでも効果的であった. 実習中に医師による画像に関して臨床講義を30分行ったことで観察項目の視点や病気の理解, 画像の理解が深まった.</p> <p>2. 改善すべき事項: 病気の理解が十分ではないため, 再試験対象者は, 援助論は約5%, 援助方法は約2%であった. また, 「実習」は学生個々の学習の進捗と学習の到達度に対応して指導を行うが, 体験を通じて学ぶことが多いので, 受けもち患者の選定や学習の個々の能力, 指導体制に関して今後も工夫が必要と考える. 倫理的課題に関しても理解を深めるようにカンファレンスを充実させていきたい.</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>毎回の授業を大事にして, 関連知識・技術を統合的に活用して, 病気をもつ人とその家族の看護援助について系統的に思考を深め, その特質を理解できるように科目間, 学習課題間を系統的に焦点化して計画する. 特に実技試験に関しては授業以外に, 教員が積極的に指導する時間を設けたことが効果的であったと考える. 今後, 学生の体験, 自律性を増やすような演習・実習展開方法の工夫が必要である. 事例の倫理的課題, 意思決定に関しても理解を深め, 自己の意見が言えるようにカンファレンスなどで積極的に取り上げていきたい.</p>

領域名	老年看護学領域
担当教員	久保田正和, 樋上容子, 柚木佐知子
担当科目	老年看護学概論, 老年看護学実習Ⅰ, 老年看護学援助論, 老年看護学援助方法, 老年看護学実習Ⅱ, 看護実践と理論の統合, 広域統合看護学実習, 卒業演習
現状の説明	<p>「老年看護学概論」では, 老年期を健やかにその人らしく生きるために, 健康と生活の視点から支援する老年看護の基盤を講義した。「老年看護学実習Ⅰ」では学生はさまざまな健康レベルにある高齢者と接し, コミュニケーションを深める中で老年期の発達的特徴や健康維持・向上を目指した看護援助への理解を深めた。今年度が導入2年目であったが, 各実習先職員の方々の実習目的への理解が深まり, より充実した実習を行うことができた。「老年看護学援助論」では, 老年期における看護援助の根拠, 看護過程の特徴について論じた。「老年看護学援助方法」では, 実技演習に加え, 事例を用いた看護過程の展開の教授, グループワークを中心に据えた演習を行った。「老年看護学実習Ⅱ」は, 今年度から3単位の实習として新たに開始した。主に①老健施設で多職種連携を学ぶクールと②附属病院で受けもち, 高齢者の看護展開を行うクールで構成される。①では他職種に付く実習を通して多職種連携や看護師の役割を深く学ぶことができた。また②では展開が早い中でも加齢性変化の特徴を念頭に置きながら, 高齢者では特に課題になる退院後の生活を見据えた看護実践の重要性を学ぶことができた。「看護実践と理論の統合」では, 事前にこれまで学んだ高齢者特有の疾患や日常生活援助技術を確認した。事後では個々に得た学びをグループディスカッション, 発表することで, 他学生と実習の学びを共有できた。「広域統合看護学実習」は, 三島南病院と介護老人保健施設で実習を行い, 学生が立案した実習計画のもと主体的に実習を進めることができた。「卒業演習」では, 学生の関心のあるテーマにそって計画的に進め, 事例研究や文献研究などを行い, 卒業論文としてまとめ, 学内発表を行った。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>実習Ⅰでは, さまざまな健康レベルの高齢者とコミュニケーションを取ることができ, 高齢者には多様な価値観が存在することを学ぶとともに高齢者観が豊かになっている。実習Ⅱの①は他職種に付く非常に特徴的な実習である。他職種につくことで看護師の役割がより明確に理解できるようになっている。実習ⅠとⅡの①を導入したことで概論から実習Ⅱまで段階的に老年看護学を学ぶことができています。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>今年度から附属病院での実習が開始された。展開が早い中でどこまで高齢者の特徴を捉え, 情報を分析・解釈し個別性のある計画立案にまでもっていけるか, 低学年次から授業と実践のつながりを意識した教育が必要である。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>実習Ⅱでは老年看護学において最重要テーマである認知症看護を学ぶ機会が少なかつたため, 今後認知症看護の実際を学ぶことができる実習について方策を考える必要がある。本領域は外部での実習が多いため, 外部指導者と学生フォローアップ体制について密に検討し, 効果的な実習となるよう調整をはかる。</p>

領域名	小児看護学
担当教員	泊 祐子, 山崎 歩, 倉橋理香
担当科目	小児看護学概論, 小児看護学援助論, 小児看護学援助方法, 家族看護学, 小児看護学実習, 看護実践と理論の統合, 広域統合看護学実習 (小児), 卒業演習
現状の説明	<p>「小児看護学概論」は, 双方向授業を活発にするために学習支援システムと取り入れ, クイズ形式の質問や小テスト機能を用いて, 自己の回答を素早く確認に効果的な学習ができるような試みを行った。また, 引き続き「小児と法律」および「生活習慣の獲得」の2項目反転授業の要素を取り入れ実施している。子どもを体験としてわかるための院内保育室での見学は継続している。「小児看護学援助論」では, 症状の観察・支援について子どもをイメージしやすいよう視聴覚教材を効果的に用い講義を展開していった。「小児看護学援助方法」では学生が主体的に看護過程の展開や小児看護技術を学習できる演習方法を検討し, 実施した。</p> <p>「家族看護学」はカリキュラム変更で2単位から1単位になった学年であり, グループワークに十分に時間がとれず内容の凝縮を行い, 調整をはかった。</p> <p>領域実習では小児病棟と NIUC 病棟の2カ所および病院実習後の小中学校・特別支援学校実習を合わせて「小児看護学実習」とし実習を展開した。学校実習では健康な子どもの健康増進とともに疾患をもちつつ生活する子どもの管理の実際について学ぶことができた。「看護実践と理論の統合」の事前演習では, おのおの病棟の特徴に合わせた事例を厳正し, 学生の準備性に働きかけた。事後演習では学びの特徴を共有した。「広域統合看護学実習 (小児)」では, 3カ所の施設で看護マネジメントの視点に重点をおき実習を展開し, 実習後に実習施設指導者を招いて発表会を実施した。「卒業演習」では, 7人の学生が個々関心からテーマを絞り文献研究を実施していくプロセスを学ぶことができた。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>「広域統合看護学実習」においては, 看護マネジメントやチーム医療の視点に重点を置いて2年目となる。その結果, 学生のグループでの連携が重要となり, グループ内での意思疎通や話し合いの重要性を学べたと思われる。</p> <p>「小児看護学実習」では実習期間中に小児病棟と NICU 病棟合同でカンファレンスを行うことで出生直後から各年齢における疾患特性や家族状況および子どもを支える資源等を考える機会となり視野を広げることができたと考える。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>新カリキュラムから家族看護学が1単位となった点での内容の補填のため各領域科目で行っている家族看護の要素を調査し, 内容の精選が必要と考える。</p>
将来に向けた発展方策・課題	4年次統合実習場所に地域支援の視点を入れ, 児童デイサービスと難病の子どもキャンプで行う予定である。この学びグループ間で共有する工夫を検討する。

領域名	母性看護学・助産学
担当教員	佐々木綾子, 竹 明美, 宮川幸代, 近澤 幸
担当科目	セクシュアリティと看護, リプロダクションと看護, 母性看護学概論, 母性看護学援助論, 母性看護学援助方法, 母性看護学実習, 助産学概論, 助産診断・技術学 I, 助産診断・技術学 II, 助産管理, 助産学実習, 看護実践と理論の統合, 卒業演習, 広域統合看護学実習
現状の説明	<p>講義科目では, 講義室 3 に設置されたパソコンシステムを活用し双方向授業を行った。最新の国家試験出題傾向を分析し, 教育に活用した。また, 15 回開講の科目のうち 4 科目において期末試験, 小テストの他, 新たに中間試験を導入した。</p> <p>演習科目では, 実践的演習となるようにオリジナルのアセスメントツール, 実践的模擬事例, 教員作成の母性看護技術 DVD 活用などにより基本的な看護実践能力の育成を目指した。また, 今年度は学生による模擬事例に対する劇風プレゼンテーションを導入した。助産診断・技術学 II では, 臨床指導者の協力による演習, シミュレーション教育を行った。</p> <p>実習では, 実習施設との連携, 教育設備の充実, 教材整備・教材開発, 医学部・附属病院看護部との連携により, 基本的な看護実践能力の育成を行った。さらに周産期医療・地域母子保健関連の課題を鑑み, 施設と地域の切れ目ない支援の視点を強化した。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>前年度の学生の授業評価を踏まえ, 講義・演習内容の改善を行うことができた。試験では期末試験, 小テストの他, 新たに中間試験を導入し, 形成的評価を行った結果, 平均点が増加した科目と減少した科目がみられた。助産学実習においては, 9 月末までに 6 名全員が分娩介助実習を終了することができた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>次年度も, 小テスト・中間テストや練習問題, 予習課題, 反転授業, 復習課題などで知識・技術習得を促すことができるよう教授方法を工夫する。特に 2 年生選択科目「リプロダクションと看護」においては, 平均点が減少し再試験対象者も 2 倍となったことから, 要因を分析し改善していく必要がある。</p> <p>2020 年度の助産学実習は 7 名を選抜し, 実習受け入れ施設を 1 施設増加した。また, 統合看護学実習では 1 施設を出張助産所から有床助産所に変更した。出産数の減少が続くなか, 引き続き実習施設の確保が課題である。さらに, 周産期医療・地域母子保健関連の課題を鑑み, 施設と地域の切れ目ない支援の視点について強化できたが次年度も継続していく。</p>
将来に向けた 発展方策・ 課題	<p>視覚支援教材などの積極的活用, 学生の習得状況を丁寧に確認し, 看護実践力を育成する。各学生が, 確実な知識・技術習得に加え, 生涯学習力の基盤となる学士力を育成できるよう教育方法を検討する。</p> <p>助産師基礎教育に関する国内外の状況を踏まえ, 大学教育における助産学教育のあり方の検討, 新規も含めた助産学実習施設確保のための努力を行っていく。</p>

領域名	精神看護学領域
担当教員	荒木孝治, 元村直靖, 瓜崎貴雄, 山内彩香
担当科目	人間関係論, 精神看護学概論, 精神看護学援助論, 精神看護学援助方法, 精神看護学実習, 看護実践と理論の統合, 広域統合看護学実習, 卒業演習, 心理学, 大阪を学ぶ, 健康科学概論, 医療倫理学, 医療カウンセリング, リスクマネジメント
現状の説明	「概論」では精神看護の基本概念と精神医療の歴史と法制度, リエゾン精神看護などを, 「援助論」では統合失調症や気分障害といった精神疾患とその看護に関する基本的知識を, 「援助方法」では統合失調症やうつ病などの事例を用い, セルフケア理論に基づいて看護過程を展開して, 精神疾患患者への看護の方法を教授した。卒業演習では, 計9名を担当し, 学生の関心に沿って文献研究を指導した。精神看護学実習では附属病院精神神経科病棟または単科精神科病院である新阿武山病院にて, 看護過程を展開し, 基礎的実践能力を養った。広域統合看護学実習では, 新阿武山病院のデイケア・作業療法室・訪問看護室と, 大阪精神医療センター(急性期閉鎖病棟, 児童思春期病棟のいずれか)で看護管理や包括医療の視座を盛り込んで実習を展開した。「心理学」では, 主に正常な人間の心理の理解を深めるとともに, 認知心理学, 人間性心理学, 臨床心理学など多彩な心理学の領域を教授した。
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>講義では視聴覚教材を活用したことによって, 学生は精神疾患や看護の実際をよりイメージできた。また, 毎回感想文を提出させ, 次の講義でフィードバックしたことで, 学習意欲を高めることができた。さらに, 前年度の授業評価での学生からの意見を踏まえて, 資料の提示の工夫や評価方法の工夫, 教科書を活用した授業内容の工夫をはかった。その結果, 「援助論」では前年度に比べて平均点が上昇した。演習ではグループワークにおける成果物を全体にフィードバックすることによって, 学生は多様な視点を共有できた。実習では事例を深く検討できるように個別面談を行い, 既習の精神看護学関連科目の学習内容と照らしつつ指導した結果, 学生は患者に関心を向け続け, 患者の生活歴や強みを踏まえた看護の具体策を見いだすことができた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>講義では学生が基本的な知識を習得できるように, 引き続き教授方法の工夫をはかっていく必要がある。演習では引き続きグループワークでの学びが深まるように課題設定や運営方法を検討する必要がある。広域統合看護学実習では, 特に学生の学習課題を日々の実習計画に反映できるように指導を工夫する必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	精神障がい者の地域生活を支えることについて, 学生は実習の経験をとおり, その課題の重要性に気づいていたが, 既習の知識を活用して具体的な援助方法を考えることができるように, 授業内容や教授方法を工夫していく必要がある。

領域名	在宅看護学領域
担当教員	真継和子, 佐野かおり, 大橋尚弘
担当科目	在宅看護学概論, 在宅看護学援助論, 在宅看護学援助方法, 在宅看護学実習, 看護実践と理論の統合, 広域統合看護学実習 (在宅), 卒業演習, 家族看護学, 医療カウンセリング
現状の説明	<p>「在宅看護学概論」は在宅看護の特徴と支援を必要とする人々と社会資源の理解を目的に視聴覚教材を用い展開した。本学卒業生の訪問看護師による講義は先方の都合により中止となった。「在宅看護学援助論」では在宅での生活支援や医療的ケアなどの演習を取り入れ、在宅という場の特徴を踏まえた基本的な実践力の育成を目指した。学生らが立案した計画に沿って演習を進め、曖昧な知識や技術を補填するよう関わり、学生の主体的参加を促進した。「在宅看護学援助方法」では、講義およびグループワーク、事例 (3 事例)、ロールプレイングを用いて実践的な展開を試み、さらに、アセスメント力を深めるため個別指導を強化し、後期の在宅看護学実習につなげられるように展開した。また、4 年生の在宅ゼミ生が講義に参加し 3 年生への助言を行う機会を作ることで互いに刺激し合える環境を提供した。「在宅看護学実習」では、スタッフとの意見交換やカンファレンスを活性化させ学生のアセスメント力が深められるよう展開した。また、例年課題となる社会資源の理解ができるよう努めた。教員および臨地指導者間で学生個々が抱える課題を丁寧に共有し、目標に到達できるよう支援した。「看護実践と理論の統合」では、実習前のロールプレイングによる技術確認と事例を用いた社会資源の理解を深めた。実習後はテーマを昨年度より具体的に絞り、ワールドカフェ方式によるグループワークを実施し、学生間の学びの共有をはかった。</p> <p>「広域統合看護学実習 (在宅)」は 5 名が選択し、訪問看護ステーション、病院など学生の関心テーマに沿った場所での実習を行った。うち 2 名は高知県本山町での多職種連携地域医療実習に参加し、医学生や薬学生とともに多職種協働について理解を深めた。「卒業演習」は学生の関心に沿って面接調査研究、事例研究、文献研究を行い論文としてまとめ、学内発表会を開催した。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導によるアセスメントの強化は確実に学生の実践力に結びついている。</li> <li>・実習施設との連携により学生の課題に沿った対応は濃やかに実施されている。</li> <li>・学年交流による授業設計は互いの刺激となり、在宅への関心を高めている。</li> </ul> <p>2. 改善すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教授内容の精選、評価視点の明示による学生との共通理解が必要である。</li> <li>・実習後、実践と理論をいかに統合させるか具体的な設計と評価が必要である。</li> </ul>
将来に向けた発展方策・課題	他領域との学習内容の重なりを整理し、教授内容の精選をはかる。レポート等の評価基準を明示、学生の積極的な学習参加の促進、実践と理論の統合の強化をしていく。さらに、在宅看護への関心が高められるよう早期体験学習を含む講義、演習、実習の展開方法を検討していく。

領域名	公衆衛生看護学
担当教員	吉田久美子, 土手友太郎, 草野恵美子, 仲下祐美子, 山埜ふみ恵, 山本暁生
担当科目	必修: 保健福祉医療概論統計学, 公衆衛生学・疫学, 公衆衛生看護学概論, 公衆衛生看護学活動論, 公衆衛生看護学実習Ⅰ, 卒業演習 選択科目: 暮らしと社会・環境, 公衆衛生看護学活動方法, 公衆衛生看護学管理論, ヘルスプロモーション論, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習Ⅱ
現状の説明	<p>アクティブ・ラーニングの推進のため, 「保健福祉医療論」「統計学」「公衆衛生学・疫学」は, 講義室3のキャラボシステムを利用し, 教員と学生の双方向授業を実施した。講義はじめと終わりに前回と今回の授業の学びを試験にて確認し, その場で学生は解答を得ることができ, 教員は講義内容を評価することができた。また, チャット機能を利用して講義中に学生の意見を聞き, その情報を全員で共有できる双方向授業のメリットがあった。「公衆衛生看護学概論」は, 学生の知識が新しいうちに評価できるよう中間試験を行った。その結果, 前年度よりGPAが上昇した。「公衆衛生看護学活動論」は個人・集団・地域を対象とした活動に必要な知識・技術を, 演習を取り入れて展開した。「公衆衛生看護学活動方法」では, 健康教育の計画立案・実施・評価を行い, 学生全員が「達成感がある」と評価していた。</p> <p>「公衆衛生看護学実習Ⅱ」の履修者は35名であり, 7グループに分かれて実習を行った。実習地は, 池田保健所と池田市, 東大阪市, 大阪市港区, 兵庫県宍粟市(千種保健センター, 一宮保健センター), 赤穂市, 神河町であった。グループを決定する前に, 学生全員を対象に事前面談を行い, 実習中に健康管理や日常生活で配慮が必要な点を確認した。災害や事故・病気による欠席もなく無事に修了した。学生は, 「実習内容は幅広く大変であったが, 達成感があった」と評価していた。遠隔地実習に行った一部の学生から 実習施設と宿泊施設が遠いことなどの意見があった。「公衆衛生看護学実習Ⅰ」は学生85名が履修した。「卒業演習」は13名の学生が選択し, 学生は研究テーマを見つけ論文作成と発表を行った。</p>
点検評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>効果が上がっている事項: 実習前に, 個人面談を行い, 学生と教員が健康状態や日常生活の困りごと等を確認することで, 実習配置や実習内容に配慮することができた。</li> <li>改善すべき事項: 遠隔地実習において, 宿泊施設の不満もあり健康面からも考慮して新しい施設の開拓が必要である。</li> </ol>
将来に向けた発展方策・課題	<p>来年度から総合実習(2単位)を開始するにあたり, 他の実習の兼ね合いから実習時期が4年生の11月と後期になるため, 実習施設の調整が必要となる。統合実習の施設には, 地域組織活動が学べる高槻市の社会福祉協議会や地域包括支援センターを考える。また, 保健師の国家試験を4年生当初から取り組む体制づくりを領域内で整える。</p>

領域名	看護実践発展領域
担当教員	鈴木久美, 池西悦子, 津田泰宏, 府川晃子, 土井智生
担当科目	健康科学概論, 病気の診断, 病気の治療, 病気の成り立ち, からだの仕組みと働きⅡ, がん看護学総論, チーム医療論, 看護研究法, 看護教育, 看護と生体診断法, 先端医療に伴う看護技術, 緩和ケアと代替・補完療法, 看護実践発展実習, 広域統合看護学実習, 卒業演習
現状の説明	<p>「健康科学概論」はライフスタイル, 生き方の選択, 健康リスク, 社会と環境の4つの視点から, 各回において前半に講義, 後半にグループ学習の形で授業を行った。「病気の診断・治療Ⅰ, Ⅱ」は中間と最終日に「まとめ」を入れ, 試験を中間・期末に分けることで広範囲ではあるが要点が身につくよう工夫した。「病気の成り立ち」, 「からだの仕組みと働きⅡ」では予め配布した冊子に授業毎に重要点を書き込む形式で授業を行った。「がん看護学総論」は, アプリを活用して学生の意見や質問を取り入れ, 確認テストと解説の実施等, 学生の反応を確認しながら授業展開の工夫を行った。「チーム医療論」は, アクティブ・ラーニングを取り入れ, 学生の理解の促進や協働姿勢の涵養に努めた。「看護研究法」は, 予習で生じた疑問への回答を授業内容に基づきまとめる課題で, 予習・復習が機能するよう工夫した。「看護教育」は, 毎回事前課題を用いたワークを取り入れ主体的参加を促し, 小レポートの多様な考えを紹介し内省を促した。「看護と生体診断法」, 「緩和ケアと代替・補完療法」は, 講義および事例を用いた演習で展開し, 学生主体のグループ発表を行った。「先端医療に伴う看護技術」では複雑な事例を分析し, 学生相互に技術演習での解説指導を取り入れた。「看護実践発展実習」では43名の学生が重症度やケア度の高い患者を受けもち, 判断力や実践力を強化する実習を行った。「広域統合看護学実習」と「卒業演習」では13名の学生を受け入れ, 学生の関心領域で実習や卒業演習のテーマを決めて取り組み, 成果発表会を開催した。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>おおむねグループ学習を用いた授業は学生の主体的な学びを推進できたと考える。事例を活用した授業では学生が役割をもってグループ学習を活性化し, 課題発見と解決に向けた学習の促進に繋がっていた。「がん看護学総論」では多くの学生から学習課題の提示により学びが深まったという評価が得られた。「看護実践発展実習」ではほとんどの学生が自己学習プログラムに参加し, 看護技術の積極的習得の姿勢がみられ, 自己課題を意識し, 患者・家族や多職種との関わりのなかで視野を広げ, 看護実践力を高められていた。「広域統合看護学実習」および「卒業演習」は, 学生の関心を尊重し, 学生自らが目標を立て, 主体的に取り組んでいた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>「病気の診断・治療Ⅰ, Ⅱ」, 「病気の成り立ち, からだの仕組みと働きⅡ」においては理解度を調べるためにICTを積極的に用いたい。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>講義科目は, オムニバスでの展開が多いため, 担当教員との連携を密にし, 学生が学習目標を達成できるようにすることが望まれる。今後もよりアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた効果的な授業展開となるよう努めていく。</p>



### Ⅲ. 看護学研究科



## 1. 教員組織

### 1) 教員構成および教員数

#### 【看護系教員】

領域	専門分野	教授	准教授	講師	助教
療養生活 支援看護学	看護教育学	1			
	看護技術開発看護学	1	1	1	
	移植・再生医療看護学	1	1		
	がん看護学	1	1		
	慢性看護学	1	1		
	精神看護学	1	1		
	老年看護学		1	1	
地域家族 支援看護学	母性看護学	1		1	
	小児看護学	1	1		
	地域看護学	1	2		
	在宅看護学	1		1	
計		10	9	4	0

#### 【医学系・人文社会系教員】

領域	教授	准教授	講師	助教
精神医学	1			
公衆衛生学	1			
内科学	1			
哲学		1		
計	3	1	0	0

## 2. 年間事業

### 1) 年間事業活動内容

#### 【看護学研究科】

看護学研究科では、表に示すように大学院委員会が年間計画を立案し、教育および研究の向上を目指し事業を実施している。2019年度に実施した主な事業を報告する。

#### ①教育活動について

教育活動に関しては、大学院委員会が院生の教育がスムーズに展開できるように計画事項している。詳細は大学院委員会報告で述べている。

大学院博士前期課程の受験生が減少してきており、それに向けての対策として機会あるごとの展示会、広告などを活用し、入試説明会に来場してもらえるよう工夫をはかっている。また、入試に英語試験があり、それが受験選択のネックになっていることが考えられたため、2020年度の入試から英語と専門科目での点数配分の選択を可能とした。

②研究活動について

大学院生に個人研究費を配分しているが、これに加えて民間助成金への応募も活発に行われるようになってきている。

③教育環境整備

大学院生室は個人で机を貸与しておらず、共同で使用してもらうため、院生の保存しておきたいものを置く場所を確保するためにメールボックスの設置を行った。

2019 年度看護学研究科年間計画

看護学研究科	<p><b>【学部教育と大学院教育の質的転換】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の質向上（教育の質的転換：タイプ1の実施，高大接続の取り組み，カリキュラム評価等）の推進</li> <li>2. FDの推進</li> <li>3. 大学病院，三島南病院，地域包括医療センターとの連携・協働の推進</li> <li>4. 看護学研究科の活性化（学位審査基準の見直し，カリキュラム評価等）</li> </ol> <p><b>【国際交流】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 山西医科大学看護学部との協定締結</li> <li>2. 中山国際医学医療交流センターとの連携</li> <li>3. アジア圏留学生受け入れの推進（台北医科大学，山西医科大学）</li> <li>4. 米国の看護学部との国際交流の推進</li> </ol> <p><b>【研究拠点形成】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科研費等公的外部資金獲得の推進（基盤B）</li> <li>2. 海外との共同研究の推進</li> <li>3. 産官学連携サステナビリティ事業およびブランディング事業への参画</li> </ol>
看護学研究科 大学院委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学研究科学位規程施行細則の作成</li> <li>2. 入学試験での合否基準のさらなる検討と受験者増に向けた対策</li> <li>3. 学位授与基準の検討を反映した学位論文指導の充実</li> <li>4. 入試相談会の開催やHPの充実等による広報活動の推進</li> <li>5. 教育活動に関する自己点検と改善への取り組み</li> <li>6. 教員と事務が一体となった大学院の運営力の強化</li> <li>7. 学習環境の整備，交流会の開催など学生サービスの充実</li> </ol>

2) 2019年度 看護学研究科予算執行額

予算執行額 2,124,414 円 (予算額 220 万円)

「内訳」

予算額 200 万円 執行額 1,991,977 円 (看護学研究科設置経費 (入試, 入試・教育要項作成, 学生証, 実習費, 申請業務費用等))

予算額 10 万円 執行額 97,256 円 (大学院特別講義)

予算額 10 万円 執行額 35,181 円 (大学院学院看護学研究科 FD ワークショップ)

3) 学生在籍数

【博士前期課程】

2019年5月現在

コース	専門分野	1年	2年	在学年限 延長他	合計
教育研究コース	看護技術開発学	2	1		3
	移植・再生医療看護学		2		2
	がん看護学				0
	慢性看護学				0
	精神看護学		2	1	3
	老年看護学	1			1
	母性看護学	1			1
	小児看護学	1			1
	地域看護学		2		2
	在宅看護学				0
高度実践コース	慢性看護学				0
	精神看護学				0
	がん看護学	1			1
	母性看護学				0
	小児看護学				0
合計		6	7	1	14

【博士後期課程】

2019年5月現在

領域名	1年	2年	3年	在学年限 延長他	合計
療養生活支援看護学	3	5	3	2	13
地域家族看護学	2	3	2	2	9
合計	5	8	5	4	22

4) 学事一覧

表2参照

2019年度看護学研究科学事予定表

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
日	曜	内 容	内 容	内 容	日	曜	内 容	内 容	日	曜	内 容
1	月	臨時看護学研究科教授 会16:00	水 新天皇即位	土 創立記念日	1	月	(院)月①	木	日		
2	火		木 国民の休日	日	2	火	(院)火②	金	月		
3	水	学(学部入学式)	金 憲法記念日	月	3	水		土	日		
4	木	オリエンテーション 大学院入学式～	土 みどりの日	火	4	木	(院)木②	日	月		
5	金		日 子供の日	水	5	金	(院)金②	木	月		
6	土	(院)土①	月 振替休日	木	6	土	(院)土①	火	日		
7	日		火 (院)火④	金	7	日		水	月		
8	月	(院)月①	水	土	8	月	(院)月②	木	日		
9	火	(院)火①	木 (院)木④	日	9	火	(院)火③	金	月		
10	水		金 (院)金④	月	10	水		土	日		
11	木	(院)木①	土 (院)土④	火	11	木	(院)木③	日	月		
12	金	(院)金①	日	水	12	金	(院)金②	月	日		
13	土	(院)土②	月 (院)月④	木	13	土	(院)土②	火	月		
14	日		火 (院)火⑤	金	14	日		水	日		
15	月	(院)月②	水	土	15	月	海の日	木	月		
16	火	(院)火②	木 (院)木⑤	日	16	火	(院)火④	金	日		
17	水		金 (院)金⑤	月	17	水	高度実践コース実習報告会	土	月		
18	木	(院)木②	土 (院)土⑤	火	18	木	(院)木④	日	日		
19	金	(院)金②	日	水	19	金	(院)金④	月	月		
20	土	(院)土③	月 (院)月⑤	木	20	土	(院)土③	火	日		
21	日		火 (院)火⑥	金	21	日		水	日		
22	月	(院)月③	水	土	22	月	(院)月③	木	月		
23	火	(院)火③	木 (院)木⑥	日	23	火	(院)火⑤	金	日		
24	水	看護学研究科教授会 15:00	金 (院)金⑥	月	24	水	看護学研究科教授会 15:00	土	月		
25	木	(院)木③	土 (院)土⑥	火	25	木	(院)木⑤	日	日		
26	金	(院)金③	日	水	26	金	(院)金⑤	月	月		
27	土	研究計画・中間発表会	月 (院)月⑥	木	27	土	(院)土④	火	日		
28	日		火 (院)火⑦	金	28	日		水	月		
29	月	昭和の日	土 看護学研究科教授会 15:00	日	29	月	(院)月④	月	日		
30	火	国民の休日	日 (院)日⑦	月	30	火		火	日		
31	水		金 (院)金⑦	月	31	水		土	日		

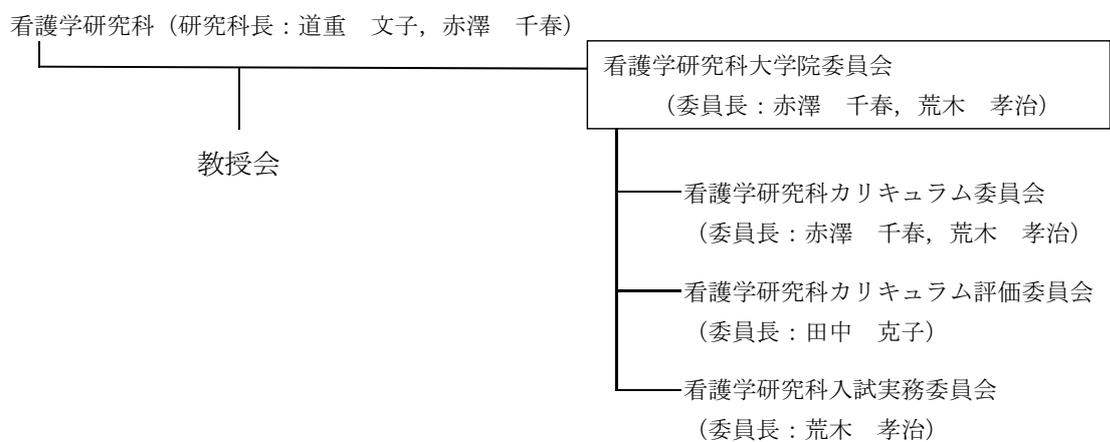
授業日程表の見方  
 ・〇数字は、各曜日授業の回数を示します。  
 ※各授業、特別研究・課題研究については、指導教授と大学院生との調整により、日時を変更することがあります。  
 ※月曜日・火曜日・木曜日・金曜日。

2019年度看護学研究科学事予定表

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜
1	火(院)火①	金(院)金⑤	日	1	水	土	日				
2	水	土(院)土⑤	月(院)月⑦	2	木	日	月				
3	木	日文化の日	火(院)火⑨	3	金	月(院)月⑧	火	(院)月⑩ 博士・修士口頭試問[最終試験]			
4	金(院)金①	月振替休日	水	4	土(院)土②	水	火				
5	土(院)土①	火(院)火⑤	木(院)木⑩	5	日	木(院)木⑨	水				
6	日	水	金(院)金⑩	6	月(院)月①	金(院)金⑩	木				
7	月(院)月①	木(院)木⑥	土(院)土⑨	7	火(院)火③	土(院)土⑩	金				
8	火(院)火②	金(院)金⑥	日	8	水	日	土				
9	水	土(院)土⑥	月(院)月③	9	木(院)木③	日	日				
10	木	日	火(院)火⑩	10	金(院)金③	月(院)月④	月	(院)月⑬			
11	金(院)金②	月(院)月④	水	11	土(院)土③	火(院)火⑩	火	建国記念の日			
12	土(院)土②	火(院)火⑥	木(院)木⑪	12	日	水	水				
13	日	水	金(院)金① 主査・副査推薦締切	13	月成人の日	木(院)木⑪	木				
14	月体育の日	木(院)木⑦	土(院)土⑩	14	火(院)火④	金(院)金④	金	研究計画発表会			
15	火(院)火③	金(院)金⑦ 論文タイトル締切	日	15	水	土(院)土⑩	土	研究計画発表会			
16	水	土(院)土⑦	月(院)月⑤	16	木(院)木④	日	日				
17	木(院)木③	日	火(院)火⑩	17	金(院)金④	月(院)月⑥	月				
18	金(院)金③	月(院)月⑤	水	18	土(院)土④	火(院)火⑩	火				
19	土(院)土③ 解剖懸霊祭	火(院)火⑦	木(院)木⑫	19	日	水	水				
20	日	水	金(院)金⑫	20	月(院)月②	木(院)木⑫	木	論文発表会			
21	月(院)月②	木(院)木③	土(院)土⑪	21	火(院)火⑤	金(院)金⑫	金	論文発表会			
22	火 新天皇即位礼正殿の儀	金(院)金⑧	日	22	水	土(院)土⑪	土	論文発表会			
23	水 看護学研究科発表会15:00 研究計画発表会17:00	土 勤労感謝の日	月(院)月⑩	23	木(院)木⑤	日	日				
24	木(院)木④	日	火(院)火⑫	24	金(院)金⑤	月(院)月⑪	月				
25	金(院)金④	月(院)月⑥	看護学研究科発表会15:00 (主査・副査の決定)	25	土(院)土⑤	火(院)火⑫	火				
26	土(院)土④	火(院)火⑧	水	26	日	水	水				
27	日	看護学研究科発表会 15:00	金	27	月 博士・修士論文提出(正午)	木(院)木⑬	木	看護学研究科発表会15:00 (第五期)博士・修士論文提出締切(17:00迄)			
28	月(院)月③	木(院)木⑨	土	28	火	金	金				
29	火(院)火④	金(院)金⑨	日	29	水	看護学研究科発表会	土				
30	水	土(院)土⑧	月	30	木	看護学研究科発表会	日				
31	木(院)木⑤	火	火	31	金	火	火				

### 3. 運営と教育活動

#### 1) 運営組織（センターおよび委員会組織図）



2) 委員会

委員会名	(1) 看護学研究科大学院委員会
目的	本委員会は、看護学研究科の管理・運営を円滑に進めるために設けられ、大学院生の教育、研究、学位審査、学生生活に関する事柄、また、入学試験等に関する協議を行い、必要事項を審議事項、報告事項として教授会に提議する。
構成員	赤澤千春（委員長、5月まで）、荒木孝治（委員長、6月から）、鈴木久美、津田泰宏、真継和子、久保田正和
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学研究科学位規程施行細則の作成</li> <li>2. 入学試験での合否基準のさらなる検討と受験者増に向けた対策</li> <li>3. 学位授与基準の検討を反映した学位論文指導の充実</li> <li>4. 入試相談会の開催やHPの充実等による広報活動の推進</li> <li>5. 教育活動に関する自己点検と改善への取り組み</li> <li>6. 教員と事務が一体となった大学院の運営力の強化 学習環境の整備、交流会の開催など学生サービスの充実 (上記の1については5月に教授会にて承認された)</li> </ol>
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カリキュラム改善の取り組み 博士前期課程、博士後期課程において看護教育、看護技術開発の両分野から構成される実践支援看護学領域を増設し専門性を強化するとともに、学位論文の作成等にのぞむ学生にカリキュラム上のゆとりをもたせる観点から、博士前期課程教育研究コース、博士後期課程の修了要件となる単位数の削減（前期課程34単位以上を32単位以上に変更、後期課程17単位以上を14単位以上に変更）するなど、カリキュラムの見直しを行った。博士前期課程療養支援看護学領域・高度実践コースに老年看護分野を増設するため、本年度、日本専門看護師協議会に申請を行い、認可された。以上は2020年度から実施となる。さらに、外来看護・在宅看護への貢献の観点から、2021年度の開設を目指し、高度実践看護師・ナースプラクティショナー（NP）の申請の準備を進めている。</li> <li>2. 大学院委員会の組織体制の改善への取り組み：カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会、入試実務委員会の規程の制定と活動 カリキュラムについては本委員会の中にカリキュラム・ワーキンググループがあり、委員会の委員以外の教員も委員となって、カリキュラムに関連する事項について検討を重ねてきた。本年度、教授会にて規定が承認され、カリキュラム委員会として活動することになった。一方で近年、カリキュラムの評価・改善に関しては、内部評価（自己点検）とともに、第三者の視点を入れた外部評価が推奨されていることに鑑み、他大学大学院教員、医学部教員、地域の有識者（医療関係者）を外部委員としたカリキュラム評価委員会を立ち上げ、その活動を開始した。また、入試実務委員会（大学院委員長と委員長が必要と認めた教授で組織される）に関する規程も承認され、入試に関する実務（スケジュール作成、作問依頼、入試問題のチェック、採点集計等）はこの委員会に集約して進めることとなった。</li> </ol>

3. 教員と事務が一体となった学生サービスの改善：博士前期課程を対象とした教育訓練給付金および職業実践力育成プログラムへの申請および認可

本学の博士前期課程の学生は病院等で働く社会人が多い。教育訓練給付金（厚生労働省による）は、主体的な能力開発の取組み、または中長期的なキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進をはかることを目的として教育訓練受講に支払った費用の一部が支給されるものであり、学生サービスの充実の観点から本年度この制度への申請を行い認可された。また、本学の博士前期課程の高度実践コースの全ての専攻が、文部科学省の職業実践力育成プログラム（BP ; Brush up Program for professional）として認定された。

4. 入学試験の方法の継続的な見直し

博士前期課程では本年度から受験方式の選択制を導入した。これは受験者本人が受験後に2つの受験科目（外国語、看護専門科目）のうち、どちらを100点とし、また50点とするかについて自分で選択できる方法である。この方法について検証を行ったところ、受験者13名中11名については自分が選択した得点配分の方が得点のアップに有利に働いたことがわかった。あとの2名についてもその差は0.5点、1点差であった。検討の結果、次年度も本年度同様の受験方式を継続することになった。博士前期課程の受験者数は、過去最高の13名（合格者は11名）であった。一方、博士後期課程の受験者数は昨年より1名少ない6名（合格者は3名）であった。可否は基本的に従来の基準に基づいて判定された。

5. アセスメント・ポリシーの策定とその公開

カリキュラム委員会にてアセスメント・ポリシーの検討が行なわれた。教授会での審議を経て策定され、HPに公開した。

6. 入試相談会の開催やHPの充実等による広報活動の推進

6月8日に入試相談会を行った。参加者合計は28名であり、そのうち19名について個別相談を行った。また、8月の日本看護研究学会（開催地・大阪）、12月の大阪府看護学会の大学院紹介ブースにて広報活動を行った。HPは適時、「看護学研究科ニュース」のコーナー等を利用して、最新の情報の提供に努めた。

7. 看護学研究科主催のFD講演会の開催

9月12日にFD講演会を開催した。修正版グラウンテッドセラピーに関する講演（講師・聖路加国際大学教授 木下康仁先生）で、参加者は大学院生、修了生、附属病院看護師、教員等計59名であった。

8. 研究計画発表会、中間発表会、論文発表会の実施

下記の日程に各発表会を実施した。

- 1) 博士前期課程 研究計画発表会 4月27日、10月23日、2月13日
- 2) 博士後期課程 研究計画発表会 4月27日、10月23日、2月15日
- 3) 中間発表会 4月27日
- 4) 博士前期課程 論文発表会 2月21日
- 5) 博士後期課程 論文発表会 2月22日

	<p>なお、論文発表会の後、3月4日の教授会にて学位授与審査が行われ、博士前期課程4名、博士後期課程5名の全員に学位を授与することが認められた。</p> <p>9. 大学院生と教員の交流会の実施</p> <p>本年度も6月15日に学生間（修士・博士間、1年次・2年次・3年次間）の交流および学生と教員間の交流や意見交換の場をもった。</p> <p>10. 博士前期課程入学予定者 補習授業の実施</p> <p>2020年度博士前期課程入学予定者を対象とする入学前の補習授業を2月に行った。</p> <p>11. ベスト・ティーチャー賞アンケートの実施</p> <p>博士前期課程、博士後期課程の授業を受けた各課程の学生が対象教員の中からベスト・ティーチャーを選ぶアンケート調査を2月に行った。</p> <p>12. 学生を対象としたアンケートの実施</p> <p>下記のアンケート、調査を2月に行った。</p> <p>1) 修了生アンケート（DP到達度）の実施</p> <p>2) 学勢調査</p> <p>3) 授業評価アンケート</p>
<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 博士前期課程の受験者数が増加している点</p> <p>2) 内部質保証の観点からアセスメント・ポリシーを制定し、HPに公開した点</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) 看護学研究科は主査、副査は主指導教員の推薦方式としており、また、主指導教員が副査に入ることを認めている。しかし公平性の担保できていないとの意見があり、選挙方式の導入等を検討していく必要がある。</p>
<p>将来に向けた 発展方策・ 課題</p>	<p>1. 専門科目も含めたカリキュラムの点検、見直し（2022年度以降に向けたカリキュラムの改正）を進めていくことが求められる。</p> <p>2. 職業実践力育成プログラム（BP）として認定されたので、今後、専門実践教育訓練給付金制度の申請に向けても条件を整えていく。</p>

委員会名	(2)看護学研究科カリキュラムワーキング
目的	大学院看護学研究科のカリキュラムに関わる事項の調整を行なうことを目的とする。
構成員	荒木孝治（委員長）、池西悦子、真継和子、草野恵美子
活動計画	2019年10月まで大学院委員会にカリキュラムに関するワーキンググループがあり、カリキュラムの計画、評価、実施、再編成の作業に取り組んできたが、その活動の重要性に鑑み、同年10月に大学院教授会においてカリキュラム委員会規程が承認された。同年11月からカリキュラム委員会として活動を開始し、教育活動のPDCAが連続的に回っているかを確認するとともに、2021年度におけるカリキュラム改正に向けて活動を行う。
活動概要	<p>1. 学勢調査の調査用紙の作成と調査の実施</p> <p>大学院生の生活実態およびニーズを把握し、今後の学習支援、学生生活支援方法について検討する目的で、学勢調査（大学院生生活実態調査）の調査用紙を作成した。本調査用紙は11月の教授会で承認され、1～3月を期間として大学院委員会により調査が実施された。</p> <p>2. アセスメント・ポリシーの作成と公開</p> <p>旧カリキュラム・ワーキンググループにより本研究科の学生の学修成果を測定・評価するためのアセスメント・ポリシーの原案が検討され、2019年10月の教授会で承認された。作成されたアセスメント・ポリシーの各項目についてPDCAが回っているかの確認は大学院委員会等において点検される。なお、11月には医学研究科のアセスメント・ポリシーが同教授会にて承認され、12月、両研究科のアセスメント・ポリシーを同時にHPで公開した。</p> <p>3. 2020年度カリキュラム変さらにとまなう調整</p> <p>2020年度より実践支援看護学領域が新設され、看護教育学と看護技術開発学の二分野から構成されることになった。これまで共通科目であった看護教育学は看護教育学分野の専門科目となる。そのため、博士前期課程教育研究コースの必修科目は「看護倫理」「看護学研究方法論」「看護理論」の3科目6単位となるが、「看護教育学」の重要性を鑑み、同科目を受講することを推奨するという表現を教育要項に盛り込むこととした。</p> <p>4. 2021年度カリキュラム改正に関する検討</p> <p>プライマリケア分野を2020年度に日本専門看護師協議会に申請するが、ナースプラクティショナー（NP）設置に向けた共通科目の見直し（看護現任教諭論の見直し、コンサルテーション論・看護政策論開設）を進めるなかで、コンサルテーション論と看護政策論については教育研究コースやCNSの受講生にもニーズがあると考えられるため、同科目の位置づけについて検討を続けている。</p>
評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) アセスメント・ポリシーを定めたことによる学生の学修成果の可視化</p> <p>2) 学生による授業評価と学勢調査の結果をカリキュラム改正に反映させるプロセスが定着してきたこと</p>

	<p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) 博士論文の作成にかかる時間のゆとりを保証していく議論も必要であること</p> <p>2) カリキュラム評価に関する学生からの意見を一層汲み取れる方法を検討すること</p>
<p>将来に向けた 発展方 策・課題</p>	<p>1. 高度実践看護師の養成機関として、時代のニーズをしっかりと踏まえたカリキュラム構成について検討していく必要がある。</p> <p>2. 国際化を反映できるカリキュラムのあり方について議論を進める必要がある。</p>

委員会名	(3)看護学研究科カリキュラム評価委員会
目的	カリキュラムの質保証を強化するため、内部評価だけでなく（外部委員や学生委員による）外部評価も反映されたカリキュラム評価・改善のための活動を行う。
構成員	田中克子（委員長）、久保田正和、小林洋樹、田中佑美（看護学事務課）（以上、学内委員のみ記載）、外部委員：寺崎文生医学部教員1名、林優子他大学看護系教員1名、芦田泰弦、企業に所属する専門家1名、勝山あづさ、近澤 幸、研究科学生
活動計画	1. カリキュラムの評価方法の検討と決定 2. シラバスの記載内容の評価、改善に関すること 3. 2019年度を対象としたシラバス、カリキュラム評価の実施と意見交換 4. 報告書の作成
活動概要	2019年度を評価する年度とし、大学院研究科カリキュラムの改善に関するPDCAサイクルが連続的に回っているかどうかを、内部、外部の両方の視点で点検・評価するために、評価項目を①教育目的、②アドミッションポリシー、③カリキュラムポリシー、④ディプロマポリシー、⑤アセスメント・ポリシー、それぞれの項目を評価できる資料として決定した。また、外部委員や学生委員にとって評価が行いやすいように意見交換できるように計画した。最終的には委員会は、2020年3月24日コロナ感染対策によりメール審議となった。各委員から①教育目的、②アドミッションポリシー、③カリキュラムポリシー、④ディプロマポリシー、⑤アセスメント・ポリシーについて意見を集約し、その総括および今後の課題を報告書にまとめた。
評価	1. 効果が上がっている事項 1) 新コース設置に伴うカリキュラムの改善に関する本研究科の強みを生かすために①教育目的、②アドミッションポリシー、③カリキュラムポリシー、④ディプロマポリシー、⑤アセスメント・ポリシー、の見直しを行い課題が明らかになった点。具体的には、アセスメント・ポリシーの博士課程前期と後期の記載内容の個別性に関しての再検討の課題が見つかった点。 2. 改善すべき事項 コロナ感染対策で予定していた委員会が開催できなかつたことに関して、環境整備等の準備不足であったことが課題である。2020年度から実施となる博士前期課程教育研究コース、博士後期課程の修了要件となる単位数の削減、高度実践コースに老年看護分野を増設することが強化されたことに伴いカリキュラム全般を複数年度にわたる評価を取り入れる必要のある点。
将来に向けた発展方策・課題	2020年度から実施となる博士前期課程教育研究コース、博士後期課程の修了要件となる単位数の削減（前期課程34単位以上を32単位以上に変更。後期課程17単位以上を14単位以上に変更）するなど、カリキュラムの見直しを行った。博士前期課程療養支援看護学領域・高度実践コースに老年看護分野を増設するため、本年度、日本専門看護師協議会に申請を行い、認可された。さらに、外来看護・在宅看護への貢献の観点から、2021年度の開設を目指し、高度実践看

	護師・ナースプラクティショナー（NP）の申請の準備を進めている。以上のことからカリキュラム全般に関して大学の強みを生かし、長期的な視点での評価が必要となると考える。
--	--

3) 教育活動

(1) 博士前期課程

①授業科目一覧

● 博士前期課程教育研究コース

(注) ※：選択科目 ※※：選択必修科目 (隔)：隔年開講

区分	科目	単位数	配当年次	単位取得要件
共通科目	※国際保健 ※医療科学	1 1	1～2前(隔) 1～2前(隔)	以下の①～④を満たし 34 単位以上
共通専門科目 A	看護倫理 看護学研究方法論 看護理論 ※※看護現任教育論 ※※看護管理学 ※※看護哲学	2 2 2 2 2 2	1 後 1 前 1 前 1～2前(隔) 1 後 1 後	①共通専門科目 A 「看護倫理」「看護学研究方法論」「看護理論」の 3 科目 6 単位 ②共通専門科目 A 「看護現任教育論」「看護管理学」「看護哲学」のいずれか 1 科目 2 単位
共通専門科目 B	※フィジカルアセスメント論 ※臨床薬理学 ※病態生理学	2 2 2	1 前 1 後 1 前	③自領域専門科目から必修科目及び選択科目 4 科目 8 単位以上、全領域科目から 5 科目 10 単位以上 ただし、療養生活支援看護学科目の「看護教育学」を受講することを推奨する。
療養生活支援看護学	療養生活支援看護学特論	2	1 前	④「特別研究」1 科目 8 単位  〈修正点〉
	※看護教育学	2	1 前	
	※看護教育課程論	2	1 後	
	※看護教育演習	2	1 後	
	※看護技術開発学特論 I	2	1 前	
	※看護技術開発学特論 II	2	1 前	
	※看護技術開発学演習 I	2	1 通年	
	※看護技術開発学演習 II	2	1 後～2 前	
	※移植・再生医療看護学特論 I	2	1 前	
	※移植・再生医療看護学特論 II	2	1 後	
	※移植・再生医療看護学演習	2	1 後～2 前	
	※がん看護学特論 I	2	1 前	
	※がん看護学特論 II	2	1 後	
	※がん看護学援助論 I	2	1 前	
	※がん看護学援助論 II	2	1 後	
	※がん看護学演習 I	2	1 前～1 後	
	※がん看護学演習 II	2	1 後～2 前	
	※慢性看護学特論 I	2	1 前	
	※慢性看護学特論 II	2	1 前	
	※慢性看護学援助論 I	2	1 前	
	※慢性看護学援助論 II	2	1 後	
	※慢性看護学演習 I	2	1 後	
	※慢性看護学演習 II	2	2 前	
※精神看護学特論 I	2	1 前		
※精神看護学特論 II	2	1 後		
※精神看護アセスメント論	2	1 前		
※精神看護援助論 I	2	1 前		
※精神看護援助論 II	2	1 後		
※精神看護学演習 I	2	1 後		
※精神看護学演習 II	2	2 前		
※老年看護学特論 I	2	1 前		
※老年看護学特論 II	2	1 後		
※老年看護学演習	2	1 後～2 前		

区分	科目	単位数	配当年次	単位取得要件
地域 家族 支援 看護 学	家族看護学特論	2	1 前	
	※周産期看護論	2	1 前	
	※※母性看護学特論	2	1 前	
	※ウィメンズヘルス看護論	2	1 前	
	※※周産期看護援助論Ⅰ	2	1 前	
	※※周産期看護援助論Ⅱ	2	1 後	
	※周産期看護演習Ⅰ	2	1 後～2 前	
	※周産期看護演習Ⅱ	2	1 後～2 前	
	※※小児看護学特論	2	1 前	
	※小児と病気	2	1 後	
	※発達障害看護論	2	1～2前(隔)	
	※※小児看護アセスメント論	2	1 後	
	※※小児看護学演習	2	1 後～2 前	
	※※地域看護学特論	2	1 前	
	※※地域ケアシステム特論	2	1 後	
	※地域母子保健論	2	1～2前(隔)	
	※※地域看護学演習	2	1 後～2 前	
	※在宅看護学特論Ⅰ	2	1 前	
	※在宅看護学特論Ⅱ	2	1 後	
	※在宅看護学演習	2	1 後～2 前	
特別研究	特別研究	8	1～2 通年	

● 博士前期課程高度実践コース

(注) ※：選択科目 ※※：選択必修科目 (隔)：隔年開講

区分	科目	単位数	配当年次	単位取得要件
共通科目	※国際保健 ※医療科学	1 1	1～2 (隔) 1～2 (隔)	以下の①～④の全て、⑤～⑧のいずれか、及び⑨を満たし42単位以上
共通専門科目A	看護倫理 ※看護教育学 看護学研究方法論 ※※看護現任教育論 看護理論 ※看護教育課程論 ※※看護管理学 ※看護哲学	2 2 2 2 2 2 2 2	1 後 1 前 1 前 1～2 (隔) 1 前 1 後 1 後 1 後	①共通専門科目A「看護倫理」「看護学研究方法論」「看護理論」の3科目6単位 ②共通専門科目A「看護現任教育論」または「看護管理学」のいずれか1科目2単位 ③共通専門科目B「フィジカルアセスメント論」「臨床薬理学」「病態生理学」の3科目6単位 ④①～③を含む14単位以上
共通専門科目B	フィジカルアセスメント論 臨床薬理学 病態生理学	2 2 2	1 前 1 後 1 前	⑤療養生活支援看護学領域選択者のうち慢性看護専門看護師を希望する者は、「慢性看護学特論Ⅰ」「慢性看護学特論Ⅱ」「慢性看護アセスメント論」「慢性看護援助論Ⅰ」「慢性看護援助論Ⅱ」「慢性看護学演習Ⅰ」「慢性看護学演習Ⅱ」「慢性看護学実習Ⅰ」「慢性看護学実習Ⅱ」「慢性看護学実習Ⅲ」の10科目24単位
療養生活支援看護学	慢性看護学特論Ⅰ 慢性看護学特論Ⅱ 慢性看護アセスメント論 慢性看護援助論Ⅰ 慢性看護援助論Ⅱ 慢性看護学演習Ⅰ 慢性看護学演習Ⅱ 慢性看護学実習Ⅰ 慢性看護学実習Ⅱ 慢性看護学実習Ⅲ	2 2 2 2 2 2 2 2 4 4	1 前 1 前 1 後 1 前 1 後 1 後 2 前 1 後 2 通年 2 通年	⑥療養生活支援看護学領域選択者のうち精神看護専門看護師を希望する者は、「精神看護学特論Ⅰ」「精神看護学特論Ⅱ」「精神看護アセスメント論」「精神看護援助論Ⅰ」「精神看護援助論Ⅱ」「精神看護学演習Ⅰ」「精神看護学演習Ⅱ」「精神看護学実習Ⅰ」「精神看護学実習Ⅱ」「精神看護学実習Ⅲ」の10科目24単位
	精神看護学特論Ⅰ 精神看護学特論Ⅱ 精神看護アセスメント論 精神看護学援助論Ⅰ 精神看護学援助論Ⅱ 精神看護学演習Ⅰ 精神看護学演習Ⅱ 精神看護学実習Ⅰ 精神看護学実習Ⅱ 精神看護学実習Ⅲ	2 2 2 2 2 2 2 2 6 2	1 前 1 後 1 前 1 前 1 後 1 後 2 前 1 後 2 前 2 通年	⑦療養生活支援看護学領域選択者のうちがん看護専門看護師を希望する者は、「がん看護学特論Ⅰ」「がん看護学特論Ⅱ」「がん病態治療論」「がん看護学援助論Ⅰ」「がん看護学援助論Ⅱ」「がん看護学演習Ⅰ」「がん看護学演習Ⅱ」「がん看護学実習Ⅰ」「がん看護学実習Ⅱ」「がん看護学実習Ⅲ」「がん看護学実習Ⅳ」の11科目24単位
	がん病態治療論 がん看護学特論Ⅰ がん看護学特論Ⅱ がん看護学援助論Ⅰ がん看護学援助論Ⅱ がん看護学演習Ⅰ がん看護学演習Ⅱ がん看護学実習Ⅰ がん看護学実習Ⅱ がん看護学実習Ⅲ がん看護学実習Ⅳ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 3 3	1 後 1 前 1 後 1 前 1 後 1 前～1 後 1 後～2 前 1 後 1 後 2 通年 2 通年	⑧地域家族支援看護学領域選択者のうち母性看護専門看護師を希望する者は、「家族看護学特論」「周産期看護論」「母性看護学特論」「ウィメンズヘルス看護論」「周産期看護援助論Ⅰ」「周産期看護援助論Ⅱ」「周産期看護演習Ⅰ」「周産期看護演習Ⅱ」「周産期看護実習Ⅰ」「周産期看護実習Ⅱ」「周産期看護実習Ⅲ」の11科目26単位

区分	科目	単位数	配当年次	単位取得要件
地域 家族 支援 看護 学	家族看護学特論	2	1 前	⑨地域家族支援看護学領域選択者のうち小児看護専門看護師を希望する者は、「家族看護学特論」「小児看護学特論」「小児と病気」「周産期看護論」「発達障害看護論」「小児看護アセスメント論」「地域母子保健論」「小児看護学演習」「小児看護学実習Ⅰ」「小児看護学実習Ⅱ」「小児看護学実習Ⅲ」の11科目26単位 ⑩「課題研究」1科目4単位
	周産期看護論	2	1 前	
	母性看護学特論	2	1 前	
	ウィメンズヘルス看護論	2	1 前	
	周産期看護援助論Ⅰ	2	1 前	
	周産期看護援助論Ⅱ	2	1 後	
	周産期看護演習Ⅰ	2	1 後～2 前	
	周産期看護演習Ⅱ	2	1 後～2 前	
	周産期看護実習Ⅰ	2	1 後	
	周産期看護実習Ⅱ	4	2 前	
	周産期看護実習Ⅲ	4	2 通年	
	小児看護学特論	2	1 前	
	小児と病気	2	1 後	
	発達障害看護論	2	1～2 (隔)	
	小児看護アセスメント論	2	1 後	
	小児看護学演習	2	1 後～2 前	
	小児看護学実習Ⅰ	2	1 後～2 前	
	小児看護学実習Ⅱ	6	1 後～2 前	
	小児看護学実習Ⅲ	2	2 通年	
地域母子保健論	2	1～2 (隔)		
特別研究	課題研究	4	1 後～2 後	

## (2) 博士後期過程

### ① 授業科目一覧

## 博士後期課程 カリキュラム表

(※：選択科目 ※※：選択必修科目 (隔)：隔年開講)

区分	科目	単位数	配当年次	単位取得要件
基盤科目	看護科学研究論	2	1 前	以下①～④をすべて満たし、合計17単位以上 ①基盤科目「看護科学研究論」「看護学教育開発論」「英語論文演習」の3科目5単位 ②基盤科目「看護学研究法応用論(保健統計)」「看護学研究法応用論(実験法)」「看護学教育演習」「異文化看護論」の中から1科目1単位以上 ③専門科目「療養生活支援看護学特論」「療養生活支援看護学演習」または「地域家族支援看護学特論」「地域家族支援看護学演習」の2科目3単位 ④「特別研究」1科目8単位
	※看護学研究法応用論(保健統計)	1	1 後	
	※看護学研究法応用論(実験法)	1	1～2後(隔)	
	看護学教育開発論	2	1 前	
	※看護学教育演習	1	1～2 後	
	英語論文演習	1	2 前	
	※異文化看護論	1	1～2前(隔)	
専門科目	療養生活支援看護学	2	1 後	
	※療養生活支援看護学演習	1	2 通	
地域家族支援看護学	※地域家族支援看護学特論	2	1 後	
	※地域家族支援看護学演習	1	2 通	
特別研究	特別研究	8	1～3 通	

(3) 修了者学位論文タイトル一覧

博士前期課程

氏名	コース 専攻分野	学位論文タイトル
東尾 智美	教育研究コース 看護技術開発看護学	一般病棟から全科型集中治療室へ異動した看護師への教育的支援に関する検討
勝山 あづさ	教育研究コース 移植・再生医療看護学	集中治療室における早期リハビリテーションの安全な実施に向けた多職種間情報共有の検討
服部 智佐	教育研究 精神看護学	統合失調症患者への精神科病院におけるターミナル期の看護実践の様相
仲 文子	教育研究コース 地域看護学	40歳未満の労働者における生活習慣とワーク・エンゲイジメントの関連

博士後期課程

氏名	領域	学位論文タイトル
南口 陽子	療養生活支援看護学	進行がん高齢患者の最期を迎える場における患者と家族の意思決定支援モデルの開発
名草 みどり	地域家族支援看護学	成熟期女性労働者に対するプレコンセプションケア健康教育の評価
鈴木 美佐	地域家族支援看護学	食物アレルギーのある子どもの対処過程に基づいた心理教育支援ガイドの開発に関する研究
長谷川 幹子	療養生活支援看護学	病いにより苦悩する患者へ関わる看護師のありようの探求
森本 喜代美	療養生活支援看護学	続発性リンパ浮腫をもつ在宅高齢者への訪問看護介入リンパ浮腫ケアプログラムの構築

(学位記番号順)

## IV. 研究活動



## 1. 研究実績

### 1) 外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況

2019年度 看護学部の競争的研究資金等の採択状況

研究活動		新規採択件数	継続件数	合計金額(円)	
科学研究費助成事業	基盤研究 (B)	代表	0	0	
		分担	1	3	850,000
	基盤研究 (C)	代表	2	11	11,200,000
		分担	5	4	610,000
	挑戦的萌芽研究	代表	0	0	0
		分担	1	0	1,820,000
	若手研究 (B)・若手研究	代表	2	6	5,600,000
	研究活動スタート支援	代表	0	0	0
	厚生労働科学研究費補助金	代表	0	0	0
		分担	1	0	300,000
省庁・独立行政法人等の競争的資金 (科研費を除く)	代表	0	0	0	
	分担	0	0	0	
財団等による研究助成		3	0	923,880	
企業等による共同研究, 研究助成		0	0	0	
総合計				21,303,880	

## 2019 年度科学研究費助成事業交付一覧

(研究代表者)

※2019 年度交付決定額

研究種目	氏 名	研 究 課 題 名	交付額(円)
基盤研究(C)	赤澤 千春	高齢者の特性を考慮した下肢リンパ浮腫を軽減する可能な手技の開発	1,700,000
基盤研究(C)	真継 和子	死生観を育み看取り文化を創成する住民参画型看取りケアコミュニティのモデル開発	800,000
基盤研究(C)	川北 敬美	交代制勤務が困難な短時間勤務者の活用プログラムの開発	900,000
基盤研究(C)	二宮 早苗	骨盤底筋群に作用する姿勢の探索-指導しやすい新骨盤底筋トレーニングの確立に向けて	900,000
基盤研究(C)	津田 泰弘	デジタルコンテンツを利用した新たな C 型肝炎患者の掘り起こしの試み	200,000
基盤研究(C)	土肥 美子	看護系大学に所属する若手教員の能力形成・向上に資する教育支援の検討	900,000
基盤研究(C)	カルデナス 暁東	SLE 女性患者の BF の獲得を促進するアピアランスケアプログラムの構築	800,000
基盤研究(C)	久保田 正和	fNIRS を用いた認知症看護ケアの検証と適切な認知リハビリテーションの探索	700,000
基盤研究(C)	荒木 孝治	精神科病院における統合失調症患者のターミナルケアの推進に向けた方略の開発	800,000
基盤研究(C)	小林 道太郎	倫理的看護実践を可能にする組織の条件に関する質的・理論的研究	900,000
基盤研究(C)	泊 祐子	学生の思考力強化をはかる小児看護学実習の課題構造の明確化と教育方略の開発	700,000
基盤研究(C)	佐々木 綾子	産婦の安全と夫も含めた満足な分娩のための 3 次元分娩アニメーションソフト開発と評価	500,000
基盤研究(C)	宮川 幸代	産後うつ予防のための妊娠中から産後までの睡眠支援プログラムの開発	1,400,000
若手研究	山崎 歩	思春期・青年期 1 型糖尿病患者の身体感覚に着目した性差別支援プログラムの開発	400,000
若手研究	寺口 佐興子	在宅看護ケアで活用できるリンパ浮腫評価モデルの開発	600,000
若手研究	瓜崎 貴雄	三次救急の場における看護師の自殺未遂患者に対する態度形成の影響要因の探索と検証	600,000
若手研究	大橋 尚弘	腎移植ドナー、レシピエントの潜在的支援ニーズを抽出するスクリーニングツールの開発	900,000

若手研究	山埜 ふみ恵	都市部の男性高齢者における介護予防活動を活用した地域のつながり強化に関する研究	1,100,000
若手研究(B)	府川 晃子	分子標的薬を内服する高齢肺癌患者のアドヒアランスを高める看護プログラムの開発	500,000
若手研究(B)	佐野 かおり	高齢人工股関節術後患者の転倒予防支援プログラムの開発	200,000
若手研究(B)	山本 暁生	ウェアラブル計測器による運動耐容能評価法の開発	1,300,000

(研究分担者)

研究種目	氏名	研究課題名	交付額(円)
基盤研究(B)	鈴木 久美	AYA世代にある小児がんサバイバーの移行期ケアを支える看護者育成プログラムの開発	100,000
基盤研究(B)	樋上 容子	科学技術と実践情報を統合した高齢者の早期問題予測ツールと最適ケアモデルの開発	100,000
基盤研究(B)	佐野 かおり	医療・看護情報を共有化する『THAケアネットポータル』の構築と質評価	50,000
基盤研究(B)	土肥 美子	看護学習者の臨床判断を拓くルーブリックと臨床学習環境づくり支援プログラムの開発	600,000
基盤研究(C)	鈴木 久美	喉頭全摘術を受けるがん患者とパートナーの首尾一貫感を高める看護実践モデルの開発	60,000
基盤研究(C)	鈴木 久美	成人外来がん患者へのがん疼痛セルフマネジメントを促進する看護介入プログラムの開発	100,000
基盤研究(C)	赤澤 千春	ストレス対処能力の低い新人看護師に対するストレス対処能力向上のための支援の開発	100,000
基盤研究(C)	泊 祐子	家族も共有できる在宅重症心身障害児における体調アセスメントツールの開発および評価	80,000
基盤研究(C)	赤澤 千春	急性・重症患者看護専門看護師の倫理的実践知の体系化ー倫理的実践の質向上に向けてー	30,000
基盤研究(C)	赤澤 千春	看護実践能力の評価指標を基盤とした看護学実習カリキュラムの開発	40,000
基盤研究(C)	草野 恵美子	子育て世代のがんサバイバーのコミュニティ・エンパワメントモデル開発	70,000
基盤研究(C)	竹 明美	高齢患者の術後せん妄予防・緩和のためのハンドマッサージ法による全人的アプローチ	30,000
基盤研究(C)	道重 文子	舌苔を有する高齢者に対する効果的で心地よい舌苔除去方法の検証	100,000
挑戦的研究(萌芽)	二宮 早苗	女性の尿失禁改善用サポート下着の生体力学的根拠に裏付けされた最適設計戦略	1,820,000

2019 年度厚生労働科学研究費補助金一覧

事業名	研究分担者	研究課題名	補助金額(円)
地域医療基盤開発 推進研究事業	鈴木 久美	保健師助産師看護師国家試験における 現状の評価および出題形式等の改善に 関する研究	300,000

2019 年度省庁・独立行政法人等の競争的資金一覧（科研費を除く）

事業名	研究分担者	研究課題名	助成金額(円)
該当なし			

2019 年度財団等による研究助成一覧

事業名	研究代表者	研究課題名	助成金額(円)
公益財団法人 フラン スベッド・メディカル ホームケア研究・助成 財団	森本 喜代美	在宅高齢者の続発性リンパ浮腫への訪 問看護介入リンパ浮腫ケアプログラ ムの活用可能性の検討	380,000
公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団	三原 綾	人生の終焉を生きる場の選択における がん末期高齢患者と家族の合意形成を 支える看護実践内容の可視化	243,880
公益財団法人 大阪対がん協会	田村 沙織	化学療法を受けている大腸がん患者の レジリエンスと、不安や抑うつ、QOL と の関連およびそれらの影響要因	300,000

2019 年度企業等による共同研究，研究助成一覧

機関名	研究代表者	研究課題名	研究費(円)
該当なし			

2) 各自の業績（外部資金獲得除く）

研究活動/【著書】

赤澤千春	寺崎文生, <u>赤澤千春</u> 監修 (2019). 実践多職種連携教育, 中外医学社, 東京
佐々木綾子	横尾京子, 常盤洋子, 岡永真由美, 井村真澄, <u>佐々木綾子</u> 他 (2020): 助産師基礎教育新テキスト 第6巻, 第5章親子の絆とアタッチメントの形成, 横尾京子(編), 100-120, 日本看護協会出版会, 東京. 定方美恵子, 関島香代子, <u>佐々木綾子</u> 他 (2020) ナーシンググラフィカ母性看護学②母性看護技術, 横尾京子他(編), 2章1~4, 6~11, 13~17節, メディカ出版, 大阪. 村上明美, 斎藤いずみ, <u>佐々木綾子</u> 他 (2019), 母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護 (新体系看護学全書—母性看護学1), 渡邊浩子他(編), 第2編女性看護学 第1章女性看護学とは, 123-137, メヂカルフレンド社, 東京.
鈴木久美	石松伸一, 林直子, <u>鈴木久美</u> 編 (2019). 看護学テキスト NiCE 病態・治療論 [1] 病態・治療総論, 南江堂, 東京.
土手友太郎	山埜ふみ恵, <u>土手友太郎</u> (2人中2番目)(2020), 多職種連携教育, 駒澤伸泰編, 18 産業保健活動における連携 p184-188, 中外医学社, 東京
真継和子	大橋尚弘, <u>真継和子</u> (2019). 第2章 それぞれの部署や状況における多職種連携: 10 在宅医療 (home medical care) における連携, 駒澤伸泰(編著), 実践 多職種連携教育, 150-155, 中外医学社, 東京
道重文子	<u>道重文子</u> (2020). 第1章 5 看護師の役割と育成過程, 駒澤伸泰編, 実践多職種連携教育, 30-33, 中外医学社, 東京.
吉田久美子	<u>吉田久美子</u> (2019). 第1章 6 保健師の役割と育成過程, 駒澤伸泰編, 実践多職種連携教育, 34-37, 中外医学社, 東京
草野恵美子	<u>草野恵美子</u> (2020). 第3章 17 公衆衛生看護学実習, 駒澤伸泰編, 実践多職種連携教育, 259-261, 中外医学社, 東京
久保田正和	<u>久保田正和</u> (2019). 認知症 plus 退院支援 一般病棟ナースのための Q&A ([認知症 plus] シリーズ), 深堀浩樹, 酒井郁子, 戸村ひかりら編, 第1章 Q8, 第2章 Q56, Q57). 16-17, 130-131, 132-133, 日本看護協会出版会, 東京
寺口佐與子	<u>寺口佐與子</u> (2020). 第1章 それぞれの医療者の役割と成長過程; 診療放射線技師の役割と育成過程, 駒澤伸泰編, 実践多職種連携教育, 54-57, 中外医学社, 東京 <u>寺口佐與子</u> (2020). 第1章 それぞれの医療者の役割と成長過程; 臨床工学技師の役割と育成過程, 駒澤伸泰編, 実践多職種連携教育, 58-61, 中外医学社, 東京
土肥美子	<u>土肥美子</u> (2020). 5 合同授業, 駒澤伸泰編, 実践多職種連携教育, 211-212, 中外医学社, 東京. 原明子, <u>土肥美子</u> (2020). 16 臨地実習 (基礎看護学実習), 駒澤伸泰編, 実践多職種連携教育, 254-255, 中外医学社, 東京.

	<u>土肥美子</u> (2020) . 18 臨地実習, 駒澤伸泰編, 実践多職種連携教育, 262-263, 中外医学社, 東京.
仲下祐美子	<u>仲下祐美子</u> (2020). 17 地域医療における連携, 駒澤伸泰編, 実践多職種連携教育, 180-183, 中外医学社, 東京.
竹 明美	定方美恵子, 関島香代子, <u>竹明美</u> , 他 (2020) . 2 章 5 節, 12 節, 4 章 1 節 3 項, ナーシング・グラフィカ母性看護学③母性看護技術, 荒木奈緒他 (編), 77-81, 104-106, 181-182, メディカ出版, 大阪. <u>竹明美</u> (2020). 第 1 章 7 節, 13 節, 16 節, 第 2 章 8 節, 第 3 章 8 節, 寺崎文生, 赤澤千春 (監), 駒澤伸泰 (編), 実践多職種連携教育, 40-43, 66-70, 80-85, 141-144, 221-225, 中外医学社, 東京.
樋上容子	<u>樋上容子</u> (2019). 認知症 plus 退院支援 一般病棟ナースのための Q&A ([認知症 plus] シリーズ), 深堀浩樹, 酒井郁子, 戸村ひかりら編, 第 2 章 Q58, Q59. 134-136, 137-139. 日本看護協会出版会, 東京
大橋尚弘	<u>大橋尚弘</u> (2020). 言語聴覚士, 視能訓練士の役割と育成課程, 寺崎文生, 赤澤千春 (監), 駒澤伸泰 (編), 実践多職種連携教育, 74-79, 中外医学社, 東京. <u>大橋尚弘</u> (2020). 管理栄養士の役割と育成課程, 寺崎文生, 赤澤千春 (監), 駒澤伸泰 (編), 実践多職種連携教育, 86-91, 中外医学社, 東京. <u>大橋尚弘</u> (2020). 介護福祉士, 社会福祉士, 精神保健福祉士の役割と育成課程, 寺崎文生, 赤澤千春 (監), 駒澤伸泰 (編), 実践多職種連携教育, 92-104, 中外医学社, 東京. <u>大橋尚弘</u> , 真継和子 (2020). 在宅医療 (home medical care)における連携, 寺崎文生, 赤澤千春 (監), 駒澤伸泰 (編), 実践多職種連携教育, 150-155, 中外医学社, 東京. <u>大橋尚弘</u> , 佐野かおり (2020). 合同実習, 寺崎文生, 赤澤千春 (監), 駒澤伸泰 (編), 実践多職種連携教育, 213-215, 中外医学社, 東京. <u>大橋尚弘</u> (2020). 合同 PBL (1) 人生の最終段階における医療, 寺崎文生, 赤澤千春 (監), 駒澤伸泰 (編), 実践多職種連携教育, 216-220, 中外医学社, 東京.
近澤 幸	佐々木綾子, <u>近澤幸</u> (2020). 2 章 17 節帝王切開時のケア, 荒木奈緒他 (編), ナーシング・グラフィカ母性看護学③母性看護技術, 122-128, メディカ出版, 大阪.
原 明子	<u>原明子</u> , 土肥美子 (2020). 16 臨地実習 (基礎看護学実習), 駒澤伸泰編, 実践多職種連携教育, 254-258, 中外医学社, 東京.
山埜ふみ恵	<u>山埜ふみ恵</u> , 土手友太郎 (2020) . 18 産業保健活動における連携, 駒澤伸泰編, 実践多職種連携教育, 184-188, 中外医学社, 東京

研究活動/【論文】

<p>赤澤千春</p>	<p>Komasawa N, Ohashi T, Take A, <u>Akazawa C</u>. (8人中8番目) (2019). Hybrid Simulation utilizing Augmented Reality and Simulator for Interprofessional Resuscitation Training, Journal of Clinical Anesthesia, 57(2019), 106-107.</p> <p>Yoshikawa Y, Uchida J, Kosoku A, <u>Akazawa C</u>. (5人中4番目) (2019). Childbirth and Care Difficulties of Female Kidney Transplantation Recipients, Transplantation Proceedings, 51, 1415-1419.</p> <p>勝山あづさ, 赤澤千春, 寺口佐與子 (3人中2番目) (2020). 集中治療室における多職種連携による早期リハビリテーションに関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 10, 32-42</p>
<p>荒木孝治</p>	<p><u>荒木孝治</u>, 瓜崎貴雄, 山内彩香, 小松尚司 (2019). 精神科病院における統合失調症患者に対するターミナルケアの実態と看護師の態度, 日本精神保健看護学会誌, 28 (2), 57-68.</p>
<p>池西悦子</p>	<p>土井智生, 鈴木久美, <u>池西悦子</u> (5人中3番目) (2020). チーム医療の理解を促すアクティブ・ラーニングを用いた授業の有用性と看護学生の学び. 大阪医科大学看護学研究雑誌, 10, 23-31.</p>
<p>佐々木綾子</p>	<p>船越泉美, <u>佐々木綾子</u> (2人中2番目) (2020). 夫のバースレビューに関する文献検討, 日本母子看護学会誌, 13 (2), 37-44.</p> <p>近澤幸, <u>佐々木綾子</u> (2人中2番目) (2020). 新生児期および乳児期の沐浴・入浴についての初産婦・経産婦の困りごとに関する調査研究, 日本母子看護学会誌, 13 (2), 25-36.</p> <p><u>佐々木綾子</u>, 岸上きみゑ, 鈴木秀文, 山本宝 (4人中1番目) (2020). 産後1か月健診を受診した褥婦の子宮頸がんに関する知識・意識の実態 (1), 日本母子看護学会誌, 13 (2), 56-66.</p> <p><u>佐々木綾子</u>, 岸上きみゑ, 鈴木秀文, 山本宝 (4人中1番目) (2020). 産後1か月の褥婦の子宮頸がん・検診・予防ワクチンに関する知識・意識を向上させる小冊子の効果 (2), 日本母子看護学会誌, 13 (2), 56-66.</p> <p>間中麻衣子, 河副みゆき, <u>佐々木綾子</u> (3人中3番目) (2019). 産後うつ予防のためのリーフレットを用いた個別指導 妊娠後期から産褥1ヵ月までの初産婦の EPDS の変化, 母性衛生, 60 (2), 348-354.</p> <p>中村朋子, <u>佐々木綾子</u> (2人中2番目) (2020). 子宮頸がんおよび検診に関する20歳代女性の意識と受診行動の文献レビュー, 母性衛生, 60 (4), 683-690.</p> <p>M Nagusa, <u>A Sasaki</u> (2人中2番目) (2019). Preconception Care Health Education for Female Workers of Reproductive Age in Japan Evaluation up to 6 months after the program, Health, 11(10), 1373-1395.</p> <p>名草みどり, <u>佐々木綾子</u> (2人中2番目) (2020). 成熟期就労女性に対するプレコンセプションケア健康教育プログラムの3ヵ月後までの評価, 日本健康教育学会誌, 28 (2) (印刷中)</p>

	船越泉美, <u>佐々木綾子</u> (2人中2番目) (2020). 第1子の出産に立ち会った育児中の父親の経験, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 18 (2), 26-34.
鈴木久美	Amano K, <u>Suzuki K</u> (2019). The process of life adjustment in patients at onset of glioma who are receiving continuous oral anticancer drug: A qualitative descriptive study, International Journal of Nursing Sciences, 6, 134-140. Minamiguchi Y, <u>Suzuki K</u> (2019). Decision-making Process for the Place of Death of Elderly Patients with Advanced Cancer and their Families, Open Journal of Nursing, 9, 1281-1305. 高橋奈津子, 林直子, 森明子, <u>鈴木久美</u> (8人中8番目) (2019). 女性乳がん患者の妊孕性温存に関する意思決定支援における看護師の困難, 聖路加国際大学紀要, 5, 22-28. 土井智生, <u>鈴木久美</u> , 池西悦子他 (2020). チーム医療の理解を促すアクティブ・ラーニングを用いた授業の有用性と看護学生の学び, 大阪医科大学看護学雑誌, 10, inpress.
田中克子	<u>田中克子</u> , カルデナス暁東 (2019) : 継続看護の実現を目指した人材育成のための中国人研修生の研修プログラムの検討, 大阪医科大学雑誌, 78巻, 第1・2合冊号, 58-63.
津田泰宏	<u>津田泰宏</u> (2019) : ウィルス肝炎診療の変遷 平成と C 型肝炎, 大阪医科大学雑誌, 1・2, 16-21. 土井智生, 鈴木久美, 池西悦子, 府川晃子, <u>津田泰宏</u> (2019) : チーム医療の理解を促すアクティブ・ラーニングを用いた授業の有用性と看護学生の学び, 大阪医科大学看護研究雑誌, 10, 23-31.
泊 祐子	田中育美, <u>泊祐子</u> (2019). 先天性食道閉鎖症根治術後の子どもをもつ母親が食事に関してかかえる困難と対処, 日本小児看護学会誌, 28, 333-340 Misa Suzuki <u>Yuko Tomari</u> (2020) Coping process in children with food allergies developing during early childhood, Health, 12, 38-62.
真継和子	溝部由恵, <u>真継和子</u> (2019). 訪問看護におけるグリーンケアの現状と課題: 文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 第9巻, 70-81.
道重文子	原明子, 川北敬美, 四谷淳子, <u>道重文子</u> (4人中4番目) (2019). 女子大学生における被採血時の失敗経験の有無と血管の深さおよび血管断面積との関係, 日本看護技術学会誌, 18, 133-138.
元村直靖	Shin-Ichi Ishikawa, Kazuyo Kikuta, Mie Sakai, <u>Naoyasu Motomura</u> (6人中5番目) (2019). A Randomized Controlled Trial of a Bidirectional Cultural Adaptation of Cognitive Behavior Therapy for Children and Adolescents With Anxiety Disorders, Behaviour Research and Therapy, Sep;120:103432.
瓜崎貴雄	荒木孝治, <u>瓜崎貴雄</u> , 山内彩香, 他 (2019). 精神科病院における統合失調症患者に対するターミナルケアの実態と看護師の態度, 日本精神保健看護学会誌, 28 (2), 57-68.

カルデナス 暁東	田中克子, <u>カルデナス暁東</u> (2019). 継続看護の実現を目指した人材育成のための中国人研修生の研修プログラムの検討, 大阪医科大学雑誌, 78, 58-63.
草野恵美子	岡本玲子, 小出恵子, 岩本里織, <u>草野恵美子</u> (9人中7番目) (2019). 公衆衛生看護が関わる地域の強みとは 文献の分析による概念化, 日本公衆衛生看護学会誌, 8 (1), 12-22. Reiko Okamoto, Masako Kageyama, Keiko Koide, <u>Emiko Kusano</u> (11人中7番目) (2019). Public Health Nursing Art to Enhance “Strength of Community” in Japan, The Open Nursing Journal, 13, 177-185 <u>草野恵美子</u> , 鳩野洋子, 合田加代子, 他 (2020). 発達障害児とその家族に対する地域支援に関する研究についての文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 10, 43-50.
久保田正和	<u>Masakazu Kubota</u> , Yurika Ueyama, Yoko Higami (2019). Verification of dementia nursing care using fNIRS and search for appropriate cognitive rehabilitation, Impact, 6 June, 76-78. <u>久保田正和</u> , 樋上容子, 杣木佐知子, 他 (2020). 近赤外線分光法を用いた適切な認知リハビリテーションの探索—健常高齢者へのパイロットスタディー—. 大阪医科大学看護学研究雑誌, 第10巻, 15-22
小林道太郎	長谷川幹子, <u>小林道太郎</u> (2019). 「患者の苦悩」の概念分析, 人体科学, 28 (1), 10-21.
寺口佐與子	勝山あづさ, 赤澤千春, <u>寺口佐與子</u> (2020). 集中治療室における多職種連携による早期リハビリテーションに関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 10, 32-42.
土肥美子	<u>土肥美子</u> , 駒澤伸泰, 大橋尚弘, 他 (2019). 医系大学教員および附属病院職員を対象としたシミュレーション教育講習会の試行, 新しい医学教育の流れ, 19 (1) 5-9. 細田泰子, 中岡亜希子, 中橋苗代, <u>土肥美子</u> (5人中4番目) (2019). 臨床学習環境デザイナー育成プログラムの実施と評価, 日本医学看護学教育学会誌, 17-28
仲下祐美子	<u>仲下祐美子</u> (2020). 公衆衛生看護学の教科書におけるたばこに関する記載内容の分析. 大阪医科大学看護研究雑誌, 10, 51-59. <u>仲下祐美子</u> , 河野益美 (2019). 2011年の保健師養成所指定規則改正以降の保健師教育に関する研究動向と課題, 日本看護研究学会雑誌, 42 (5), 899-910.
府川晃子	土井智生, 鈴木久美, 池西悦子, <u>府川晃子</u> (5人中4番目) (2020). チーム医療の理解を促すアクティブ・ラーニングを用いた授業の有用性と看護学生の学び. 大阪医科大学看護学研究雑誌, 10 (1), 24 - 28
山崎 歩	<u>山崎歩</u> (2020). 成人期以降に1型糖尿病を発症した患者に対する糖尿病看護認定看護師の療養支援の構造, 大阪医科大学看護学研究雑誌, 10, 3 - 14.
川北敬美	原明子, <u>川北敬美</u> , 四谷淳子, 他 (2019). 女子大学生における被採血時の失敗経験の有無と血管の深さおよび血管断面積との関係, 日本看護技術学会誌, 18, 133-138.
竹 明美	土肥美子, 駒澤伸泰, 大橋尚弘, <u>竹明美</u> , 他 (7人中4番目) (2019). 医系大学

	<p>教員および附属病院職員を対象としたシミュレーション教育講習会の試行, 新しい医学教育の流れ, 19 (1), 5-9.</p> <p>Komasawa N, Takahiro O, <u>Akemi T</u>, et al (2019). Hybrid simulation training utilizing augmented reality and simulator for interprofessional advanced life support training, Journal of Clinical Anesthesia, 57, 106-107.</p>
二宮早苗	<p><u>二宮早苗</u>, 杉野菜穂子, 森川茂廣, 他 (2019). 女性の腹圧性尿失禁症状の改善を目的とした膀胱頸部挙上作用を有する下着の評価者盲検無作為化比較試験. 日本排尿機能学会誌, 9 (2), 426-434.</p> <p>Okayama H, <u>Ninomiya S</u>, Naito K, Endo Y, et al. (2019). Effects of wearing supportive underwear versus pelvic floor muscle training or no treatment in women with symptoms of stress urinary incontinence: an assessor-blinded randomized control trial. International Urogynecology Journal, 30 (7), 1093-1099.</p>
樋上容子	<p><u>樋上容子</u>, 樺山舞, 糀屋絵理子, 他 (2019). 訪問診療を受ける在宅認知症患者の行動心理症状と関連要因の検討: 横断調査研究 (OHCARE study). 日本老年医学会雑誌, 56 (4), 468-477.</p> <p>Kubota M, Ueyama U, <u>Higami Y</u> (2019). Verification of dementia nursing care using fNIRS and search for appropriate cognitive rehabilitation. Impact 6 (June), 76 -78.</p> <p>Yamamoto M, Kabayama M, Koujiya E, <u>Higami Y</u> (16人中5番目)(2019). Factors associated with changes of care needs level in disabled older peoples receiving home medical care: Prospective observational study by Osaka Home CARE REgistry (OHCARE). Geriatrics &amp; Gerontology International, 19 (12), 1198-1205.</p> <p>久保田正和, <u>樋上容子</u>, 杣木佐知子, 他 (2020). 近赤外線分光法を用いた適切な認知リハビリテーションの探索-健常高齢者へのパイロットスタディ. 大阪医科大学看護学研究雑誌, 第10巻, 15-22.</p>
大橋尚弘	<p>土肥美子, 駒澤伸泰, <u>大橋尚弘</u>, 他 (2019). 医系大学教員および附属病院職員を対象としたシミュレーション教育講習会の試行, 新しい医学教育の流れ, 19 (1), 5-9.</p> <p>Komasawa N, <u>Takahiro O</u>, Akemi T, et al. (2019). Hybrid simulation training utilizing augmented reality and simulator for interprofessional advanced life support training, Journal of Clinical Anesthesia, 57, 106-107.</p> <p>角山香織, 駒澤伸泰, <u>大橋尚弘</u>, 他 (2019). 災害対応を主題とした Problem-based learning and discussion を用いた多職種連携教育の試み, 医学教育, 50, suppl, 118.</p> <p>Nobuyasu K, <u>Takahiro O</u>, Akemi T, et al. (2019). Hybrid Simulation with Augmented Reality and Simulator for Interprofessional Resuscitation</p>

	Training, 医学教育, suppl, 78.
柴田佳純	飯田恵, 辻本朋美, 山上優紀, <u>柴田佳純</u> (9人中6番目) (2019). 注射薬ミキシング時の確認方法に対する客観的評価 シングルチェック導入前後の安全性と所要時間比較, 日本医療マネジメント学会雑誌, 20巻, 3号, 119-125.
近澤 幸	<u>近澤幸</u> , 佐々木綾子 (2020). 新生児期および乳児期の沐浴・入浴についての初産婦・経産婦の困りごとに関する調査研究, 日本母子看護学会誌, 13 (2), 25-36.
土井智生	<u>土井智生</u> , 鈴木久美, 池西悦子, 他 (2020). チーム医療の理解を促すアクティブ・ラーニングの有用性と看護学生の学び, 大阪医科大学看護研究雑誌 10 (1), 24-28.
原 明子	<u>原明子</u> , 川北敬美, 四谷淳子, 他 (2019). 女子大学生における被採血時の失敗経験の有無と血管の深さおよび血管断面積との関係, 日本看護技術学会誌, 18, 133-138.
山内彩香	荒木孝治, 瓜崎貴雄, <u>山内彩香</u> , 他 (2019). 精神科病院における統合失調症患者に対するターミナルケアの実態と看護師の態度, 日本精神保健看護学会誌, 28 (2), 57-68.
山本暁生	<u>Yamamoto A</u> , Nakamoto H, Bessho Y, et al. (2019). Monitoring respiratory rates with a wearable system using a stretchable strain sensor during moderate exercise, Med Biol Eng Comput, 57(12), 2741-2756. <u>勝野友基</u> , 中本裕之, <u>山本暁生</u> , 他 (2019). 柔軟膜ひずみセンサを用いた嚥下障害リハビリテーションのための喉頭挙上の検出, 計測自動制御学会論文集, 55 (10), 655-661.

研究活動/【学会発表】

<p>赤澤千春</p>	<p>Komasawa N, Ohashi T, Take A, <u>Akazawa C</u>, (10人中10番目)(2019). Hybrid Simulation utilizing Augmented Reality and Simulator for Interprofessional Resuscitation Training, International Session, 51th Japanese Society of Medical Education (Kyoto)</p> <p>Komasawa N, Ohashi T, Take A, <u>Akazawa C</u>, (10人中10番目)(2019). Application of Simulation-based Education Methods for Interprofessional Education, 2019 World Federation of Medical Education, (Seoul)</p> <p><u>Akazawa C</u>, Teraguchi S, Arakawa C, Fukuda R (2020) . Investigation of the Pressure Ranges in Compression Therapy Effective for the Treatment of Fibrified Lower-Limb Lymphedema, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (Osaka)</p> <p>Nishizono T, Minoura Y, Egawa T, <u>Akazawa C</u> (2020). Capabilities required of nurses as viewed by nurse managers, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (Osaka)</p> <p>Nishizono T, Minoura Y, <u>Akazawa C</u>, Egawa TC(2020). Characteristics of the abilities of nurses and general members of society in the evaluation of basic skills in society, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (Osaka)</p> <p>Arakawa C, <u>Akazawa C</u>, Teraguchi S, Fukuda R (2020). A Discussion on Effect of secondary Lower Limb Lymphedema Patients Exercise Designed Based on Flow of Lymph Fluid, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (Osaka)</p> <p>Teraguchi S, <u>Akazawa C</u> (2020). Body Composition Changes Pre- and Post-surgery in Patients Undergoing Lymphadenectomy Surgery for Gynecological Tumors, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (Osaka)</p> <p>角山香織, 駒澤伸泰, 大橋尚弘, <u>赤澤千春</u> (10人中10番目) (2019). 災害対応を主題とした Problem-based learning and discussion を用いた多職種連携教育の試み, 第51回日本医学教育学会大会 (京都)</p> <p>駒澤伸泰, 大橋尚弘, 竹明美, <u>赤澤千春</u> (10人中10番目) (2019). シミュレーション教育法を用いた多職種連携教育の試み (第二報) ~医看薬融合教育試行の紹介~, 第7回シミュレーション医療教育学会 (東京)</p> <p><u>赤澤千春</u>, 江川隆子, 箕浦洋子, 西菌貞子, 青山美智代, 森本喜代美 (2019). 看護学実習前後での看護実践能力 (PROG) テストのコンピテンシー数値が大きく変化した学生のインタビュー調査~対課題基礎力~, 日本看護研究学会第45回学術集会 (大阪)</p> <p>西菌貞子, 江川隆子, <u>赤澤千春</u>, 箕浦洋子, 青山美智代, 森本喜代美 (2019). 看護学実習前後変化する社会人基礎力 (看護実践能力) の特徴, 日本看護研究学会第45回学術集会 (大阪)</p>
-------------	--

荒木孝治	<p><u>荒木孝治</u>, 瓜崎貴雄, 山内彩香 (2019). 精神科病院における統合失調症患者に対するターミナルケアの提供体制と看護師の役割: 日本看護研究学会第 45 回学術集会, (大阪)</p> <p>瓜崎貴雄, <u>荒木孝治</u>, 山内彩香 (2019). 精神科病院における統合失調症患者へのターミナルケアに対する看護師の態度と看護組織のチーム力との関連: 日本看護研究学会第 45 回学術集会, (大阪)</p>
池西悦子	<p><u>池西悦子</u>, 真継和子: リフレクションの批判的分析スキルを強化する教育プログラムの有用性の検討, 日本看護学科学学会, 第 39 回学術集会, 石川, 2019.</p>
佐々木綾子	<p>Midori Nagusa, <u>Ayako Sasaki</u> (2人中2番目) (2020). Evaluation of health education seminar for education of preconception care for female workers of reproductive age in Japan, The 6th International Research Conference of World Academy of Nursing Science, (Osaka)</p> <p><u>佐々木綾子</u>, 竹明美 (2人中1番目) (2019): 3Dアニメーションソフトを用いた分娩進行の個別指導が産婦の分娩体験に及ぼす効果—介入群と対照群の比較—, 第 39 回日本看護科学学会, (金沢)</p> <p><u>佐々木綾子</u>, 近澤幸, 竹明美 (3人中1番目) (2019). 助産診断の正確性に関する基礎研究 目盛つき手袋教材による児頭下降度診断の評価, 第 2 回日本助産診断実践学会学術集会プログラム・抄録集, 2 (1), 34.</p>
鈴木久美	<p><u>Suzuki K</u>, Fukawa A, Yamauchi E, Hayashi N (2019). Development of a nursing intervention program to improve the Sense of Coherence of recurrent breast cancer patients receiving chemotherapy, 4th Asian Oncology Nursing Society Conference, (Mumbai)</p> <p>Iseki C, <u>Suzuki K</u> (2019). Anxiety and depression in breast cancer patients and related factors: A systematic review, 4th Asian Oncology Nursing Society Conference, (Mumbai)</p> <p>Naoko T, <u>Suzuki K</u> (2019). Adverse Drug Reaction and Blood Glucose Control during Chemotherapy in Cancer Patients with Diabetes: A Literature Review, 4th Asian Oncology Nursing Society Conference, (Mumbai)</p> <p>Imai Y, Ueta I, Mizuno M, <u>Suzuki K</u> (12人中8番目) (2019). Strategic Process to Evaluate Innovative E-Learning Program Tobacco Control Capacity of Nurses in Japanese Clinical Cancer Centers, 4th Asian Oncology Nursing Society Conference, (Mumbai)</p> <p>Hamada T, Abe S, Ishikawa H, <u>Suzuki K</u> (10人中9番目) (2019). Efforts at Bulging the Capacity of Japan Oncology Nurses to be Tobacco Control Champions: Training of Trainers Workshop, 4th Asian Oncology Nursing Society Conference, (Mumbai)</p> <p>Tamura S, <u>Suzuki K</u> (2020). Resilience in Cancer Patients: A Literature Review, 6<sup>th</sup> International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, (Osaka)</p> <p>Amano K, <u>Suzuki K</u> (2020). Postoperative Urinary Dysfunctions in Patients</p>

	<p>with Prostate Cancer and the Associated Changes in Quality of Life: A Review of the Literature, (Osaka)</p> <p>山中政子, <u>鈴木久美</u> (2019). 通院中の成人患者のがん疼痛セルフマネジメントを促進する看護介入プログラムの洗練化, 日本看護研究学会第 45 回学術集会, 180, (大阪)</p> <p>山中政子, <u>鈴木久美</u> (2019). 通院中の成人患者のがん疼痛セルフマネジメントを促進する看護介入プログラムの適切性と臨床適用可能性の評価, 日本看護研究学会第 45 回学術集会, 329, (大阪)</p> <p>山中政子, <u>鈴木久美</u>, 吹田智子他 (2020). 通院中の成人患者のがん疼痛セルフマネジメントを促進する看護介入プログラムの開発～医療者主体のペインマネジメントから患者主体のセルフマネジメントへ～, 第 34 回日本がん看護学会学術集会 交流集会 16, (東京)</p>
田中克子	<p>カルデナス暁東, <u>田中克子</u> (2019): メイクセラピーを取り入れた看護支援による皮膚トラブルのある成人期女性の精神状態への影響, 第 13 回日本慢性看護学会学術集会, A100, (神戸)</p> <p>カルデナス暁東, <u>田中克子</u> (2019): 交流集会「すべての女性への新たな看護ケア～その人らしく生きることを応援する岩井式メイクセラピーの臨床への応用～」, 日本看護研究学会学術集会, (大阪)</p> <p>Xiaodong Cardenas, <u>Katsuko Tanaka</u> (2020): Establishment of a Make-up Appearance Care Improvement Mental State for Adult Female Patients with Chronic Disease The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, p76, (Osaka)</p>
津田泰宏	<p><u>津田泰宏</u> (2019): メディカルスタッフセッション1 司会, 日本肝臓学会総会, (東京)</p> <p>西川知宏, 安岡秀高, <u>津田泰宏</u> 他 5 名 (2019): 当院でテノホビルアラフェナミドフマル酸塩 (TAF) を処方されている患者の現状について, 日本肝臓学会総会, (東京)</p> <p>松井將太, 朝井章, <u>津田泰宏</u> 他 9 名 (2019): 肝硬変患者でのトルバプタン奏功に関わる因子の検討, 日本肝臓学会総会, (東京)</p> <p><u>津田泰宏</u>, 岡本紀夫, 松井將太 他 6 名 (2019): DAA 治療後の C 型肝炎患者の体調, 心境の変化, 日本肝臓学会西部会, (山口)</p> <p>中村 憲, <u>津田泰宏</u> 他 9 名 (2019): 初発の NonB/C 高齢巨大肝細胞癌へマイクロスフィアを用いて治療した 2 例, (山口)</p>
土手友太郎	<p>原明子, 土肥美子, 川北敬美, 二宮早苗, 穂迫真由美, <u>土手友太郎</u>他, (2019) A 大学看護学部 2 年生の採血演習におけるシミュレーション教育の取り組みと課題 第 14 回日本医学シミュレーション学会学術集会</p>
泊 祐子	<p>部谷知佐恵, <u>泊祐子</u>, 赤羽根章子, 他 4 人 (2019) 診療報酬算定外の小児訪問看護サービスと実施状況, 日本小児看護学会第 29 学術集会抄録集, 159, (札幌)</p> <p>赤羽根章子, <u>泊祐子</u>, 部谷知佐恵, 他 4 人 (2019): 訪問看護師による小児の居宅外訪問実際と必要性, 日本小児看護学会第 29 学術集会 抄録集, 160, (札幌)</p>

	<p><u>泊祐子</u>(2019)会長講演 研究成果をためる, つかう, ひろげー社会に評価される看護力ー, 日本看護研究学会第 45 回学術集会抄録集, 7 (大阪)</p> <p>松本修一, 八尾みどり, 安藤光子, <u>泊祐子</u>, 他 4 人(2019)交流集会明日からの実践のヒントを得るー急性・重症患者看護, 精神看護, 家族支援専門看護師の家族看護実践ー, 日本看護研究学会第 45 回学術集会抄録集, 125-126, (大阪)</p> <p>竹村淳子, <u>泊祐子</u>, 古株ひろみ(2019)看護師がとらえた初回レスパイト入院時の重症心身障がい児と母親の状況と看護援助, 日本看護研究学会第 45 回学術集会抄録集, 286, (大阪)</p> <p>玉川あゆみ, <u>泊祐子</u>: 自閉症スペクトラム児の歯科診療における問題と支援に関する文献検討, 日本看護研究学会第 45 回学術集会抄録集 P284 2019 (大阪)</p> <p>枝川千鶴子, <u>泊祐子</u>(2019)在宅移行後における医療的ケア児の体調管理上の困難と課題に関する文献検討, 日本看護研究学会第 45 回学術集会抄録集, 287, (大阪)</p> <p>遠渡絹代, <u>泊祐子</u>, 赤羽根章子, 他 5 人(2019)小児の訪問看護における他施設・多職種連携の困難さと地域差, 日本看護研究学会第 45 回学術集会抄録集, 291, (大阪)</p> <p><u>泊祐子</u>, 赤羽根章子, 部谷知佐恵, 他 5 人(2019)小児の訪問看護を担うステーションの規模の実態と認識されている小児訪問看護の特徴, 日本看護研究学会第 45 回学術集会抄録集, 292, (大阪)</p> <p>岡田摩理, <u>泊祐子</u>, 赤羽根章子, 叶谷由佳, 他 5 人(2019)小児の訪問看護における多職種連携の実態と診療報酬への要望, 日本看護研究学会第 45 回学術集会抄録集, 292, (大阪)</p> <p>松岡里奈, <u>泊祐子</u>(2019)手術を受ける子どもに対する権利を尊重した看護の変遷および, 手術時の看護に関する文献検討, 日本看護研究学会第 45 回学術集会抄録集, 281, (大阪)</p> <p>三浦ひかり, 曾我浩美, <u>泊祐子</u>(2019)白血病を患う幼児の入院中における遊びの援助の現状に関する文献検討, 日本看護研究学会第 45 回学術集会抄録集, 282, (大阪)</p> <p>鎌田玲奈, 曾我浩美, <u>泊祐子</u>(2019)入院している乳幼児の転倒・転落要因に関する文献検討, 日本看護研究学会第 45 回学術集会抄録集, 286, (大阪)</p> <p><u>泊祐子</u>(2019)シンポジウム事例研究 現場発! 家族看護学の実践知, 日本家族看護学会第 26 回学術集会抄録集, 21, (京都)</p> <p><u>泊祐子</u>, 上野里絵, 深堀浩樹, 他 7 人(2019)『学会発表から論文に投稿しよう!』, 日本家族看護学会第 26 回学術集会 抄録集 P 29 (京都)</p> <p>竹村淳子, <u>泊祐子</u>, 真継和子, 松本修一他 11 人(2019)交流集会 脆弱な家族! ~どこから手をつければいいの?~, 日本家族看護学会第 26 回学術集会抄録集, 113, (京都)</p> <p>市川由香里, <u>泊祐子</u>, 岡田摩理, 他 5 人. (2019)障がいをもつ子どもの家族を支援する訪問看護の多職種連携, 日本家族看護学会第 26 回学術集会抄録集, 113, (京都)</p> <p>濱田裕子, 岡田摩理, <u>泊祐子</u>, 他 5 人(2019): 家族形成期における重症児とその</p>
--	--

	<p>家族を支援する訪問看護の特徴，日本家族看護学会第 26 回学術集会抄録集，88（京都）</p> <p>遠渡絹代，<u>泊祐子</u>，岡田摩理，他 5 人（2019）訪問看護師が困難と感じる事例の分析，日本重症心身障害学会第 45 回学術集会 抄録集，8476，（岡山）</p> <p><u>泊祐子</u>，大西 子，竹村淳子，西菌貞子，岡田摩理，川島美保（2019）交流会 限られた場で小児看護学実習を効果的に行う実習計画と到達目標の設定～課題と対策の検討～，第 39 回日本看護科学学会学術集会抄録集，（金沢）</p>
真継和子	<p>鈴木富雄，島田史生，<u>真継和子</u>（7 人中 3 番目）（2019）．医薬看での高知県多職種連携地域医療実習の試み（第 3 報），第 51 回日本医学教育学会大会，146，（京都）</p> <p>溝部由恵，<u>真継和子</u>（2019）．在宅におけるグリーフケアに関する研究の動向と課題：日本看護研究学会第 45 回学術集会，628，（大阪）</p> <p>松本修一，八尾みどり，安藤光子，泊祐子，<u>真継和子</u>（9 人中 5 番目）（2019）．明日からの実践のヒントを得る－急性・重症患者看護，精神看護，家族看護支援専門看護師の家族看護実践－，日本看護研究学会第 45 回学術集会，395-396，（大阪）</p> <p>竹村淳子，大野美智，倉橋理香，泊祐子，<u>真継和子</u>（15 人中 5 番目）（2019）．脆弱な家族～どこから手をつければいいのか～，日本家族看護学会第 26 回学術集会，113，（京都）</p> <p>泊祐子，上野理絵，河原宣子，茂本咲子，中山美由紀，野島敬祐，深堀浩樹，<u>真継和子</u>（11 人中 8 番目）（2019）編集委員会企画セミナー 学会発表から論文に投稿しよう！，日本家族看護学会第 26 回学術集会，29，（京都）</p> <p>Matsuyo Fukushima, <u>Kazuko Matsugi</u> (2020). Factors that Empower Mothers of Children with Severe Motor and Intellectual Disabilities who Attend School in Japan, 24rd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference, 502, (Chiang Mai, Thailand)</p>
道重文子	<p><u>Fumiko Michishige</u>, Toshimi Kawakita, Miyuki Nakamae, Akane Hatanaka (2019). Continuing nursing education systems of patient oral care management in Japan. ICN Congress, (Singapore)</p> <p>原明子，土肥美子，川北敬美，二宮早苗，<u>道重文子</u>（5 人中 5 番目）（2019）．A 大学看護学部における学生間の静脈血採血演習に関する学生評価，日本看護研究学会第 33 回近畿・北陸地方会学術集会，（彦根）．</p> <p>Akiko Hara, Yoshiko Doi, Toshimi Kawakita, Sanae Ninomiya, <u>Fumiko Michishige</u> (5 人中 5 番目) (2019). The effectiveness of drawing blood by utilizing visualization technology with second-year undergraduate nursing students. the 6th WANS congress, (Osaka)</p>
元村直靖	<p><u>元村直靖</u>：山形 第 43 回日本神経学会 座長</p> <p><u>元村直靖</u>：神戸年第 43 回日本高次脳機能障害学会座長</p>
瓜崎貴雄	<p><u>瓜崎貴雄</u>，荒木孝治，山内彩香（2019）．精神科病院における統合失調症患者への</p>

	<p>ターミナルケアに対する看護師の態度と看護組織のチーム力との関連：日本看護研究学会第 45 回学術集会，（大阪）</p> <p>荒木孝治，<u>瓜崎貴雄</u>，山内彩香（2019）．精神科病院における統合失調症患者に対するターミナルケアの提供体制と看護師の役割：日本看護研究学会第 45 回学術集会，（大阪）</p>
カルデナス 暁東	<p><u>カルデナス暁東</u>，田中克子（2019）．メイクセラピーを取り入れた看護支援による皮膚トラブルのある成人期女性の精神状態への影響，第 13 回日本慢性看護学会学術集会，A100，（神戸）</p> <p><u>カルデナス暁東</u>，田中克子（2019）．交流集会「すべての女性への新たな看護ケア～その人らしく生きることを応援する岩井式メイクセラピーの臨床への応用～」，日本看護研究学会学術集会，（大阪）</p> <p><u>Xiaodong Cardenas</u>，Katsuko Tanaka（2020）．Establishment of a Make-up Appearance Care Improvement Mental State for Adult Female Patients with Chronic Disease The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science，p76，（Osaka）</p> <p>辻野美沙希，<u>カルデナス暁東</u>（2019）．患者のラテックスアレルギーに関する知識と情報収集における手術室看護師と病棟および外来看護師との比較，第 7 回大阪府看護学会，（大阪）</p> <p>音田有紀，<u>カルデナス暁東</u>（2019）．緩和ケア病棟における終末期がん患者の褥瘡発生を予防する看護援助の試み，第 7 回大阪府看護学会，（大阪）</p> <p>岩元雅都，<u>カルデナス暁東</u>（2019）．A病棟における看護師の褥瘡発生に対する知識理解の把握を行い，取り組むべき課題への提案，第 7 回大阪府看護学会，（大阪）</p>
草野恵美子	<p><u>草野恵美子</u>（2019）．シンポジウム 2「障害児親子それぞれの社会的自立－多様なあり方，多様な支援－」，障害児親子へのライフステージを通じた地域支援，第 61 回日本小児神経学会学術集会，S110，（名古屋）．</p> <p>小出恵子，岡本玲子，岩本里織，<u>草野恵美子</u>（7 人中 6 番目）（2019）．保健活動体制を地区担当制に転換するための保健師の公衆衛生看護技術，第 78 回日本公衆衛生学会総会，528，（高知）</p> <p>岩本里織，岡本玲子，塩見美抄，<u>草野恵美子</u>（7 人中 7 番目）（2019）．行政の支援が行き届きにくい方々への公衆衛生看護技術 1 事例の分析を通して，第 78 回日本公衆衛生学会総会，528，（高知）．</p> <p>合田加代子，岡本玲子，岩本里織，<u>草野恵美子</u>（8 人中 7 番目）（2020）．地域ケアの質保証を目指す起業保健師による人材育成のワザ，第 8 回日本公衆衛生看護学会学術集会，192，（松山）</p> <p><u>Emiko Kusano</u>，Yoshihisa Yamazaki，Mutsuko Sato，et al.（2020）．Relationship between part-time health nurses’ difficulties encountered in health checkups for children and their background factors，The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science，P1-175，（Osaka）</p> <p>Kimiko Nakayama，Yoko Hatono，Masako Kaneko，<u>Emiko Kusano</u>（4 人中 4 番目）</p>

	(2020). Confidence for Community Organization Activities and Related Experiences in Japanese Public Health Nurses, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, P2-98, (Osaka)
久保田正和	中村五月, <u>久保田正和</u> , 赤澤千春 (2019). 高齢者施設に勤務する看護職が実施する包括的排尿アセスメントの実態: 日本老年看護学会第24回学術集会, (仙台) <u>久保田正和</u> , 樋上容子, 杣木佐知子, 他 (2019). 携帯型脳活動計測装置を用いた効果的な認知リハビリテーションの探索: 第38回日本認知症学会学術集会, (東京)
小林道太郎	<u>小林道太郎</u> , 坂井志織 (2019). 精神科に通っているAさんの「自分」と病気, 臨床実践の現象学会第5回大会, 32-37, (仙台). <u>Kobayashi M</u> , Sakai S. (2019). Attempts by chronically ill people to acquire knowledge about how their bodies behave, The British Sociological Association 51st Medical Sociology Conference 2019, (York). Sakai S, Hosono T, <u>Kobayashi M</u> , et al. (2020). A phenomenological description of the experience of suffering from long-term chronic disease: The structure of living with illness, 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars, (Chiang Mai)
寺口佐與子	<u>Teraguchi S</u> , Akazawa C. (2020). Body Composition Changes Pre- and Post-surgery in Patients Undergoing Lymphadenectomy Surgery for Gynecological Tumors. The 6th WANS (Osaka) Akazawa C, <u>Teraguchi S</u> , Arakawa C, et al (2020) Investigation of the Pressure Ranges in Compression Therapy Effective for the Treatment of Fibrified Lower-Limb Lymphedema. The 6th WANS (Osaka) Arakawa C, Akazawa C, <u>Teraguchi S</u> (2020) A Discussion on Effect of secondary Lower Limb Lymphedema Patients Exercise Designed Based on Flow of Lymph Fluid. The 6th WANS (Osaka) 森本喜代美, 赤澤千春, <u>寺口佐與子</u> (2019). 訪問看護における在宅高齢者への続発性リンパ浮腫ケアの困難と課題, JSNR45 (大阪) 勝山あづさ, 赤澤千春, <u>寺口佐與子</u> (2019). 集中治療室における多職種連携による早期リハビリテーションに関する文献検討. JSNR45 (大阪) 福田里砂, 今堀智恵子, 徳田葉子, <u>寺口佐與子</u> (6人中6番目) (2019). エビデンスに基づく上肢リンパ浮腫患者の運動療法, JSNR45 交流集会 (大阪)
土肥美子	原明子, <u>土肥美子</u> , 川北敬美, 他 (2020). A 大学看護学部における学生間の静脈血採血演習に関する学生評価, 日本看護研究学会第33回近畿・北陸地方会 (彦根). Akiko Hara, <u>Yoshiko Doi</u> , Toshimi Kawakita, et al. (2020). The Effectiveness Drawing Blood by Utilizing Visualization Technology with Second-year Undergraduate Nursing Students. The 6th World Academy of

	<p>Nursing Science. (Osaka)</p> <p><u>Yoshiko Doi</u>, Yasuko Hosoda, Yayoi Nagano, et al. (2020). Relationship between Learning Methods and Personal Background of Educational Instructors' Design of a Clinical Learning Environment. The 6<sup>th</sup> World Academy of Nursing Science. (Osaka)</p> <p>Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, <u>Yoshiko Doi</u>, et al. (2020). Effects of a Clinical Learning Environment Design support program for Educational Instructors, The 6<sup>th</sup> World Academy of Nursing Science. (Osaka)</p> <p><u>土肥美子</u>, 細田泰子 (2019). 看護系大学に所属する若手教員の能力形成・向上に資する教育支援の検討, 第 39 回日本看護科学学会学術集会. (金沢)</p> <p>細田泰子, 根岸まゆみ, <u>土肥美子</u> (6 人中 6 番目) (2019). 臨床学習環境デザイン支援プログラムの運用に関する評価, 第 39 回日本看護科学学会学術集会. (金沢)</p> <p><u>Yoshiko Doi</u>, Yasuko Hosoda, Yayoi Nagano, et al. (2019). Relationship between educational instructors' learning needs in the learning environment design and learning support, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing 45th Biennial Convention. (Washington, DC)</p> <p>Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, <u>Yoshiko Doi</u>, et al. (2019) Effects of Educational Instructors' Support From Others and Experiential Learning on the Clinical Learning Environment, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing 45th Biennial Convention. (Washington, DC)</p> <p>Nobuyasu Komasa, <u>Yoshiko Doi</u>, Akemi Take, et al. (2019). Application of Simulation-based Training to Japanese Interprofessional Education. International Symposium, 14<sup>th</sup> Japanese Association for Medical Education. (Osaka)</p> <p>片山由加里, 細田泰子, 長野弥生, <u>土肥美子</u> (5 人中 4 番目) (2019). 学生や新人看護師の教育指導に携わる看護師の指導経験年数と経験学習の関連, 日本看護研究学会第 45 回学術集会. (大阪)</p> <p>駒澤伸泰, 大橋尚弘, 竹明美, <u>土肥美子</u> (10 名中 4 番目) (2019). シミュレーション教育法を活用した多職種連携教育の試み (第二報) 第 7 回シミュレーション医療教育学会. (東京)</p> <p>北島洋子, <u>土肥美子</u> (6 人中 5 番目) (2019). 教育指導者の臨床学習環境デザインに関わる能力開発への取り組み, 日本看護学教育学会第 29 回学術集会. (京都)</p> <p>角山香織, 細田泰子, 長野弥生, <u>土肥美子</u> (7 名中 5 人目) (2019). 災害対応を主題とした Problem-based learning and discussion を用いた多職種連携教育の試み. 第 51 回日本医学教育学会. (京都)</p> <p>駒澤伸泰, <u>土肥美子</u>, 角山香織, 他 (2019). シミュレーション教育法支援 Faculty Development の開催経験. 第 51 回日本医学教育学会 (京都)</p> <p>Nobuyasu Komasa, Takahiro Ohashi, Akemi Take, <u>Yoshiko Doi</u> (8 名中 4 番目) (2019) Hybrid Simulation utilizing Augmented Reality and</p>
--	--

	<p>Simulator for Interprofessional Resuscitation Training International Session, 51th Japanese Society of Medical Education. (Kyoto)</p> <p>Nobuyasu Komasa, Takahiro Ohashi, Akemi Take, <u>Yoshiko Doi</u> (10名中4番目)(2019). Application of Simulation-based Education Methods for Interprofessional Education. 2019 World Federation of Medical Education. (Seoul)</p>
仲下祐美子	<p><u>Nakashita Y</u>, Kono M. (2020). Nursing students' competency to develop public policies using evaluation indices of the Ministry of Health, Labour and Welfare in Japan: The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (Osaka)</p> <p><u>仲下祐美子</u>, 河野益美 (2019). 公衆衛生看護学の教育に関する研究の動向と課題: 日本看護研究学会第45回学術集会, 345, (大阪)</p> <p><u>仲下祐美子</u>, 河野益美 (2019). 「保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」を用いた看護系大学生の地域診断の実践能力に関する検討: 第28回日本健康教育学会学術大会, 142, (東京)</p>
府川晃子	<p><u>Fukawa A</u> (2019). Development of Self-Management Support Program for Elderly Patients with Lung Cancer Who Are Receiving Molecularly Targeted Therapy with Oral Agents 2nd report, Evaluation from the Viewpoint of Usability of General Nurses. 4th Asia Pacific Oncology Nursing Society Conference (インド, ムンバイ)</p>
山崎 歩	<p>水島道代, <u>山崎歩</u> (2019). 1型糖尿病患児の療養管理の自立に向けて親が行なう初期指導, 第24回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 99, (千葉)</p>
川北敬美	<p><u>川北敬美</u>, 細田泰子 (2019). 母親として子育て期にある看護師のワーク・ファミリー・エンリッチメントにおける資源, 日本看護研究学会第45回学術集会, (大阪).</p> <p><u>川北敬美</u>, 青山ヒフミ, 撫養真紀子, 他 (2019). 短時間勤務で働く病棟看護師におけるキャリアニーズの検討, 第23回日本看護管理学会学術集会, (新潟)</p> <p>勝山貴美子, <u>川北敬美</u>, 撫養真紀子, 他 (2019). 看護管理者が認識する短時間正職員への期待と活用—先駆的に制度を導入した急性期病院管理者へのインタビュー調査から—, 第23回日本看護管理学会学術集会, (新潟)</p> <p>撫養真紀子, 勝山貴美子, <u>川北敬美</u>, 他 (2019). 先駆的に制度を導入した病院の看護管理者が認識する短時間正職員への活用と支援, 日本医療病院管理学会, (新潟)</p> <p>Fumiko Michishige, <u>Toshimi Kawakita</u>, Miyuki Nakamae, et al. (2019). Continuing nursing education systems of patient oral care management in Japan. ICN Congress, (Singapore)</p> <p>Akiko Hara, Yoshiko Doi, <u>Toshimi Kawakita</u>, et al. (2019). The effectiveness of drawing blood by utilizing visualization technology with second-year undergraduate nursing students. the 6th WANS congress, (Osaka)</p>
佐野かおり	<p><u>佐野かおり</u>, 上杉裕子, 廣瀬伸次, 他 (2019). 術前から術後3カ月に在宅運動セ</p>

	<p>ルフェフィカシーが改善した股関節鏡視下手術患者の JHEQ および活動状況. 第 46 回日本股関節学会学術集会, 653, (宮崎).</p> <p>鈴木富雄, 島田史生, 真継和子, <u>佐野かおり</u> (7 人中 4 番) (2019). 医薬看での高知県多職種連携地域医療実習の試み (第 3 報), 第 51 回日本医学教育学会大会, 146, (京都)</p> <p>斎藤貴子, 柳本優子, 笹森正子, <u>佐野かおり</u> (8 人中 6 番目) (2019) 第 19 回日本運動器看護学会学術集会, 26, (横浜)</p>
竹 明美	<p>角山香織, 駒澤伸泰, 大橋尚弘, <u>竹明美</u> (7 名中 4 人目) (2019). 災害対応を主題とした Problem-based learning and discussion を用いた多職種連携教育の試み. 第 51 回日本医学教育学会. (京都)</p> <p>Nobuyasu K, Takahiro O, <u>Akemi T</u> et al. (2019). Hybrid Simulation utilizing Augmented Reality and Simulator for Interprofessional Resuscitation Training International Session, 51th Japanese Society of Medical Education. (Kyoto)</p> <p>佐々木綾子, 近澤幸, <u>竹明美</u> (2019). 助産診断の正確性に関する基礎研究 目盛つき手袋教材による児頭下降度診断の評価, 第 2 回日本助産診断実践学会, 学術集会プログラム・抄録集, 2 (1), 34, (草津)</p> <p>駒澤伸泰, 大橋尚弘, <u>竹明美</u>, 他 (2019). シミュレーション教育法を活用した多職種連携教育の試み (第二報), 第 7 回シミュレーション医療教育学会. (東京)</p> <p>佐々木綾子, <u>竹明美</u> (2019) : 3D アニメーションソフトを用いた分娩進行の個別指導が産婦の分娩体験に及ぼす効果-介入群と対照群の比較-, 第 39 回日本看護科学学会, (金沢)</p>
二宮早苗	<p>Akiko Hara, Yoshiko Doi, Toshimi Kawakita, <u>Sanae Ninomiya</u> (5 人中 4 番目) (2019). The effectiveness of drawing blood by utilizing visualization technology with second-year undergraduate nursing students. the 6th WANS congress, (Osaka)</p> <p>内藤紀代子, <u>二宮早苗</u>, 森川茂廣, 他 (2019). 骨盤底筋群の機能評価における PFM トレーナーと超音波画像診断装置の関連性の検討. 第 7 回看護理工学会, (那覇)</p>
樋上容子	<p><u>樋上 容子</u> (2019). 在宅認知症患者の睡眠障害のパターンの同定と介護負担感との関連の探求. 第 26 回ヘルスリサーチフォーラム, (東京).</p> <p><u>樋上容子</u>, 樋口明里, 森木友紀, 他 (2019). 体動量と睡眠によるがん終末期患者の苦痛の検知: センシング機器を用いた観察研究 その 1. 第 39 回日本看護科学学会, (金沢)</p> <p>森木友紀, 樋口明里, <u>樋上容子</u>, 他 (2019). 終末期がん患者の看取りまでの経過における生体データの比較: センシング機器を用いた観察研究 その 2. 第 39 回日本看護科学学会, (金沢)</p> <p>樋口明里, <u>樋上容子</u>, 森木友紀, 他 (2019). 高齢療養者の「痒み」の実態と関連要因: センシング機器を用いた観察研究 その 3. 第 39 回日本看護科学学会, (金沢)</p> <p>福井小紀子, 樋口明里, 内海桃絵, <u>樋上容子</u> (6 人中 4 番目) (2019). 交流集会:</p>

	<p>ケアの質向上を目指して科学技術を活用した療養者の早期問題予測ツールの開発，産学共同研究への挑戦．第 39 回日本看護科学学会，（金沢）</p> <p>久保田正和，上山ゆりか，<u>樋上容子</u>（2019）．携帯型脳活動計測装置を用いた効果的な認知リハビリテーションの探索．第 38 回日本認知症学会（東京）</p> <p><u>樋上容子</u>（2019）．在宅認知症患者の睡眠障害のパターンと介護負担感との関連．日本看護研究学会第 45 回学術集会，（大阪）</p> <p>佐々木早苗，勝眞久美子，中村勝利，<u>樋上容子</u>（6 人中 6 番目）（2019）．自主企画 8：高齢者の自律と互助を促進する地域づくり - 哲学カフェの試みから．第 20 回日本認知症ケア学会（京都）</p>
大橋尚弘	<p><u>Takahiro O</u>, Yuko H, Chiharu A (2020). The Lives of Elderly Couples Living Alone After a Spousal Renal Transplantation More Than Five Years On, The 6<sup>th</sup> International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, P1-193, (Osaka).</p> <p>駒澤伸泰，大橋尚弘，竹明美，他（2019）．シミュレーション教育法を用いた多職種連携教育の試み（第二報）～医看薬融合教育試行の紹介～，第 7 回日本シミュレーション医療教育学会学術集会，01-1，（東京）．</p> <p>角山香織，駒澤伸泰，<u>大橋尚弘</u>，他（2019）．災害対応を主題とした Problem-based learning and discussion を用いた多職種連携教育の試み，第 51 回日本医学教育学会大会，014-4，（京都）．</p> <p>Nobuyasu K, <u>Takahiro O</u>, Akemi T, et al. (2019). Hybrid Simulation with Augmented Reality and Simulator for Interprofessional Resuscitation Training, 51th Japanese Society of Medical Education, ITNS-P4-4, (KYOTO)</p>
倉橋理香	<p>竹村淳子，大野美和，<u>倉橋理香</u>，他（2019）．脆弱な家族！ーどこから手をつければいいのか？ー：日本家族看護学会第 26 回学術集会，交流集会 8，（京都）</p>
柴田佳純	<p><u>Shibata K</u>, Omura Y, Kitada Y, et al. (2020), The Draw of Nursing Jobs Relative to Other Employment Types, The 6<sup>th</sup> International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, (Osaka)</p> <p>Imamura S, Omura Y, <u>Shibata K</u>, et al. (2020), Communication of therapeutic instructions from doctors to novice intensive care unit nurses: the role of senior nurses, 23<sup>rd</sup> East Asian Forum of Nursing Scholars, (Thailand)</p> <p>今村佐知子，<u>柴田佳純</u>，辻本朋美，他（2020），急性期病院の ICU に勤務する先輩看護師が実際のケアや処置の場面で新人看護師に求める報告・連絡・相談，第 47 回日本集中治療医学会学術集会，（名古屋）</p>
近澤 幸	<p>佐々木綾子，<u>近澤幸</u>，竹明美（2019）．助産診断の正確性に関する基礎研究 目盛つき手袋教材による児頭下降度診断の評価，第 2 回日本助産診断実践学会学術集会プログラム・抄録集，2（1），34，（滋賀）</p>
土井智生	<p><u>土井智生</u>，畠中香織，河井伸子，他（2019）．新人看護師指導に伴う実地指導者の経験についての探索的因子分析，日本看護学教育学会第 29 回学術集会，（京都）</p> <p><u>Tomoki Doi</u>, Kaori Hatanaka, Nobuko Kawai, et al. (2020). Study on The</p>

	Development of a Scale to Assess the Frequency of Education Experiences for Preceptors of Newly Graduated Nurses in a Hospital Setting, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, (Osaka)
原明子	<p><u>原明子</u>, 土肥美子, 川北敬美, 他 (2020). A 大学看護学部における学生間の静脈血採血演習に関する学生評価, 日本看護研究学会第 33 回近畿・北陸地方会学術集会, (彦根).</p> <p><u>Akiko Hara</u>, Yoshiko Doi, Toshimi Kawakita, et al. (2020). The effectiveness of drawing blood by utilizing visualization technology with second-year undergraduate nursing students. The 6th World Academy of Nursing Science, (Osaka)</p>
山内彩香	<p>荒木孝治, 瓜崎貴雄, <u>山内彩香</u> (2019). 精神科病院における統合失調症患者に対するターミナルケアの提供体制と看護師の役割: 日本看護研究学会第 45 回学術集会, (大阪)</p> <p>瓜崎貴雄, 荒木孝治, <u>山内彩香</u> (2019). 精神科病院における統合失調症患者へのターミナルケアに対する看護師の態度と看護組織のチーム力との関連: 日本看護研究学会第 45 回学術集会, (大阪)</p>
山本暁生	<p><u>山本暁生</u>, 加納伸也, 石川朗 (2019). ナノ粒子塗布に基づく柔軟な湿度計を用いた運動時の呼吸位相計測, 第 58 回生体医工学学会, (那覇)</p> <p><u>山本暁生</u>, 中本裕之, 澤田格, 他 (2019). 6 分間歩行試験における COPD 患者の呼吸循環応答と歩行距離の関連, 第 29 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, (名古屋)</p> <p>山田洋二, 三谷有司, <u>山本 暁生</u>, 他 (2019). 寝たきり高齢者における背臥位から座位への姿勢変化時の代謝・換気変化について, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌, (名古屋)</p> <p>Iwata Y, Kakuta S, Osawa S, <u>Yamamoto A</u> (15 人中 12 番目) (2019). Relationship between cognitive function and proper inhaler device use in elderly patients. European Respiratory Journal. 54, (Madrid)</p> <p>Kano S, <u>Yamamoto A</u>, Ishikawa A, et al. (2019). Respiratory rate on exercise measured by nanoparticle-based humidity sensor”, 2019, 41<sup>th</sup> International conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, p 3567-3570 (Berlin)</p> <p><u>山本暁生</u>, 加納伸也, 石川朗. (2019). 柔軟なナノ粒子湿度計を用いた運動時の呼吸位相計測の妥当性. 第 58 回生体医工学学会, (那覇)</p> <p><u>山本暁生</u>, 中本裕之, 澤田格, 他 (2019). 慢性閉塞性肺疾患における 6 分間歩行試験中の呼吸数に関する研究. 第 59 回日本呼吸器学会. (東京)</p>

研究活動/【その他】

鈴木久美	鈴木久美, 府川晃子 (2019). Two Ways 今あなたに聞いてみたいこと, YoRi-SOU がんナーシング, 19(1), 56-58, メディカ出版.
泊 祐子	泊祐子 (2020). 巻頭言「大学における紀要の活用と役割の再考」, 大阪医科大学看護学雑誌第 10 巻, 1 泊祐子 (2020) 巻頭言「家族看護実践の価値化を高める成果研究への期待」, 家族看護学研究 第 25 巻第 1 号, 1, in press 泊祐子 (2020) 会長講演 研究成果をためる, つかう, ひろげる — 社会に評価される看護力 — 教育実践からみえた暗黙知から実践知・形式知へ, 日本看護研究学会雑誌, 42 (1), 1-5,
吉田久美子	吉田久美子 (2019). 第 4 章 3 他事例や保健事業・施策への反映, 井伊久美子編, 新版保健師業務要覧第 4 版 2020 版, 199-198, 日本看護協会出版社, 東京
真継和子	真継和子, 小林道太郎 (2019). 特集 2 看護技術の前に大事な「人間性・社会性」の教育支援 アサーショントレーニングを取り入れた看護倫理研修の試み, 看護人材育成, 16 (4), 62-67, 日総研.
瓜崎貴雄	瓜崎貴雄 (2020). 単科精神科病院での生活習慣病予防の看護的課題, 精神科看護, 47 (1), 4-11.
草野恵美子	AMED 研究班 (国立成育医療研究センター) 第 1 回公開シンポジウム: 障害のある子どもと親 それぞれの社会的自立～多様なあり方, 多様な支援～, シンポジスト, 「障害児親子へのライフステージを通じた地域支援」, グランフロント大阪 (2019 年 12 月 15 日) AMED 研究班 (国立成育医療研究センター) 第 2 回公開シンポジウム: 障害のある子どもと親 それぞれの社会的自立～多様なあり方, 多様な支援～, シンポジスト, 「障害児親子へのライフステージを通じた地域支援」, ビジョンセンター東京駅前 (2020 年 1 月 11 日)
小林道太郎	小林道太郎 (2019). 精神科に通う A さんのインタビューより: 共同的な探索としての治療, 第 45 回日本保健医療社会学会大会 (ラウンドテーブルディスカッション①「「病気」でもなく, 「健康」でもなく — 現代社会における病い経験を捉える新たな概念の創出に向けて—」), 85, (東京). 真継和子, 小林道太郎 (2019). アサーショントレーニングを取り入れた看護倫理研修の試み, 看護人材育成, 16 (4), 62-67. 小林道太郎 (2019). 書評 2 「方法」の普遍性について, 『遺伝学の知識と病いの語り』合評会, (東京). 小林道太郎 (訳). フランク・ディートリヒ (2020). 苦を感じる能力のない生物の保護されるべき価値についての考察, 加藤泰史・小島毅編, 尊厳と社会 (上), 319-336, 法政大学出版局. 小林道太郎 (訳). ベッティナ・シェーネ＝ザイファート, ダヴィニア・タルボット (2020). (神経) エンハンスメント, 加藤泰史・小島毅編, 尊厳と社会 (上), 337-373, 法政大学出版局. 小林道太郎 (訳). ヘザー・キース (2020). 障害倫理学—人間の尊厳とインクル

	<p>ーシヴな共同体のためのプラグマティズム的アプローチ, 加藤泰史・小島毅編, 尊厳と社会 (下), 145-160, 法政大学出版局.</p> <p><u>小林道太郎</u> (訳). ゲルト・ライナー・ヴァーグナー, リューディガー・ハーン, 企業の義務としてのもっとも貧しい人々の尊厳, 加藤泰史・小島毅編, 尊厳と社会 (下), 366-394, 法政大学出版局</p>
土肥美子	<p>駒澤伸泰, 角山香織, <u>土肥美子</u> (3名中3番目) (2019). 報告書 新しい医学教育の流れ, 多職種対象のシミュレーション教育を設計・構築しよう, 新しい医学教育の流れ, 19 (2) 102-104.</p>
竹 明美	<p>山崎裕美子, 佐藤都也子, 石田寿子, <u>竹明美</u> (8人中7番目) (2019). ライフサイクルと活動の場をつなぐタッチングケアー研究・社会貢献・教育の現在と近未来ー, タッチングケア: 母性看護学領域 人が生まれて人に育つにはタッチングが必要です! (担当), 第39回日本看護科学学会, 交流集会 (金沢)</p> <p>平成31年度大阪医科大学研究拠点育成奨励事業「シミュレーションを活用した多職種連携教育支援体制の構築～医看薬融合教育のユビキタスな普及を目指して～」(代表: 駒澤伸泰)</p>



## V. 社会活動



## 社会活動

<p>赤澤千春</p>	<p>日本看護科学学会 評議員, 査読委員          日本看護研究学会 評議員, 査読委員          日本移植・再生医療看護学会 理事長          日本看護研究学会第 45 回学術集会 事務局長          第 16 回日本クリティカルケア看護学会 実行委員長          第 14 回日本医学シミュレーション学会学術集会 座長          第 11 回和歌山保健看護学会 ランチョンセミナー講演          2018-2019 年度日本学術振興会審査委員</p>
<p>荒木孝治</p>	<p>日本精神保健看護学会誌 専任査読委員          日本移植・再生医療看護学会誌 専任査読委員          日本看護研究学会 評議員          日本看護研究学会 編集委員          日本看護研究学会誌 専任査読委員          大阪精神医療センター 治験審査委員会 外部委員          大阪精神医療センター 臨床研究倫理審査委員会 外部委員          日本看護研究学会第 45 回学術集会 企画委員          PAS セルフケアセラピィ看護学会 役員          PAS セルフケアセラピィ看護学会 学会誌編集・研究促進委員会 委員長</p>
<p>池西悦子</p>	<p><b>【外部講師】</b>          岐阜県立看護大学大学院, 看護管理論, 非常勤講師.          愛仁会看護助産専門学校実習指導者会講演会 講師          愛知県実習指導者講習会 講師          大阪府看護協会看護職員研修「看護職のための教育学」講師          近畿大学附属看護専門学校, 近畿大学医学部附属病院看護部合同研修会 講師          兵庫県看護学校協議会中堅期教員研修会 講師          京都私立病院協会中堅看護管理者講習会 講師          京都府看護実習指導者講習会 講師          福岡県看護協会訪問看護師養成講習会 講師</p> <p><b>【学会活動】</b>          日本看護学教育学会員          日本看護科学学会員          日本看護研究学会員          日本看護管理学会員          医療の質・安全学会員          日本看護学教育学会 専任査読委員          日本看護研究学会 第 45 回学術集会企画・運営委員          第 51 回日本看護学会学術集会 抄録選考委員</p>

佐々木綾子	<p>【査読】</p> <p>佐々木綾子, 大阪医科大学看護研究雑誌, 9, 2019</p> <p>【セミナー担当】</p> <p>佐々木綾子: 大阪府看護協会, 2019 年度研修, 後輩教育を実施するための成人学習プロセスの基本事項, ナーシングアート大阪, 2019.7.4</p> <p>佐々木綾子: 次世代医療システム産業化フォーラム 2019 「母子と医療者双方の安全を守る分娩管理イノベーション-音声入力による分娩経過記録システムの開発-」, 大阪商工会議所, 2019.8.6.</p> <p>佐々木綾子: 大阪府助産師会 2019 年度産後ケアエキスパート助産師認定講習会「脳科学から見た産後の母親の特徴と支援のあり方」, 大阪府助産師会館, 2019.10.26.</p> <p>佐々木綾子: 福井愛育病院看護研究発表会講評, 2019.12.14</p> <p>佐々木綾子: 第 25 回田中病院産科同窓会「ママたちが非常事態!？」非常事態のしくみ, 防ぐためのコツを知って育児力パワーアップ, 2020.5.24.</p> <p>佐々木綾子: 大阪府助産師会平成 31 年度 4 月定例研修会「脳科学から見えてきた母性・父性へのアプローチ～親になる人々を支える看護～」, 2019.4.13.</p> <p>【その他】</p> <p>日本母性看護学会, 会計理事</p> <p>日本母性看護学会査読委員</p> <p>一般社団法人日本私立看護系大学協会研究助成事業選考委員会</p> <p>日本ウーマンズヘルス学会幹事</p> <p>第 91 回大阪医科大学医学教育ワークショップ～医薬看合同カンファレンスの円滑な導入を考える～本学における医看融合カンファレンス, 2020. 1. 20.</p>
鈴木久美	<p>日本看護科学学会代議員</p> <p>日本慢性看護学会評議員</p> <p>日本がん看護学会誌専任査読委員</p> <p>日本看護科学学会誌和文誌専任査読委員</p> <p>愛知県立大学大学院非常勤講師</p> <p>岐阜県立看護大学大学院非常勤講師</p> <p>認定看護師 実行委員会委員・認定委員会委員</p> <p>厚生労働省 保健師助産師看護師試験委員</p> <p>厚生労働省 医道審議会専門委員</p> <p>兵庫県立大学大学院看護学研究科博士論文審査副査</p> <p>公益財団法人大阪対がん協会 2019 年度がん研究助成奨励金選考委員</p> <p>日本看護研究学会第 45 回学術集会企画委員</p> <p>第 6 回世界看護科学学会学術集会プログラム委員</p> <p>第 17 回日本乳癌学会近畿地方会アドバイザー</p> <p>第 35 回日本がん看護学会学術集会企画委員</p>
田中克子	<p>糖尿病療養指導士兵庫県連合会 第 8 回兵庫県糖尿病教育看護研修会プログラム 教育講演「糖尿病女性が安全に安心して妊娠出産に臨むための看護援助」</p>

	<p>(2019.8.31)</p> <p>第 8 回 阪南糖尿病療養セミナー 特別講演「糖尿病女性が安全に安心して妊娠出産に臨むための看護援助」(2020.1.25)</p>
津田泰宏	<p>【研究会・講演会】</p> <p>第 12 回看護学系漢方教育研究会 一般演題座長</p> <p>【各種委員】</p> <p>日本内科学会認定内科医, 総合内科専門医, 指導医</p> <p>日本消化器病学会専門医, 近畿支部評議員</p> <p>日本肝臓学会認定専門医, 西部会評議委員, 指導医</p> <p>米国免疫学会会員</p> <p>米国肝臓学会会員</p>
土手友太郎	<p>高槻市役所産業医, 健康たかつき 21 推進ネットワーク会議委員, 高槻市ぱちんこ遊技場建築審議会委員, 高槻市ホテル等建築審議会委員, 高槻市都市開発審議会委員厚生労働省医員(大阪検疫所), 日本職業災害医学会評議員, 日本衛生学会評議員</p>
泊 祐子	<p>日本家族看護学会理事・編集委員会委員長, 2019.9 まで</p> <p>日本家族看護学会専任査読員 2019.10～</p> <p>日本看護研究学会将来構想委員会看保連 WG 委員</p> <p>日本看護研究学会専任査読者</p> <p>日本看護科学学会代議員</p> <p>日本看護学教育学学会評議員, 選挙管理委員会委員長</p> <p>日本看護学教育学学会専任査読員</p> <p>日本小児保健協会専任査読委員</p> <p>日本小児看護学会評議員, 学術・研究推進委員会委員</p> <p>日本看護系大学協議会看護学教育質向上委員会委員</p> <p>第 45 回日本看護研究学会学術集会会長</p> <p>第 30 回日本小児看護学会学術集会監事</p> <p>和歌山県立医科大学大学院看護学研究科非常勤講師「家族看護学特論」</p> <p>甲南女子大学大学院看護学研究科非常勤講師「家族看護学特論」</p> <p>聖泉大学大学院看護学研究科非常勤講師「家族看護学」</p>
真継和子	<p>日本看護研究学会第 45 回学術集会 運営・企画委員</p> <p>日本看護研究学会近畿・北陸地方会 世話人</p> <p>日本看護研究学会近畿・北陸地方会看護研究継続セミナー コーディネーター</p> <p>日本家族看護学会編集委員会 編集委員</p> <p>日本家族看護学会 専任査読委員</p> <p>日本看護学教育学学会 専任査読委員</p> <p>和歌山県立医科大学大学院看護学研究科 「家族看護学」 非常勤講師</p> <p>四条啜学園大学看護学部 「家族看護学」 非常勤講師</p> <p>大阪医科大学附属病院看護部 「看護研究セミナー」 講師</p>

	<p>京都私立病院協会中間管理職研修 「看護倫理」 講師</p> <p>大阪府訪問看護ステーション協会研修会 「事例研究」 講師</p> <p>大阪府看護協会実習指導者講習会 「在宅看護論実習（講義）」 講師</p> <p>大阪府看護協会教員養成講習会 「看護論演習」 講師</p> <p>大阪府看護協会看護管理者教育課程ファーストレベル研修 「ヘルスケアシステム論Ⅰ」 講師</p> <p>社会医療法人愛仁会高槻病院看護部 「看護研究」 研究指導</p> <p>三島ブロック訪問看護ステーション事例発表会 講師</p> <p>日本家族看護学会第26回学術集会 ランチョンセミナー「地域をつなぐ 求められる在宅看護のあり方」 座長</p>
道重文子	<p>日本私立看護系大学協議会理事</p> <p>日本口腔ケア学会評議員</p> <p>日本看護診断学会理事</p> <p>日本看護研究学会評議員</p> <p>日本看護研究学会専任査読委員，編集委員</p> <p>日本看護技術学会査読委員</p> <p>大阪府看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル，講師，「看護管理実践計画書作成」，2019</p> <p>京都府看護協会認定看護師教育課程ファーストレベル，講師，「グループマネジメント」，2019</p> <p>高槻中央地域包括センター介護予防教室講師，「口の健康は命の源」，2019.7.24</p> <p>第18回日本口腔ケア協会学術大会シンポジスト，「基礎看護学教育で育成すべき口腔のアセスメントと教育」，2020.2.22</p> <p>第51回日本看護学会（看護管理）抄録選考委員</p> <p>The 6th WANS congress 企画委員</p> <p>大阪医科大学雑誌編集委員</p>
元村直靖	<p>元村直靖：日本トラウマティックストレス学会会長</p> <p>元村直靖：日本精神神経学会会員</p> <p>元村直靖：日本保健医療行動科学会監事</p> <p>日本神経心理学会評議員</p> <p>日本高次脳機能障害評議員</p> <p>日本認知療法学会会員</p> <p>日本認知療法・認知行動療法会員</p>
吉田久美子	<p>日本看護医療学会評議委員</p> <p>日本看護医療学会査読委員</p> <p>滋賀県彦根市要保護児童対策協議会 副会長（2012年～現在に至る）</p> <p>滋賀県近江八幡市要保護児童対策協議会 会長（2018年～現在に至る）</p> <p>愛知県東海市妊産婦・子育て包括支援事業およびまちづくりアドバイザー（2018年度～2019年度）</p>

	<p>社団法人大阪府看護協会教育委員会 地域包括ケア部会委員 (2016年～2019年年度)</p> <p>社団法人大阪府看護協会保健師職能委員 (2018年～現在に至る)</p> <p>滋賀県彦根市健康推進課 保健師研修会 スーパーバイザー (2008年度～現在に至る)</p> <p>「ハイリスク母子 事例検討会」4回</p> <p>2019年度 彦根市要保護児童対策協議会代表者会議 2回</p> <p>2019年度 東海市妊産婦・子育て包括支援事業実施検討会議 3回</p> <p>2019年度 東海市講演会 講師 「地域での子育て, 親育ちを考える」</p> <p>2019年度 東海市保健師研修会 講師「保健市活動の楽しさー地域づくり」</p> <p>2019年度 おうみはちまん健やか親子21計画推進委員会 委員長</p>
瓜崎貴雄	<p>日本精神科看護協会大阪府支部 看護研究発表会 評価(査読)委員</p> <p>日本看護研究学会第45回学術集会 企画委員</p>
カルデナス 暁東	<p>市立柏原病院看護研究 講師, 2019年4月 - 2020年2月</p> <p>留日中国人生命科学協会 理事</p> <p>第118回日本皮膚科学会総会 教育講演33 講師「QOL向上へ, 患者様の心に寄り添う“メイクセラピー”」, 2019年6月6 - 9日</p> <p>Expert Web Seminar: 講師「皮膚疾患におけるメイクセラピーの重要性について」, 2019年11月11日</p> <p>ヤンセンファーマ株式会社 WEBコンテンツ「トモノワ」: 監修 「乾癬患者のメイクアップについて」</p> <p>シンメディカル糖尿病セミナー 世話人, 2019年11月16日</p> <p>日本看護研究学会第45回学術集会 企画・運営委員</p> <p>第51回日本看護学会ー看護管理ー学術集会 抄録選考委員</p>
草野恵美子	<p>日本公衆衛生看護学会「日本公衆衛生看護学会誌」査読委員</p> <p>日本小児保健協会「小児保健研究」査読委員</p> <p>日本在宅ケア学会「日本在宅ケア学会誌」査読委員</p> <p>日本地域看護学会第22回学術集会査読委員</p> <p>日本看護研究学会第45回学術集会 企画・運営委員</p> <p>高槻市2019年度第1回母子健診従事者スキルアップ研修, ファシリテーター, 「育てにくさを感じる親に寄り添う支援について」, 高槻市保健センター, 2019年9月6日</p> <p>高槻市2019年度第2回母子健診従事者スキルアップ研修, 講師, 「乳幼児健診における保健指導について考える～地域資源の活用～」, 高槻市保健センター, 2019年11月13日</p> <p>令和元年度第1回中和保健所母子保健推進会議, 講師, 「母子保健分野におけるポピュレーションアプローチの考え」, 中和保健所, 2019年9月27日</p> <p>交野市2019年度第1回交野市養育支援訪問事業研修会, 講師, 「養育支援訪問事業の意義と基本的視点～支援が要る家庭へ届く支援へ～」, 交野市立総合保</p>

	<p>健福祉センター，2019年10月4日</p> <p>交野市 2019年度第2回交野市養育支援訪問事業研修会，講師，「虐待予防の視点をもった家庭訪問」，交野市立総合保健福祉センター，2019年10月11日</p> <p>第9回大阪ショートステイ連絡協議会公開講演会，講師，「障害児親子へのライフステージを通じた地域支援～地域保健の立場から～」，愛仁会看護助産専門学校ナイチンゲールホール，2019年10月26日</p>
久保田正和	<p>久保田正和(2020)。「脳の血流測定で認知症のリハビリ支援」，講演，第15回関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学三大学医工薬連環科学教育研究機構シンポジウム，(高槻)</p> <p>高槻市介護認定審査会委員</p> <p>糖尿病スキルアップセミナー世話人</p> <p>京都大学医学部人間健康科学科非常勤講師</p> <p>はくほう会医療専門学校非常勤講師</p> <p>日本看護研究学会第45回学術集会 企画・運営委員</p> <p>たかつきサステナビリティ事業に関する委員会委員</p> <p>認知症専門職人材育成プロジェクト委員会委員</p> <p>認知症を理解し地域で支える会，「家族相談交流会」，ファシリテーター，2019年7月15日</p> <p>認知症を理解し地域で支える会シンポジウム「地域で支える服薬介助」，座長，2019年9月8日(高槻)</p> <p>たかつき認知症サステナビリティ事業，ワークショップ ファシリテーター，2019年9月28日</p> <p>2019年度第1回高槻市地域包括ケア推進会議委員，2019年10月30日(高槻)</p>
小林道太郎	<p>臨床実践の現象学会 事務局，編集委員</p> <p>日本看護倫理学会 査読委員</p> <p>日本看護研究学会第45回学術集会 企画・運営委員</p> <p>明石医療センター附属看護専門学校 実習指導者会学習会「実習場面における現象をどのように捉え実習指導に活かすとよいかを考える ―現象学的視点を中心にして―」講師，2019年7月16日，明石医療センター附属看護専門学校.</p> <p>日本看護研究学会第45回学術集会 看護研究セミナー 第1部「質的研究をはじめするために ―現象学的アプローチを中心に―」講師，2019年8月19日(大阪国際会議場)</p>
寺口佐與子	<p>日本移植・再生医療看護学会 理事 事務局</p> <p>日本移植・再生医療看護学会 査読委員</p> <p>日本看護研究学会第45回学術集会 企画委員 事務局</p> <p>日本クリティカルケア看護学会第16回学術集会 企画委員</p> <p>日本移植・再生医療看護学会第16回学術集会 企画委員</p> <p>日本看護学会学術集会第51回 抄録選考委員</p>

土肥美子	日本看護科学学会和文誌専任査読委員 日本看護研究学会第 45 回学術集会（開催地：大阪市） 実行委員 大阪府看護協会大阪府専任教員養成講習会看護教育評価論 講師 藍野大学大学院看護学研究科看護教育論 非常勤講師 医学教育共同利用拠点岐阜大学医学教育開発研究センター第 72 回医学教育セミナーとワークショップ ファシリテーター教員 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター令和元年度看護学教育ワークショップ ファシリテーター教員
仲下祐美子	日本看護研究学会第 45 回学術集会 看護研究セミナー，講師，「量的研究をはじめめるためにーデータ分析の基礎ー」，2019 年 8 月 19 日 大阪府開発審査会委員 大阪市開発審査会委員 大阪市介護認定審査会委員 大阪市高齢者等在宅医療・介護連携に関する相談支援事業受託法人選定委員 日本看護研究学会第 45 回学術集会 企画・運営委員
府川晃子	2019 年度 兵庫医科大学病院 第 5 回 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム講師「エンド・オブ・ライフ・ケアにおける文化への配慮」 2019 年度 神戸市看護大学 がん看護インテンシブコース講師「がん治療期の高齢患者へのケア」
山崎 歩	北摂四医師会 糖尿病フォーラム世話人 日本糖尿病教育・看護学会誌 編集委員会専任査読者 日本糖尿病教育・看護学会第 24 回学術集会 抄録集査読者
川北敬美	日本看護研究学会第 45 回学術集会 企画・運営委員 第 51 回日本看護学会（看護管理）抄録選考委員
佐野かおり	日本運動器看護学会運動器看護実践の質向上委員 日本看護研究学会第 45 回学術集会 企画・運営委員 日本運動器看護学会第 20 回学術集会 企画委員 日本股関節学会第 46 回学術集会：一般演題（看護）4「周術期管理」座長 日本運動器看護学会第 19 回学術集会：テーマ別情報交換会「看護のバトンをつなぐ 地域ー外来ー病棟」開催
竹 明美	第 45 回日本看護研究学会（開催地：大阪市）企画・運営委員（会場係）
二宮早苗	日本看護研究学会第 45 回学術集会 運営委員
樋上容子	The Japan Centre for Evidence Based Practice 委員 Geriatrics and Gerontology International 査読者 Japan Journal of Nursing Science 査読者 大阪医科大学サステナビリティ 2019 年度 下期第 3 回認知症研修会，講師，「生活リズムを整える」 大阪大学 非常勤講師「健康科学の考え方」 日本看護研究学会第 45 回学術集会 運営委員

大橋尚弘	大阪医科大学看護学部 学生生活支援センター委員 日本看護研究学会第 45 回学術集会 企画・実行委員 日本家族看護学会編集委員 事務局 大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会（特定分野）、大阪府看護協会 講師，2019 年 11 月 19 日～12 月 3 日（大阪）
倉橋理香	日本看護研究学会第 45 回学術集会 企画・運営委員
近澤 幸	高槻地区周産期地域連携の会，高槻保健センター，2019 年 10 月 17 日
土井智生	日本慢性看護学会第 13 回学術集会 おやつセミナー座長 日本看護研究学会第 45 回学術集会 協力員
原 明子	日本看護研究学会第 45 回学術集会 企画・運営委員
山内彩香	日本看護研究学会第 45 回学術集会 実行委員
山埜ふみ恵	日本看護研究学会第 45 回学術集会 企画・運営委員
山本暁生	FIoT コンソーシアム第 2 回メディカル・ウェルネスデバイス分科会講演，「これからの医工連携研究への期待と課題」，2020 年 2 月 18 日，東京 学校法人摺河学園姫路ハーベスト医療福祉専門学校非常勤講師，「統計学」，15 コマ 神戸大学大学院保健学研究科 研究員（2021 年 4 月～2020 年 3 月）

## VI. 地域・社会貢献



## 地域・社会貢献

池西悦子	大阪医療看護専門学校教育課程編成委員会委員 医療安全実践教育研究会世話人
佐々木綾子	高槻地区周産期地域連携の会での活動（副委員長，定例会出席，セミナー企画・運営・評価） 日本看護研究学会第45回学術集会企画・運営委員
鈴木久美	乳房健康研究会理事 大阪 QOL の会（患者会）世話人 なにわ乳がんを考える会世話人 2019年度ピンクリボンアドバイザー上級認定研修会 講師「乳がん啓発教育に活用できる行動変容を促す理論」（2019.9.28） 2019年度ピンクリボンアドバイザー上級認定研修会 講師「乳がん患者のサポートのあり方について」（2019.9.29）
田中克子	シンメディカル糖尿病セミナー 世話人（2019.11.16） 日本看護研究学会第45回学術集会企画・運営委員
津田泰宏	看護学系漢方教育研究会 世話人
泊 祐子	岐阜県重症心身障がい児者看護人材育成研修会，「重症心身障がい児者の看護概論」講義（平成26年度より） 大阪医科大学看護学部家族看護研究会 在宅看護学と共催（平成23年より）
真継和子	在宅看護研究会 主催 大阪医科大学家族看護研究会 小児看護学領域と共催倫理事例研究会（大阪医科大学大学院看護学研究科修了生主催）アドバイザー
道重文子	NPO 阪神高齢者・障害者支援ネットワーク，ふれあい喫茶での健康相談 関西オーラルマネジメント研究会ハンズオンセミナーの開催，2019.6.9 大阪医科大学ブランディング事業，Come Kamu サロンの運営
吉田久美子	大阪医科大学ブランディング事業，Come Kamu サロンの運営と講義
カルデナス 暁東	高槻市認知症予防講座 講師「カラーを楽しもう」，2020年1月21日 高槻市社会福祉事業団主催未来健康講座 講師「メイクアップが女性に与える影響について」，2019年7月1日
草野恵美子	私立大学研究ブランディング事業「健康づくり」講座「カムカムサロン」ミニレクチャー講師，「統計に見るシニア世代の生活と健康」，2019年10月26日
久保田正和	認知症を理解し地域で支える会 協力会員 医工薬連環科学プロジェクト委員会 委員 私立大学研究ブランディング事業「健康づくり」講座「カムカムサロン」ミニレクチャー講師，「認知症予防について」，2019年7月11日
寺口佐與子	リンパ浮腫 Net 世話役 第15回リンパ浮腫 Net 症例検討会 運営，座長，2019年5月18日（大阪）
土肥美子	私立大学研究ブランディング事業「健康づくり」講座「カムカムサロン」ミニレクチャー講師担当教員

仲下祐美子	私立大学研究ブランディング事業「健康づくり」講座「カムカムサロン」ミニレクチャー講師「受動喫煙のリスク」, 2019年5月16日
山崎 歩	大阪くるみの会 (小児1型糖尿病の会) 運営委員
竹 明美	私立大学研究ブランディング事業「健康づくり」講座カムカムサロンミニレクチャー講師「東洋医学的養生 昔の人もすごかった」, 2019年9月19日
樋上容子	認知症を理解し地域で支える会 協力委員 私立大学研究ブランディング事業「健康づくり」講座「カムカムサロン」ミニレクチャー講師, 「認知症と上手に暮らすには」
柴田佳純	私立大学研究ブランディング事業「健康づくり」講座「カムカムサロン」ミニレクチャー講師, 8月
山埜ふみ恵	私立大学研究ブランディング事業「健康づくり」講座「カムカムサロン」ミニレクチャー講師
山本暁生	発達支援モデル教室すまいる・ぽっとらつく ボランティア, 2015年4月～ 神戸市総合児童センター療育指導事業 YOYOクラブ ボランティア, 2019年12月

## VII. その他



その他

赤澤千春	大阪医科大学附属病院形成外科外来でリンパ浮腫看護外来
佐々木綾子	大阪医科大学助産師卒業生の会「花ももの会」運営 大阪医科大学大学院看護学研究科 母性看護学領域修士生の会「サクラの会」運営
鈴木久美	2019年度日本がん看護学会学術奨励賞研究部門 受賞 (2020.2.22) 受賞論文: 鈴木久美, 大畑美里, 林 直子他 (2018). 乳がん早期発見のための乳房セルフケアを促す教育プログラムの効果, 日本がん看護学会誌, 32, 12-22.
田中克子	中国山西医科大学看護職の日本における慢性疾患患者の継続看護研修プログラム 担当
瓜崎貴雄	FROMPAGE 主催国公立大学・私立大学合同進学ガイダンス 夢ナビライブ 2019 (大阪会場)「人の気持ちをよりよく理解するためには?」, 講師
カルデナス 暁東	大阪医科大学附属病院皮膚科外来「メイクセラピー看護外来」従事 中国山西医科大学看護職の日本における慢性疾患患者の継続看護研修プログラム担当
草野恵美子	大阪医科大学附属病院看護研究セミナー, 講師, 「看護研究の意義と方法研究における倫理的配慮」, 2019年8月5日 大阪医科大学附属病院看護研究セミナー, 講師, 「看護研究計画書」, 2019年10月17日
久保田正和	大阪医科大学看護研究雑誌, 査読者, 9, 2019 Reviewer certificate of Japan Journal of Nursing Science
寺口佐與子	大阪医科大学附属病院 形成外科外来「リンパ浮腫看護外来」従事
土肥美子	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 19H03926 細田泰子, 片山由加里, 土肥美子, 根岸まゆみ, 北島洋子. 看護学習者の臨床判断を拓くルーブリックと臨床学習環境づくり支援プログラムの開発. 2019年4月~2023年3月. 研究分担者
府川晃子	2019 Best Poster Presentation Award, 4th Asia Pacific Oncology Nursing Society Conference (インド, ムンバイ)
竹 明美	平成31年度大阪医科大学研究拠点育成奨励助成: 「シミュレーションを活用した多職種連携教育支援体制の構築~医看薬融合教育のユビキタスな普及を目指して~」開催, 第2回医看薬融合教育研究会におけるテーマ別ディスカッションファシリテーター (2020年1月20日 開催: 大阪医科大学)
樋上容子	Reviewer certificate of Japan Journal of Nursing Science
大橋尚弘	障害学生支援実務者育成研修会 [基礎プログラム] 修了, 2019年8月3日 先見の会メンバー 在宅看護研究会主催
柴田佳純	大阪医科大学附属病院看護研究セミナー (OMC ラダーII 必修研修) 講師
近澤 幸	大阪医科大学助産師卒業生の会「花ももの会」

## 編集後記

「大阪医科大学看護学部・大阪医科大学大学院看護学研究科年報 2019年度」を無事に発刊することができました。発刊におきまして皆様のご尽力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。大阪医科大学看護学部が年報を発行して9年となりました。大学院の活動も充実発展してきており、この号から、表題には看護学部と大学院看護学研究科を列記し、内容は分けて掲載することになりました。

この年報は、大阪医科大学看護学部・看護学研究科として、1年間の大学と大学院運営の取り組みや教育・研究活動および地域や社会におけるさまざまな活動の内容をPDCAにそって報告しています。昨年度は、大学基準協会大学評価を受けることになり、書類づくりに追われましたが、この年報が役立ちました。点検する中で、今後の活動や自己点検等に役立てていただけましたら幸いです。

最後に年報作成にご協力いただきました教員をはじめ関係者各位の皆様に深くお礼を申し上げます。

大阪医科大学看護学部 年報編集委員会



大阪医科大学看護学部・大阪医科大学大学院研究科  
看護学部 2019 年度年報

---

**発行日** 令和 2 年 7 月 31 日  
**発行** 大阪医科大学看護学部 大阪医科大学大学院看護学研究科  
〒569-0095 大阪府高槻市八丁西町 7-6  
**編集** 看護学部 年報編集委員会  
吉田久美子 寺口佐與子 樋上容子 山内彩香  
**制作** 知人社